

2017年4月14日

## 授業に対する学生のコメントと教員 Y による応答

★以下のコメントは、提出した順になっています（一番下がいちばん先に提出されたもの）。

まず、今回の講義の要約は、総合科学入門講座では、論理的思考力の養成と物事の多面的理解を目標としている。授業に対するコメントを書く際には、感想ではなく、客観的な根拠のある、論理的な主張を述べなければならない。その手順は、1 授業の内容をまとめる。2 意見・質問を書く。3 意見の根拠や質問をする理由を書く。注意する点としては、具体的に書くこと、自分の頭で考え、理解したことを書くことだ。

論理的思考力の養成の最初の一步として、説得力のある文章を書く能力が必要である。頭の中であれこれ考えたり、頭の中にあるものを取り出すのではなく、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」の繰り返しによって、文章を作成する。論文・レポートとは、根拠のない思いつきや単なる感想ではなく、自分の意見を根拠づけて主張するものである。高校までの学習や何も調べないでその場で書く入試の「小論文」とは全く異なるものだ。また、論文・レポートは、賛否両論のある話題やまだ正解の見つかっていない問題について書くのであり、調べてきたことを報告し、正解を探してくる「調べ学習」とも異なる。

コピペとは、引用であることを示さないことである。また、引用とは、1 出典を明記する。2 引用箇所をカギかっこでくくって明示する。3 引用箇所は少しだけで、自分の問題意識を解決するという目的で利用することだ。読者が出典を速やかに確認できるように、ウェブページ・本・論文それぞれにおいて「出所情報」に示すべき情報がある。

大部分が「引用」になってしまう理由は、情報源を一つしか見ないからだ。その際は、あえて反対意見を探すことがポイントである。また、論じるべきことを発見するには、自分の興味や関心ではなく、賛否両論が対立しているような社会的・学問的に論じるべき点を解決するという目的で書くことが重要だ。

次に、今回の講義を終えての意見は、自分の意見を主張する際には、自分の意見に肯定的な立場からだけでなく、否定的な立場からも考えることが必要だ。その理由は、様々な視点で深い理解が求められることとなり、より説得力のある主張が可能になるからである。また、異なる立場から考えることで、自分の主張が一部分において、論理的でないと気づくことがあることも理由に挙げられる。

コメント [y1]: それはそうですが、より根本的な理由は、反対の立場や事例を検討しないと、論理的に正しい主張ができないからです。教科書 51～52 頁参照。

最後に、今回の講義での主張に対する意見は、レポート作成において大切なことは反復練習であるという主張に賛成である。なぜなら、一朝一夕で技術を身につけるということは容易ではなく、日々地道に繰り返すことがどのような分野においても重要であるからだ。自分の意見を伝えるというスキルを向上させる一つ的手段として、レポート作成に積極的に取り組んでいくべきだ。

コメント [y2]: 頑張ってください。

今週の授業では、総合科学入門講座の意義と授業の予定、そして論理的な文章の書き方について学習した。

コメント [y3]: 短すぎ。他の人のコメントを参考に、しっかり自分の意見を書くように練習してください。

総合科学入門講座で学び、身につけることは論理的思考力と物事の多面的理解である。今回の授業では、レポートの書き方について学んだ。レポートとは論理的な思考を必要とし、自分の感情を書き綴るということではなく、きちんと調べ、根拠を持った文章でなければいけない。そして、1番重要なことはレポートを書く時には出典を明記しなければならないということである。明記していない場合、コピーとなり、大学においてカンニング行為とみなされてしまう。引用をもとに自分の考えを論理的に書くことでレポートとなる。

自分は昨年この授業を落とし今年再履修となったことを後悔しているが、授業を受ける以上自分の身になるように受けたいと思う。

今回はレポートの書き方・書く上で必須となること、例えば自分の意見に対する根拠を書くことを学んだ。根拠を書かなければならないのは、もしそれがなければその意見は自分の主観的な意見で単なる感想になってしまうからだ。高校生の時に書いた小論文ならばそれで評価されていたが、大学のレポートでは客観的で根拠のある意見を書くことが求められる。そのために web や文献の情報を調べ自分の意見の根拠となる情報を見つけ示すことが必要となる。また、自分とは反対の意見を示し比較しながら書くことで、より説得力のある文を書くことができる。ただし、参考にした情報はきちんと出所表示しなければならない。これは情報を「引用」したことをはっきりと示すためである。

#### 総合科学入門講座へのコメント

今回の講義は、「レポートの書き方」についてだった。

「レポート」を書くことはこれからの大学生活で何度も課されることになるため、「レポートの書き方」はこれからとても重要であり、必要不可欠な技術であろう。

講義において、まず、「感想」と「レポート」の違いについて教わった。

「レポート」では、「感想」では重要視されない要素である「客観的根拠のある論理的主張」が必要だという内容だった。

次に、「コピペ」と「引用」の違いについて教わった。

「レポート」は自分の考えを提示するための一つの手法であり、他人が考えを述べた文章を引用した部分と自分が考えを述べている文章とを明確に区別する必要があるという内容だった。

今回の講義を聞いて、「感想」は「自分の考えを他者が理解してくれるか、あるいは自分の意見を他者と共有できるかどうか」を重要視していないものだと感じた。

そのように感じ、私は「レポート」の意義は自分の考えを他者が理解できるように表現し、共有することにあると考えた。

私が考えた「レポート」の意義にある、「自分の考えを共有する」というものは大学受験などで設けられている『国語』や『数学』などの試験問題にある「自分が考えた解答を文章の形で記述する形式の問題」にも通ずるものだと感じた。その訳は、「自分が考えた解答を文章の形で記述する形式の問題」では自分の考えをどのように書けば、採点者と考えを共有でき、採点者に自分の考えを理解してもらえるかを解答者に考えさせることで、論理的な文章を書く能力を問うているのではないかと思ったからだ。

上記のような考えを持ち、「レポート」は自分の考えを他者に示すための一つの手段であるため、「レポート」を書く際には、自分の考えに対する客観的根拠を示しつつ、論理的に書き、自分が書いた「レポート」を読んでいる人に自分の考えを最大限に理解してもらえるように書くべきだと認識した。

今回の授業では、主にこの総合科学入門講座での学習目的、コメント・レポートの書き方について学んだ。この講座では、多方面から物事を客観的にみる論理的思考により、説得力のある主張を書く能力を養うことを目的とし、その手始めに、今回はコメント・レポートの書き方について、が主な内容であった。レポート、論文というものの定義から始まり、多くの類似しているものとの比較によって、さらに最初の定義を明確にした。また、レポート、論文を書く上で、引用とコピペの違いについても詳しく説明を受けた。最後にレポートを書く上で大切なことは、反復練習であり、すぐに技術が身につくわけではないと学んだ。私は今回の授業で、客観的に多方面から物事をとらえ、場合によっては反対意見を用いることで、より自分の主張が明瞭なものとなることを特に理解した。それは、私は大学入試で小論文を書いたが、実際は論文と小論文との違いはあまり理解しておらず、文章量の差であると考えていた。大学での学部オリエンテーションで、レポートについての説明を少し受けたが、大学での論文、レポートというものに対する認識は本当に曖昧なままであった。しかし、今回の説明を受けて、私が同じものではないかと考えていたものとの違いを一つ一つ明確にしていき、論文やレポートの定義のみではなく、ほかのものか

**コメント [y4]:** 「感じる」というのは、感想を書くときの表現です。4月21日の授業で説明します。

**コメント [y5]:** 「～と思ったから、～と感じた」というのでは、あなたの主観的な「感じ」から一歩も外に出ていません。理由や根拠としては、「客観的に正しいこと」を挙げるようにしましょう。

**コメント [y6]:** どんな定義なのか、具体的に書きましょう。

**コメント [y7]:** 「場合によっては」ではありません。必ず反対意見を考慮してください。

ら論文、レポートというものについて位置づけるという、多面的な捉え方をすることで、論文、レポートというものをより理解することができたからである。それに対して、引用とコピペの違いについては、あまり明確な区別ができないままである。確かに、出典を明記したり、引用箇所を鍵括弧でくくって明示したりすることで、コピペとは違うものにすることができるということは理解できている。しかし、情報源を一つしか見ていないことで大部分が引用になってしまう、ということを防ぐために、今回の授業では、反対意見をあえて探してみることがポイントであると言っていたが、反対意見も、引用を用いて具体的に説明することになる場合もあり、結局は自分の知識というものは、何かから知り得た情報であるため、大部分が引用になってしまうのは避けられないことである。このようにまだ曖昧となってしまう部分をこれからの総合科学入門講座で学ぶ予定である。

コメント [y8]: どのように理解したのか、具体的に書いてください。

コメント [y9]: 典型的な「結局〇〇思考」です。対立する意見や情報を知って、それで何も考えない、ということはありません。これから、そういう経験を積んでください。

第 1 回の総合科学入門講座では、最初に大学で学ぶ心構えや身に着けるべき能力を改めて理解した。そして、主に学んだことは大学生活において成績評価に繋がる重要なレポートの書き方についてである。論文・レポートを書くために必要なスキルは、今までに感想文・小論文で必要であった、自分の頭の中で考えた感情的な意見を文章にできない。論理的思考力の育成、つまり筋が通っており、説得力のある文章を書く能力である。根拠を調べ社会的に賛否両論ある話題を書く点で、論文・レポートは感想文・小論文と異なる。

コメント [y10]: それは SIH 道場の課題。

また、レポートを書く上で必ずしも必要となるものは、文章の引用である。引用は使い方を誤るとコピペとなり、評価すら得ることのできない文章として扱われる。重要なのは、出所表示、明瞭区分性、主従関係と呼ばれる引用をする際に気を付けなければいけない 3 点だ。特に出所表示では、「読者が速やかに出典を確認できるようにウェブページの場合は制作者・タイトル・URL・閲覧日時、本の場合は著者・タイトル・出版社・出版年・ページ、論文の場合は著者・タイトル・掲載誌名・出版年・ページ」が示すべき情報である。

コメント [y11]: なぜ出所表示だけ特筆するのか？

コメント [y12]: と

レポートの技術はすぐに身につくものではない。よく調べ、何度も書いて読み返し、書き直すことで養われるものである。

今回の授業では、コピペにならない書き方や、小論文と論文・レポートの違いについて学んだ。コピペにならないためには、出所表示、明瞭区分性、主従関係の 3 点が満たされている必要があることを学んだ。そして、引用の仕方や、引用する際には敢えて反対意見を探して、解釈の違いから対立点や矛盾を見つけて、その部分を集中的に攻めるのが良いことについても学んだ。また、小論文と論文・レポートの違いは、調べた根拠が有るか無いかの違いであることも学んだ。

しかし私は、調べた根拠の有無が違いになるという結論に疑問を抱いた。なぜなら、例

え小論文でも、自分の考えの根拠として偶々今まで調べたことが使えたとしたら、論文やレポートの条件を満たしていると見なせると考えるからだ。確かに小論文の場合、その場で調べることはしていないため、調べながら書く事が条件ならば条件は満たしていないことになるため、それが違いだというのは納得できる。しかし、調べた根拠が必要であるという条件ならば、**以前調べた事を正確に覚えていて、それを根拠として書けば、思いつきではない確実な根拠のある文章が書ける。**そのため私は、調べた根拠の有無が違いだという事に納得がいかない。そこのところをもう少し詳しく知りたい。

コメント [y13]: あえて漢字で書くなら「仮令」。

コメント [y14]: 人間の記憶はかなりいい加減です。たとえばあなたは、「100円玉の裏表の図柄と大きさ」を正確に絵に描くことができますか？信号機の赤と青はどっちが右？三日前の晩御飯のおかずは？たとえ記憶が正確だという自信があったとしても、論文やレポートを書くときには、必ず出店を確認してください。それで納得できないなら、「根拠の有無」というのは、「辞典を明示すること」と理解してください。たとえ内容を正確に覚えていても、その辞典（著者、書名、出版社、出版年、ページ数）を正確に覚えていますか？

#### 4月14日 学術的発想と書き方1

総合科学入門講座において学ぶべき目的は「論理的思考力の養成」、「物事の多面的理解」の二つだ。今日の講義は主に前者についての内容だった。講義の目的として、説得力のある文章を書く能力を養う上で「考える」の定義について改める必要があった。ここでいう考えるとは、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」である。講義の内容としては、**論文の基本的な知識についてだ。「小論文」は何も調べないでその場で書く、「調べ学習」は調べてきたことを報告し正解を探すことであるが、それに対して「論文・レポート」は賛否両論があり、正解が見つからない話題を取り扱うといったそれぞれの違いをみていった。**また、コピーと言われない論文・レポートにするためには**出所表示**を正確に示す必要があるが、ウェブページ、本、論文によって示すべき表示が**それぞれ違う**ことについて注意しなければならない。この出所表示を示すことは**読者の速やかや理解に繋がる**。次に大部分を「引用」にしないためには、あえて反対意見の探した上で二つの立場からの視点を**得ることである。**一つの情報源に偏った意見は避けるべきだろう。

コメント [y15]: 論文の書き方の

コメント [y16]: について、根拠を示しつつ比較検討し、自分の意見を主張することだ。

コメント [y17]: 具体的にどこがどうして違いますか？

コメント [y18]: が速やかに辞典を確認するために行うのである。

コメント [y19]: まず、授業の内容を具体的にまとめて、それに対する疑問を具体的に書いて、それへの自分なりの回答を考えて、その根拠を示す。

今回初めて授業コメントを書いていく中で質問や意見を考えてみたが、なかなか浮かばなかった。高校や受験で小論文を練習し、与えられた問題に対しては勢いよく文章を書くことができたが今回のように自分で探してみると、とても労力を使うことがわかった。**問題提起のない事柄**に対しての疑問や意見を持つコツがあれば教えてほしい。

コメント [y20]: この文の各部分の主語がばらばらで不明瞭なので、意味が不明瞭になっている。

まず、大学でよく使う論文やレポートは、高校で学んできたものとは全く違うということ。根拠を交えたうえで自分の主張を書くことが大事である。その根拠として、約束を守りながら引用を用いることでより他者の理解を得ることができる。また、**反対意見も想定することで相手の疑問や主張を受け止めやすく、さまざまな角度から考えることができ理解も生まれる。**こうした論述をするためには、失敗をしつつも何度も挑戦し練習することが大事である。

賛否両論が対立している話題こそ論じるべきだといいますが、お互いがそれぞれの主張を正解だとして違う考えをもっているのにそれは解決へと向かうのでしょうか？**正解がない**

からこそ意見が分かれるのかもしれませんがそれを正解へと導くためにはどうすればいいのでしょうか。論じることが解決につながるのかどうか疑問に思いました。

今日の講義ではレポートとは何か、ということ学んだ。具体的には、レポートとは小論文のように与えられたテーマについてその場で内容を考えて作成するものではなく、自分の意見についてきちんと根拠を探し出し、時間をかけて何度も読み直しながら作成するものであることや、ほかの情報網からの引用はできるだけ少なくし、出所表示や明瞭区分性をはっきりさせなければいけないこと、などを知った。そんな中、僕が最も共感したことは、「論文の大部分が引用になってしまう理由は、一つの情報源しか参考にしていないからだ。参考にする情報源が決まったら、あえてその情報源とは反対の意見を述べている別の情報源を探せ」ということだ。一つの情報源だけを頼りに論文を書こうとすると、どうしても一方向からしかテーマについて考えられなくなる。物事を多方面から考えられるようになることが総合科学入門講座の目標でもあるので、これからレポートやコメントを作成する時はこの点に特に気を付けていきたい。

今回の授業から以下のことがわかった。一つ目は、考えるということは、調べ、理解し、書き、書いたものを読み直し、書き直す、という作業の繰り返しであるということ。二つ目は高校生の時との違い。三つ目は引用とコピペの違い。四つ目引用する際に示しておくべき情報。五つ目は大部分を引用で埋めてしまわない方法。最後はレポートを書く技術を向上させるには反復練習しかない、ということだ。

以上のことから私は、これから何度も教科書を繰り返し読んで、何度もレポートの書き方を練習することにした。

今回の講義は、論文・レポートの書き方についてだった。書き方といっても、「こういう風には書けば完成する」という内容ではなく、書くための手段や考え方を教えてくださった。

講義中に、賛否両論が対立している問題は、社会的・学問的に論じるべき点と話されていたが、もし、自分が論文にしたいことが、現在まで誰も論文にしていないならば、それは論じてもいいことなのかと疑問を抱いた。

なぜ疑問を抱いたかということ、誰も論じていないということは、書く時点では対立する意見はない。しかし、それを深く広く論じていくうちに、対立意見が生まれることがあるかもしれない。その議論をする土壌を設けるために論ずることもあっていいのではないか、と思った。ただし、そのテーマがこれまで論じられてなかったということは、そもそも論ずるに値しないテーマだから論じられていないという場合もあるだろう。

**コメント [y21]:** 単なる無知で、間違っことを信じている人がたくさんいます。

**コメント [y22]:** その他にどのような解決策がありますか？客観的な根拠に基づいて正しい答えを探すことができないというなら、暴力や権力で決めるしかなくなってしまうと思います。

**コメント [y23]:** そのようなことは言っていない。「主従関係」についての説明を誤解したのでしょうか？

**コメント [y24]:** もしそんなテーマを見つけることができたとしたら、あなたは天才です。

その見極めはどのようにすればいいのかと**考え込んで**しまった。

**コメント [y25]:** 具体的にどんなことを考えたのか書いてください。

今回の授業の内容は、“説得力のある文章を書く力”についてだ。

文章を書く時には、自分の頭の中にある知識を並べるのではなく、外部から新しい情報をインプットし、出来上がったものを推敲していくことが必要だ。

“レポートの書き方”についてはコピペと引用の違いについての話があった。違いは3つあり、出典明記・「」の使用・少量使用だ。そして、読者が出典を速やかに判断できるように情報源によって表示すべき**情報が変わる**。

**コメント [y26]:** 具体的にどんな情報ですか？

また、レポート・論文の大半が引用とならないためには、その意見に対しての賛否を調べてみる必要がある。**その論点は自分の問題意識に即して**見つけなければならない。

**コメント [y27]:** 違います。調べることで自分の問題意識も生まれてくる、と言いました。

これらの技術を身につけるためには**反復練習**が必要だ。

論文・レポートを書くときは、単に感想を書いているようになってはならない。

私は、単なる感想にならないためにはどうしたらいいのかと思った。

私がこのように思ったのは、調べていくうちに自分の考えなどが固まっていき、それを感想ではなく**一意見**としてうまく読者に伝えるためにはどのようにしたらいいのだろうと疑問に**感じたからだ**。

**コメント [y28]:** 「～思った。なぜなら、～と感じたからだ」というのでは、あなたの主観から一歩も外に出ていません。理由や根拠としては、客観的なことを示しましょう。

今している、授業に対するコメントでの「自分の意見を客観的、論理的な根拠のあるものにすると**同じようにする**べきなのか、それともレポートは違うのか。今後のために知りたいと思う。

**コメント [y29]:** 同じようにするべきです。つまり、自分の意見が正しいことの客観的根拠を示すということです。

今回の授業は論理的思考力を養成するための導入、ということでしたが、高校までの小論文や作文の書き方は、今後の論文・レポートでは通用しないことが理解できました。私は文章を書くことにそれほど抵抗はありません。しかし、自分の感情や考えで押し通す面もあるな、とも気づきました。あえて自分と反対意見の情報を集め、論ずるというのも、目から鱗でした。この「総合科学入門」を受講し、主観的ではない、一歩引いた目線から論ずる能力を身につけることを目標にします。ここまで書いてきて疑問に思ったことですが、「意見」と「感想」の違いとは何なのでしょう。「自分の考え方」と「自分の思ったこと」は何がどう違うのか、理解ができません。

**コメント [y30]:** 客観的根拠の有無です。感想は、主観的な感情です。意見は、それが正しいことを客観的な根拠を示しつつ主張するものです。

今回の授業では、論理的思考力の養成の一歩として考えたものを説得力のある文章を書く方法についてとレポートの書き方について学んだ。まず論理的思考力における「考える」とは調べ、知識として蓄え、書いたものを読み直し、推敲するものだということだった。次にレポートの書き方とは自分の意見を根拠づけて主張するものであり、根拠のない

思いつき、単なる感想で書いては良くないものなのだ。また、調べ学習との明確な違いも存在する。それは、調べて報告し、正解を探索する調べ学習に対して、レポートは、自分の意見をきちんと明確にして自分ならではの正解を見つけ主張しなければならないということである。さらに、レポートの書き方の書き方に関しては、他にも引用とコピペの違いというもある。コピペは他の人の主張を完全に模したものであるのにも関わらず自分がさも書いたように見せるものである。それに対して引用とは、他の文献や論文など引用した部分をカギカッコで囲み、出典をきちんと明記しておくことで読者が速やかに確認できるようになるのだ。最後にレポートを書く上で大切なことは引用などからあえて反対意見を探し論じることを発見し、一見ダメでも挑戦してみるということである。この授業はレポート、論文の書き方の難しさを学べるとともに四年後の卒業論文を書く上での第一歩となるだろう。

今回は、説得力のある文章を書くには、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」の繰り返しが必要な要素であることを理解し、文章の種類別の区別を把握した上で、引用とコピペの違いから引用における重要な要素や、論じるべきものを発見するために賛否両論が対立している点を攻めることが重要であり、自分自身の明確な答えを示さない結論は良くないという普段見失っている基本的なことを学ぶ授業内容だった。

論文、レポート、小論文、調べ学習の違いと、引用とコピペの違いや特徴を分かりやすく理解することができた。

しかし、「考えるとは、『調べ、知り、書き、読み直し、書き直す』の繰り返しによって、文章を作成すること」と教わったが、考えることが文章を作成することに果たして繋がるのか疑問に思った。

考えるという行為は、その行為の結果何かを生み出すとは限らず、従って文章を作成できるとも限らないと思ったからである。

今回の授業では「総合科学入門講座」でなにを学ぶのかと今後の大まかな流れ、そして1度目の講義として「レポート・論文」の書き方を具体的に学んだ。具体的な内容としてはレポート、論文とは何かの説明を受けた後、小論文や調べ学習との違い、引用とコピペの違いを学んだ。

まずは「総合科学入門講座」で何を目的として学ぶのか、ここでは『論理的思考力の養成+物事の多面的理解』(授業プリントより)を学ぶ。そして今後の流れとして6月30日までの各講義の予定が説明された。最後に「レポート・論文の書き方」では小論文との違いをわかりやすく教えてくれ、具体的な書き方、書く力の付け方を学ぶことができた。

私が入試のために学んできた小論文はその場で提示された話題について書くだけであっ

コメント [y31]: どんな種類があり、どう違うのか、具体的に書いてください。

コメント [y32]: 「考えること」は、「説得力のある文章を作成すること」とイコールだ、と言いました。考えることが文章に「つながる」ではありません。考えるときには、必ず言語を使いますから、文章にならないのであれば、それは定義上「考えていない」ことになります。(感情的反応とか直感とか)



たが、私の知識ではデータが不十分なことも多くあったため教育・環境・国際・福祉・少子高齢化などの様々な社会問題について事前に調べておくというのを習慣づけていた。今後はこの事前に「情報を集める」という習慣を論文やレポートを書く上で役立てていきたい。

**コメント [y33]:** 論文やレポートでは、調べた情報を正しいやり方で引用することが大切です。

今回の授業では講義の目的、そして論文・レポートの書き方について学びました。まず、講義の目的は論理的思考力の養成の最初の一步として説得力のある文章を書く能力をつけることです。これは論文・レポートを書くにあたりとても重要なポイントとなります。では説得力のある文章とはどういったものなのか。それは自分の感情や感覚でものを言うのではなく客観的で根拠のある論理的な文章のことです。そしてその文章を完成させるために私たちは考えます。しかし「考える」とは頭の中であれこれ考え頭の中にあるものを取り出すことではありません。「考える」とは調べ、知り、書き、読み直し、書き直すことをいいます。この繰り返しによって自分の意見を根拠づけて主張するのです。つまり論文・レポートの書き方は今までの入試の小論文や調べ学習とは全く違ったものということになります。小論文は何も調べないでその場で書くというのに対し論文やレポートは根拠を調べたうえで書きます。調べ学習との違いは賛否両論のある話題なのか、正解がはっきりしているのかという点で全く違ってきます。また文章を書くなかでコピペはしてはいけないとよく耳にしますが引用との違いは何なのか。簡単にいうと引用であることを示すか示さないかという違いです。最後に大切なことは地道な反復練習とのことです。具体的には何をするのが効果的ですか?私は論理的な文章には豊富な語彙力や知識が必要だと考えるため「読書」が挙げられると思いますがこれは反復練習になりますか?

**コメント [y34]:** 読書はすべての学問の基本です。たくさん本を読んでください。ただし、ここで「反復練習」とは、「論理的な文章を書く練習」のことです。具体的には、毎回の授業にきちんとしたコメントを書くようにしてください。それから、他の学生が書いた文章も含めて、教員からの指摘をよく読んで、次回の執筆に生かすようにしてください。

今回の講義で、論文・レポートの基礎知識を教わった。高校まででやった、小論文や調べ学習などとは全く違うものだということがわかった。また、引用は複雑なルールがあり、それをしっかり守らなければコピペになるので、注意する必要があるということ学んだ。特に、引用するときに示さなければならない情報があり、参考にした文献によってその情報も変わってくるので、一つ一つ注意すべきだ。そして、何度も練習することが成長の第一歩だと知った。

総合科学入門を受けて、論文・小論文・レポートの違いが分かりました。また、考えるとは自分の知っている知識を絞り出すと思っていましたが、今日考えるとは「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」ということを学びました。その中でも私は、読み直しという作業が重要だと考えます。自分だけが読み直すのではなく自分以外の人に読んでもらうことで何が足りないかなど知ることができると教えてもらってそう感じました。メールなど

使う機会が少なく、つい書いたまま送ってしまうということがあると思うので読み返すということを忘れないようにしたいと思います。

今まで、レポートなど書いたことがないので、自分の考え、感想などを書くという認識でしたが、それではいけないと感じました。

一つ質問ですが、本や論文を引用する時著者を書かなくてはいけないと習ったのですが、著者には「さん」や「氏」はつけますか？

いろいろな方が講義をしてくれるということで一つでも多くの知識をつけられるよう真剣に講義に参加します。

コメント [y35]: 普通は付けません。教科書49ページ参照。

今回の授業は論文・レポートの正しい書き方について教わった。この授業を受けるまで論文・レポートと小論文の違いなど一つもわからなかった。論文・レポートは根拠を調べたうえで書き、小論文は何も調べないで書く、ということだった。加えて考えると、調べ、知り、書き、読み直し、書き直すことであると教わった。この授業を受けるまで考えると、頭の中で自分の考えを巡らすことであると思っていた。自分の考えの軽薄さに気付かされた。この授業で一番強く感じたのは「書く」ということの重要さだ。考えることが書くことにつながるのであれば、書くということも考えるということにつながるに違いない。これまで書くということは、メモ程度の補助的な要素としか考えていなかった。だから同時に授業で聞いたことをメモするということはどれだけ大事なことなのか気付かされた。今後しっかりとメモを取り考え授業に臨みたい。

今回は、レポートの書き方について学びました。私は、山口先生が最後に「大切なのは、反復練習」と言っていて、その通りだと感じました。授業を受けたからと言って、すぐにうまくレポートを書けるわけではないからです。例えば、スポーツ選手は、日々の努力の積み重ねから素晴らしい結果を生み出すのです。だから、日常生活でも、周りの人が言っていることを鵜呑みにするのではなく、自分自身で考え、筋道のある意見や疑問を持つことで論理的な思考力を身につけたり、そのことを相手に伝えたり毎週あるこの宿題を利用して、説得力のある文章を書けるよう反復練習を努めていきたいと考えています。

今日は学術的発想と書き方についての授業でした。説得力のある文章を書く能力が論理的思考力の養成の最初の第一歩であること、自分の意見が根拠のない思いつきや単なる感想でなく他者と対話する時お互いが納得するような根拠がなければならないことを学びました。今回の授業で一番重要だと思ったところは、引用する時は出所表示、明瞭区分性、主従関係を心にとめておく必要があるということところです。今はまだレポートの書き方の技

術はないが、授業でも言っていたように反復練習で技術を磨いていきたい。

情報源はインターネットや本、テレビなど様々な媒体がありますが、インターネットと本で情報が違う場合はどちらを優先すればいいとありますか?私は今までインターネットの情報が本より多いと思っておりインターネットを優先していました。しかし、今回の授業を受けて本の方が大切ではないかと感じたので質問させていただきました。

**コメント [y36]:** 一般にどちらが正しい、ということとは言えません。間違った本も、間違ったウェブページもあります。複数の情報源で内容が食い違ったら、どちらが正しいかわかるまで、他のウェブページや本や論文を調べましょう。その調査自体が、「対立する情報のどちらが正しいかを明らかにする」というレポートの作成になります。

今回、学術的発想と書き方をテーマに総合科学入門講座を受けた。「論的思考能力の養成」と「物事の多面的理解」が目的である。総合科学入門講座では、毎回、授業に対するコメントを書くことになっている。しかし、感想を書くのではなく、客観的な根拠のある論理的な主張であることが必須だ。授業の内容をまとめ、根拠や理由を添えて意見や質問を書くといった手順である。説得力のある文章を書く能力を形成するには、「考える」、「文章を書く」の概念を間違った認識ではいけない。考えるとは、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」である。繰り返すことで、文章を作成する。論文・レポートとは、自分の意見を根拠づけて主張し、他者と対話するために必須の能力である。何も調べないでその場で書く小論文とは異なり、根拠を調べた上で書く必要がある。正解を要求する調べ学習とは異なり、賛否両論ある話題や正解の無い問題に対して、自分が決めた正解を書く。また、引用とコピペの違いや、ウェブページや本、論文によって出所表示に示すべき情報が異なることを学んだ。大部分が引用にならないためには、あえて反対意見を探し、論じるべき点を発見することがコツである。ダメな結論の例を知ること、具体的に考えることができた。反復練習が大切であることを知った。

私は、頭の中で色々考えて、文章にするのが苦手だ。スムーズに文章を構成し、書くコツがあれば教えてほしい。

**コメント [y37]:** あなた自身が前の段落で書いている通り、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」ことが「考える」ということです。

「書くコツ」としては、授業でも言いましたが、具体的に書くようにしましょう。

第一回目の授業ではレポートの書き方を学んだ。論文とレポートの違いは単なる感想ではないということ。また、何も調べないで書く小論文とは違って論文やレポートは根拠を調べた上で書くということで今までしていた調べ学習とは違うことを学んだ。大部分が引用になってしまう訳は情報原が一つしか見えないからであって反対意見を調べて見ることが大事だと学んだ。

**コメント [y38]:** どこが違いますか?

今回の講義の目的で「考える」ことは「頭の中であれこれ考える」ことではないということだったけれど頭の中で考えることも考えることではないだろうか。なぜなら、情報を調べることで新たな情報を知りそこで既成の事実や、今までの知識を思い返したり比べたりすることで文章を書くのである。誰もがその書くまでの過程において頭の中であれこれ考えを巡らせて書くだろう。

**コメント [y39]:** そう考えてもかまいませんが、そう考えたからといって、「考えること」が「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」だということには変わりありません。

しかし、確かに「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」の繰り返す訓練をすること

で徐々に身につく考え方もあるだろう。それゆえ、私たちは頭の中で膨大な情報を処理し日々のレポートをこなしていく中で「考える」ことの本質がわかっていくだろう。つまり、この大学 4 年間のうちに多くのことを学び、自分のこなさなければならないことを着実にやり何度も思い返して書くことで「考える」とは何なのかわかるのだ。

コメント [y40]: むしろ、「考えることができるようになる」ということでしょうか。

今回の総合科学入門講座では、この講義の概要と日程、大学生としての考え方、レポートの書き方などを講義していただいた。私が講義の中で一番重要に思った内容は、総合科学を学ぶ上では物事を多面的に理解する必要がある、と言うところだ。私は将来地元に戻り、少子高齢化、人口減少が進んでいる私の町を活性化させたいと考えている。その気持ちは高校時代から持っていて、なぜ町の若者が流出し人口減少が起っているのか考えたことがある。その一番の原因は、地域に魅力を感じていないことだと私は考える。実際に、同級生や後輩に「将来地元に戻りたいか」と聞いても、首を縦に振るのは少数派で、多数が「帰りたくない」と答えた。その理由を聞くと、やはり「町には何も無いから」と答える人が多かった。しかし、町に魅力を感じている人もいる。それは都会で育って、田舎に魅力を感じている I ターン者の方々である。このことから、田舎に魅力を感じやすい人は、田舎で育った田舎の価値観を持った人より、都会で育った都会の価値観を持った人であるということがわかる。つまり、田舎だけの価値観しか持っていないから、田舎に魅力を感じられないのだ。そこで多面的に考える力があれば、田舎にいても都会の価値観を持って、田舎の魅力を発見することができるのである。地域活性化を行う上で、多面的な思考はかなり重要なことである。

コメント [y41]: なぜそう考えているのですか？

コメント [y42]: 具体的にいうと、「就職先がないから」ではないですか？価値観だけでは生活できません。

## 1 授業の内容

論理的思考力を身につけるためには、論理的な文章を書くことができる能力が不可欠である。頭の中で考え、取り出してくることでなく、調べ、知り、書き、読み返し、書き直すことの繰り返し文章を作成していくことが、考えるということである。

レポートとは、小論文とは異なり、根拠を自ら調べてから書くものである。また、調べ学習とも異なり、正解を導いてくるものではなく、賛否両論ある問題に、自分の決めた正解を書くというものである。

また、そのレポートを書く際に用いる引用という方法も、正しく行わなければコピペになってしまう。引用をする際には、出典を明記し、引用箇所をカッコでくくり、引用する箇所は最小限にとどめておく。

そして、大部分が引用になってしまう問題点として、情報源を一つしか見ないからというものがあげられる。あえて反対意見を探し、「論じるべき点」を発見することが重要である。自分の興味や関心で書くのではなく、社会にとって大切なことを考えて書くべきであ

る。

レポートを書くのに大切なのは反復練習である。地道な反復練習がレポートを書く能力向上において最も大切なことである。

## 2 意見、質問

賛成意見と反対意見の二つの立場からの主張を比べて考えてみて、自分の最終的な意見を決めるというふうに聞きましたが、**自分の中でどう考えても**どちらとも当てはまってしまふという場合、どちらも正しいという回答はあり得ますか？

いくつも正解がある問題が世の中にはたくさんあって、よく賛否両論である問題となっていますが、自分自身の中にさえ賛否両論があり、決めきれないということがよくあったので、質問させていただきました。

今まで小論文とレポートの違いがいまいちわかっていなかったもので、この授業を機に、改めて考え直すことができて有意義な時間でした。

今回の授業では、考えるとは頭の中であれこれ思いを巡らせることではないことや論文・レポートは意見に根拠があることが必須であること、正しい引用の仕方を学びました。授業の内容は非常に身になるものでした。「レポートっていきなり言われても今までの感想文と何が違うのかが分からない」という初歩的な疑問が、客観的な根拠があるかどうかというシンプルな言葉で解決されたからです。また、早い段階で正しい引用について学ぶことで知らず知らずのうちにコピペをしているということはなくなると思いました。

授業に対して客観的な根拠のある意見を述べるということは非常に難しく、まだどのように書いていけばいいのかわかりません。いろいろな人の授業コメントの中でしてしまいがちないけないコメントの例や逆にいいコメントの例などを**少し紹介**してほしいです。

第1回総合科学入門講座では、説得力のある文章を書く能力を育むことが論理的思考力の養成の第一歩だと学んだ。この講座では、考えるとは頭の中であれこれ考えるのではなく、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」ことだとしていた。しかし、これは違う。そもそも「思考とは考えや思いを巡らせる行為であり、結論を出すなどの一定の状態に達するための精神活動である」という【ウィキペディア「思考」の項目による】ように、調べたり、書いたりすることは精神行動ではなく、レポートを書く手段であるからだ。つまり、考えるというのは、**今、自分が持っている知識の中から使えるものを取り出して**、答えを模索することである。話は変わるが、レポートの前半で考えるについての定義に対し散々否定したが、この講義が有意義になるのは間違いない。文章を書くことは学ぶ上の土台であり、最も重要であるからだ。近年、日本は教育現場でのiPadの導入、スマートフォンの登場などで機械化がますます進行している。**それらが原因で**しっかり考えて文章を書

**コメント [y43]:** 自分のなかで考えていてはいけません。どちらが正しいかは、客観的な根拠を調べることで判断してください。

**コメント [y44]:** 全てのコメントをこのように紹介しています。他の学生が書いたものとそれへの教員のコメントをよく読んで学んでください。

**コメント [y45]:** それでは成長に結びつきません。そもそも、「考えることは精神的活動だ」という前提が間違っています。人間の記憶容量（短期記憶）は7桁ぐらいしかありません（**The Magical Number Seven**）。まともに考えるためには少なすぎる容量です。ペンと紙（ないしパソコン）があつて初めて、人間はまともに考えることができます。

**コメント [y46]:** それらが原因であることの根拠は？

く機会が希薄化している。この講義を通して、しっかり考え、できるだけ多くの文章を書くことで、そのような状況を打破し、将来、社会に出た時に通用するような人材になる必要が誰しもある。

参考文献・ウェブページ一覧

ウィキペディア、「思考」、[ja.m.wikipedia.org/wiki/思考](http://ja.m.wikipedia.org/wiki/思考)、閲覧 21 時 40 分

第 1 回総合科学入門講座は SIH 道場の説明、今後の日程、論文やレポートの書き方の主に引用についての説明であった。引用をする際は、出典を明記する事、引用箇所を示す事、引用を論文やレポートのメインに据えない事の 3 つを守らなくてはならないという事を理解できた。今回の講義に対して特に反対意見も無く、論理的な主張などうかばない。感想のようになってしまいが、次回の講義で更に注意事項を学んだうえで感想ではなく主張を書けるよう努力していきたい。

コメント [y47]: 他の学生が書いていることを読んでください。大部分の人が意見を述べています。

今回の講義では論文やレポートの書き方を、小論文や調べ学習と区別しながら学んだ。小論文が、何も調べずにその場で書くものであるのに対し、論文やレポートは書籍やウェブページ等を資料として活用することで、論理的な根拠を示しながら書き進めるものである。

また調べ学習は、一般的に正しいと考えられている結論を導き出すものであるが、論文やレポートは、賛否両論のある事柄を題材にするため、正解ではなくあくまで自身の意見を主張するものである。

そして、今回は特にコピペと引用の違いを学んだ。コピペにならないためには、引用した資料の出典を明記し、また引用部分を自身の意見を示した部分と明瞭に区別し、そして引用箇所は自身の問題意識を解決するという目的で使用するため少しだけにとどめておく必要がある。

私は、大学生になってからではなく、高校生のうちから論文やレポートを書く練習をするべきだと考える。高校生は授業の一環として調べ学習をすることが多いが、自ら実験を行ってという意味ではなく単に文献やウェブページ等に掲載されていることを発表するという意味での調べ学習は、これからの社会において必要とされる能力を養うためには不適切な方法である。なぜなら、インターネットが発達している現在において、求めている情報を探し出すことは以前よりも容易になったため、既存の情報を見つけ出す能力よりも、その情報から考えられることを活用して自身の考えを示す能力の方が必要だと考えるからだ。そのためには、上記に示した書き方の特徴からわかるように、論文やレポートを書く方が有効である。

よって、私は資料から様々なことを読み取り、読み取ったことを反映して論理的に自身

の考えを主張する能力を長期にわたって育むために、**高校生のうちから論文やレポートを書く時間を設けるべきだと考える。**

**コメント [y48]:** 私もその意見に賛成です。では、それを実現するためにはどうすればよいのでしょうか？

簡単に言うと、論文・レポートは自分の解決したい問題に対して研究し、自分の意見を述べて他人がわかるように論理的に書く。説得力を持たせるために事前に構成をし、わからないことがあれば調べたうえで意見をまとめていく。また、引用した部分がある場合は出典、引用箇所、出版年などを明記する。それに対して、小論文は事前に調べることなく自分の意見だけを述べる。双方の共通することに、単なる感想にならないこと、他人事のようにならないこと、具体性を持たせることなどが挙げられる。論文・レポートはただ書くだけでなく、調べ、知り、書き、読み直し、書き直すことが必要だ。以上の点から、私のこの文章は授業の内容をまとめて事前に構成をせずに書いているので、論文・レポートには当てはまらず、**小論文に当てはまる。**

**コメント [y49]:** しっかり調べて「論文」を書くようにしてください。

今日の授業は「大学入門講座」についての説明及びこれからの学習に必要な説得力のある文章の書き方について学んだ。論文やレポートは自身の感想や思いつきで書いてはならないということ、高校時代に練習していた小論文と異なり根拠を調べたうえで書かなければならないこと、そしてコピペと言われないレポートの書き方と、これから本格的に大学生活を始める私にとって参考になる授業だった。今まで読書感想文を書くか、本やウィキペディアを丸写しした調べ学習しかしたことがなく、客観的な根拠のある論理的な主張の書き方を知らなかったからだ。

授業の中でも特に参考になったのは「考える」ということが今まで私が思っていたことよりもはるかに難しいものであったという点だ。今まで私が「考える」と思い込んでいたのは、「頭の中であれこれ考え、予め決められた答えを導き出す」という浅いものであったからだ。しかし、いきなり**このような高度なことを入ったばかりの学生に課すのは難しい**と私は考える。物事を習得するには確かに練習が必要だが、**練習で失敗したことが単に影響するのはあまりにもリスクが高く、練習とは言い難いのではないか。**そのため私は、成績には一切関与しないが、しっかりと**講師の添削指導が受けられる機会**が必要だと考える。

**コメント [y50]:** 指示対象不明。

**コメント [y51]:** 一回のコメントの比重は100点満点当たり2~3点程度ですから、それほどリスクはありません。「自由参加」にしたら、大部分の学生はレポートなど出しません。

**コメント [y52]:** 3年生になったら「演習科目」で指導が受けられるはずですよ。

今回の講義では「学術的発想と書き方」を主題として『コメントやレポートの書き方』、『論文やレポートとは何か?』、『入試の「小論文」との違い』、『引用とコピペの違い』、『出所表示に示すべき情報』、『なぜ大部分が「引用」になってしまうのか?』等の題目があった。引用とコピペの明確な違いは知らなかったため「出所表示」、「明瞭区分性」、「引用箇所は

少しだけ」、「主従関係」の4つの原則を知ることが出来たのは良い経験となった。

【質問】

1. Wikipedia をレポートに使用してもよいのか。
2. 信頼できるソースとはどのようなものか。

【質問の理由】

1. Wikipedia を講義では例に挙げていたが、Wikipedia を大学での論文の引用には使用できないと聞いたことがある。Wikipedia を使用することは認められるのか。
2. インターネット上の情報は玉石混交であることは理解しているが、新聞等のマスメディアであっても1989年の朝日新聞珊瑚記事捏造事件のように全幅の信頼を置くことは難しいのではないか。信頼できるソースを例示してほしい。

論理的で根拠のある文書を書くのは難しいと思う。そのような文書を書くためには事前の下調べが重要であり、その作業をおろそかにしては論理的で根拠のある文章を書くことはできないと思う。論文や本、フィールドワーク、実験、アンケートなどを十分に実施し、考察を深めていくことも必要である。私は今の段階では論理的で根拠ある文章を書くことはできないが文章を書くことも練習であるからしっかり書いていきたい。あらかじめ大まかな文全体の展開を作ったりすると起承転結がはっきりし、内容に偏りが出たり重複したりすることが減ると思う。また、引用元を忘れず明記することを心がけていきたい。卒業論文や社会に出てからも文章を書くことは避けて通ることはできないのでこの4年間で文章を書くスキルを向上させていきたい。

今回、総合科学入門講座を受けて、改めて「コピペ」というものがどういうものかわかりました。今まででも高校での課題の中でレポートを提出することが何回かありました。そのときにも「先生から出典はしっかり書きなさい。」と言われたのを思い出しました。レポートを書くにあたって調べ物をするのは当たり前のことで、ただ調べたことを自分が考えついたようにするのはいけないとわかりました。また、ネットで調べるよりも、本や書籍で調べた方が、著者もしっかりわかってその情報に確実性が強くなることもわかりました。徳島大学には立派な図書館があるのでたくさん利用しようと思います。大学生になって、レポートを書く機会が増えるので、自分の意見を自分の言葉でしっかり相手に伝えられるように頑張りたいと思います。

第一回目の総合科学入門講座では「学術的発想と書き方」という題目の授業だった。講義の目的としては、説得力のある文章を身につけること。それに加え、様々な文章と比較

コメント [y53]: どのように「使用」するかによります。「一般にこんな風に考えられています。たとえばウィキペディアにはこう書いてあります」といった使い方ならいいですが、自分の主張が正しいことの根拠にするのは不適切です。

コメント [y54]: 「正解を探す」という「調べ学習」の発想です。でも、とりあえず教科書の28ページを読んでください。

コメント [y55]: どこで聞いたのか、出典を明示してください。

コメント [y56]: これからの学習によって、信頼できる情報を見分ける力を身につけてください。

コメント [y57]: 調べているうちに、もとの構成が維持できなくなることも多々あります。「調べ、知り、書き、書き直す」を繰り返して書いてください。



して論文やレポートとの相違点、引用とコピペとの違い、出所表示の際に示しておかなければならない情報について学んだ。

私はこのような授業はもっと早い段階で取り入れたいと考えている。実際、講義を受講して知らなかったことがほとんどであった。小・中・高とこれまで受けてきた授業の中でパソコンを使った授業も存在した。しかし、それらは実用的なものではなく、知っているようなことばかりを教えられていた記憶がある。また、授業の頻度も少なく、パソコンに触れる機会があまりなかったというのが事実である。そのため、パソコンでレポートを作る際に作り方がわからず困っている友人も自分の周りに多くいた。そういった面からも今回の授業は自分のためになった。また、これからは自分からパソコンに触れていく機会を作っていく必要があると考えた。

説得力のある文章を書くためには考えることが大切であり、考えるとは調べ、知り、書き、読み直し、書き直すの繰り返しによって文章を作成することである。小論文とレポートの違いは、根拠があるかないかである。小論文は何も調べないでその場で書くことで、論文やレポートは根拠を調べたうえで書くことである。また調べ学習との違いは正解があるかないかである。調べてきたことを報告して正解を探すのは調べ学習で、賛否両論があり正解が見つからない話題を求めるのが論文やレポートである。レポートで引用を用いることがあるが、コピペにならないために、出所表示に示すべき情報を書くことで読者が出典を速やかに確認できるようにする必要がある。また、大部分が引用にならないために情報源を一つに絞らずに、あえて反対意見を探してみたり、二つの立場からの視点や矛盾を探ることが大切であり、また、論じるべきことを発見して、自分の興味や関心で書かないようにするのが必要である。

今回の講座を聞いて、パワーポイントで長文の例文を示してくれたら良かったなと思った。

私は高校生の時に国語の授業で文の提出の際に高い評価を受け文を書く力があると言われてきた。しかし、私がこれまでに書いていたのは頭の中にあることだけであり、自分が既に知っている知識を使っただけである。しかし、今回の授業を受けて私がこれから書かなければならないレポートとは、今まで私が書いてきたものとは全く異なると分かった。私は主観的な意見を主張することが多い。しかし、これから大学生の私に求められている力は客観的な根拠のある意見である。日常生活から客観的に納得を得られる意見を発言することを心がけていきたい。

質問なのですが、先生はレポートの提出方法を説明する際に「スマホを使って提出すると見にくく良くないのでパソコンを使うように」と言われましたが、それは先生がスマホ

コメント [y58]: 私も賛成ですが、そのためにはどうすればよいですか？

コメント [y59]: このファイルをよく読んで学んでください。

コメント [y60]: スマホは画面が小さく、一度に表示できる行数が少ないために、広域的に（少なくとも30~40行程度）視界に入れることができないため、「読み、書き直す」という作業に不向きだという趣旨で説明しました。  
それから、就職したらパソコンの使用が必須になります。今のうちから使いこなせるようにしてください、とも言いました。

を使い慣れていないことと、目が良くないという主観的な意見であったように感じました。私の横に座っていた友人にも同じことを話したところ「確かにあれは主観的だった」と言っていました。しかし、これも私の主観的な考えかもしれないのでレポートの提出方法についてのお話が客観的な根拠のある論理的な主張であったのか質問させていただきます。

この授業ではこれからの大学生活で必要とされる論文やレポートの書き方を学びました。レポートは根拠を調べて書くこと。情報源が一つだけだから大部分が引用になってしまうこと。反対意見も見ること。考えるとは調べ、知り、書き、読み直し、書き直すの繰り返しによって、文章を作成すること。論文やレポートには感想、思いつきを書かないこと。説得力ある文章を書いていくことで論理的思考力が身につく、客観的な根拠のある論理的な主張につながるなどこれまで私が知らなかったことも知れたのでとても有意義な授業でした。

プリントに書いてある大切なことは「反復練習」ということに対して一つ質問があります。私は論文やレポートを書くことが苦手なので練習が必要です。しかし、レポートを書く機会は課題提出の時しかありません。得意になるには他のこともした方がいいですか。それとも課題を出して慣れていけばいいですか。

今回の授業では、レポートの書き方を中心にその点における注意事項を色々と学習しました。第一に説得力のある文章を書くためにはどうすればよいのか?という疑問点から、「考える」や、「文章を書く」という本当の定義をまずは教わり、この講座で使う教科書「コピペと言われないレポートの書き方教室」に書かれていることを学んでいきました。特に教科書の題名にもあるようにコピペ、いわゆるレポートや論文を書くときに不正行為となり新入生が陥りやすいことについて勉強しました。引用とコピペは何が違うのかであるとか、論文・レポートと入試の「小論文」や「調べ学習」や入試の「小論文」との違いを明確に区別することができた。最後にはきちんと授業の内容をしっかりと理解していたのかを計るために簡単な小テストを行った。終始ユーモラスで興味をそそられた授業であった。レポートや論文のことについて全く無知であった自分にとってはとてもわかりやすい講義になった。

今回の授業内容は、始めに大学入門シリーズはSIH道場と総合科学入門講座と課題発見ゼミナールという3つのパートに分かれており、それぞれに異なる目的があるということだった。次に総合科学入門講座についての説明で、これからの日程や授業ではノートを作って使うことやwebに授業の資料が載っていることや掲示板についてなどを聞いた。ま

**コメント [y61]:** 書いたものを他の人に読んでもらってコメントをもらう必要があります。そのために、毎週課題を出し、このフィードバックのファイルを他の学生の書いたものも含めてよく読むようにしてください。

**コメント [y62]:** 具体的にどう違うのか、説明してください。

**コメント [y63]:** 具体的にどんな目的ですか？

た、毎回授業に対するコメントはマナバを使って書くことや、そのコメント自体の書き方を学んだ。次に、本題のレポートの書き方について学んだ。論理的思考力養成の最初の一步は説得力のある文章を書く能力であることや、考えるとは、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」ことだということを知った。教科書は「コピペと言われないレポートの書き方」だ。論文・レポートとは自分の意見を根拠づけて主張することで、小論文や調べ学習とはまったく違うものだということを教わった。そして、引用とコピペの違いはコピペは引用であることを示さないのに対し、引用は 1 出所表示をしている 2 引用箇所は「」でくくって明示する 3 引用箇所は少しだけという 3 つの条件を満たすことであるということ学んだ。そして、大部分が引用となってしまうようにするために、反対意見をあえて探してみることや論じるべきことを発見するが必要だと学んだ。また、ダメな結論の例も何例か見た。そして最後にレポートを書く際に大切なのは反復練習だということ学んだ。

私が疑問に思ったことの 1 つ目は、どうしたら具体的に簡潔にまとめることができるのかということだ。なぜなら私は文章をまとめようとする大抵長くなってしまいう上に具体的に書こうとすると、さらに長くなってしまふからだ。これでは、これからレポートを書く際に困ってしまうと思うので、是非そのやり方を知りたい。2 つ目はどうすれば客観的な根拠のある論理的な主張になるかだ。なぜなら私は客観的に書くのが苦手で、どうしても主観が入ってしまいがちで、論理的にというのや筋道を立てて書くというのが苦手だからだ。

今回の総合科学入門講座の内容は論理的思考力の養成の最初の一步として説得力のある文章を書く能力を身につける事他に、「考える」ことは頭の中であれこれ考えることではなく、調べ、知り、書き、読み直し、書き直すことの繰り返しによって文章を作成することである事を学んだ。さらに、論文やレポートは根拠のない思いつきや単なる感想ではなく、自分の意見を根拠づけ主張し、他者と対話するために必須の能力である事を教わった。私は日頃から事例に関して何か意見を出す際は反対意見を聞くようにし、問題意識を持って議論を行うようにしている。ただ、それらの議論は「考える」ことができているとは感じられていない。なぜなら、誰一人として根拠を示すことができず、1 次情報が明確ではないからだ。私はもっと調べ、知る必要があり、意見を出す際や文章を書く際は十分に推敲しなければならない。そのためには地道に反復練習をしていかなくてはならず、興味関心ではなく「問題」を解決する目的であることを自覚する必要がある。他人事や非現実的にならず、自分が決めた正解を書くべきである。

最後に質問をさせていただきます。普段から友人と様々な事例に関して議論をする際も客観的に根拠のある、論理的な主張をしなくてはならないのでしょうか。また、会話の流れから急に議論が始まってしまった場合、明確な根拠をその場で示すことができない場合

**コメント [y64]:** 一般的な方法はありません。反復練習、それから教員のコメントを読むこと。他の学生が書いたものも読んで参考にする事。

**コメント [y65]:** どんな場でどんな議論をするかによります。基本的に、議論するときには客観的な根拠を示した方が良いですが、友人との普段の会話で、論文並みの厳密さを求めることは難しいでしょう。しかし、会社での会議とか、政府の審議会とか、学会での議論など、厳密さが求められる場合には、あらかじめ資料を用意して、客観的な根拠にもとづく合理的な結論が得られるようにすることが必要です。

は主張をすることは控えたほうがいいのでしょうか。これらの質問をする理由として、もし具体的で客観的に根拠のある論理的主張が絶対的に必要であるとしたら、自分の意見を言うことが難しくなり、意見交換の妨げになるのではないかと危惧したからです。

総合科学入門講座では説得力のある文章を書く能力を身につける方法、考えるとゆう事の実際の意味などを知る事ができました。小論文は何も調べていない状態でその場で書くとう作業をするが、論文やレポートは根拠を調べた状態で書くとうもので両者の違いは明確でした。根拠の無い思いつきや単なる感想だけで構成された文章ではその文章を見た相手が信じがたく説得力が無いと感じてしまいます。ですが、いくら説得力のある文章だといってもコピペとう勝手に引用し、引用である事を示さない方法を使えば論文やレポートは成り立ちません。引用する際には、出典を明記したりといった作業を行わなければなりません。そういった方法もこの授業を受けて初めて知りました。出所表示、いわゆる出典を明記する事において、ウェブページ、本、論文といった三項目で示すべき事が異なりウェブページについては閲覧日時まで記さなければなりません。また、引用ばかりで論文やレポートを書くのではなく敢えて反対意見を探し、それを示して論じていくという事も重要です。賛否両論どちらの意見も入れる事によって両方の立場に立って考える事が出来、文章を読む相手も複数の意見を受け入れる事が出来るのでこういった方法は効果的です。論文やレポートを書くにおいて様々なコツや方法を身につける事は決して容易では無い上、時間もかかります。反復練習をする事によりコツを身につけ、最終的にはきちんとした説得力のある論文やレポートを書けるようになるのです。授業の中で1つ疑問に思った事があります。ウェブページの記載をする際に制作者、ページのタイトル、URLを記す理由に著作権の問題があるため記載しなければならないとう事は理解できるのですが、閲覧日時を記さなければならない理由がわかりません。閲覧日時を記載したところで何の意味があるのでしょうか。また記載してインターネットから閲覧者を特定する事が可能なのでしょうか。

コメント [y66]: いう

コメント [y67]: 教科書9ページを参照。

#### 4/14 学術的発想と書き方

論文・レポートは、自分の意見を根拠づけて主張するものであって、根拠のない思いつきや、単なる感想を主張するものではない。書く際には、あえて反対意見を探し、2つの立場からの視点や矛盾を探し、「自分の興味や関心」で書くのではなく、その「問題」を解決するという目的で書く。「・・・と思う。」と書くのであれば、根拠を考え「・・・である。」に言い換える。自分の意見を主張する際に、他人の記事を引用する場合は、出典を明記し、引用箇所をカギカッコでくくる。結論は、他人事にならないように気をつけ、「結局・・・だから～。」にならないようにする。大切なことは、反復練習である。

パワーポイントの文字のサイズをもう少し大きくしてほしい。教室にスクリーンの他にテレビもあるが、目が見えにくい人は、見やすい場所を先にとって座っていくので、見えにくい位置に座ることになってしまったら話の理解に差が出ることになってしまう。私の視力は0.6であるが、後ろから2列目では赤文字が見えなかった。違う講義でも似たような位置に座ったがその時はしっかり見えた。どの位置に座っても見えやすいようにすべきである。

引用する際に、ウェブページを閲覧した日時を記載する理由はなぜですか。本や論文の場合は出版年を書くというのが閲覧日時を書くというと同じ役割なのではないでしょうか。日時を書くというのは、ページがなくなっていた場合の対策なのではないでしょうか。

自分の問題意識を解決する目的で引用を利用するという主従関係についての質問なのですが、なぜ自分の「興味・関心」をもとにして書くのではなく、その問題を「解決」するという目的で書くのですか。

大学の教授の方々はそれぞれ自分たちの興味や関心のある話題や出来事、専門の学問を論文にしたり、授業を開講したりするので、興味や関心を基本として書いても良いのではないか、引用も基本や関心の中の一部ではないかと考え、疑問に思いました。

今回の授業では、論理的思考力の養成を目的とした。

まずレポートの書き方について学んだ。レポートとは、合理性に基づき自分の意見を根拠づけて主張するものである。自分の興味や感心で書くのではなく、書いている中で興味を持つことができる。さらに、小論文や調べ学習とも明確な違いがある。小論文は何も調べないで書く、調べ学習は単に調べたことをまとめる。これに対し、レポートは「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」という「考える」過程のもとで作成される。「考える」とは頭の中にあるものを取り出すことではない。この「考える」が客観的根拠をもった自分の意見を作り出す第一歩となる。加えて、情報源が一つになりがちだから、あえて反対の意見を探すことも大事である。

次に、引用とコピペの違いについて学んだ。引用は出所表示・明瞭区分制・主従関係を示して書く。コピペは引用を示して書かない。引用をする時の注意点として、情報は新しいものを使うことや引用元の製作者がわからないものは使わないという点がある。さらに、大部分が引用にならないために「論じるべきこと」を発見することが大事である。「論じるべきこと」の発見とは、賛否両論が対立している点=社会的・学問的に論じてみる点を見つけることである。

私は今回の授業を通して、「大切なことは、反復練習」という言葉に賛成する。なぜなら、人は何事も一回きりで完璧に身に付けることは不可能だからだ。これは、レポートだけで

**コメント [y68]:** 私が観察したところでは、教室の後ろから席が埋まっていき、スクリーン正面の一番見やすい席は、最後まで空いていました。

いちおう、文字の大きさは32pt以上として、対応はしているつもりですが、赤文字が見えにくかったのなら、以後は別の色にします。

(なお、赤文字が見にくいという、若干の「色弱」の人は、けっこうな割合でいるようです。気になるようであれば、検査したほうが良いかもしれません。)

**コメント [y69]:** 基本的には、そういうことです。

**コメント [y70]:** 世の中にはいろいろな種類の文章があり、それぞれに目的があります。そのなかでも、「問題を解決すること」が論文やレポートというものを書く目的だからです。

**コメント [y71]:** 授業でも言いましたが、「社会的・学問的に意味のあること」のなかから、興味や関心のあることを書くのです。興味や関心は、知識がないと抱くことができません。大学教授のレベルに達するまで、しっかり学んでください。

なく勉強や部活動にも当てはまる。何回も繰り返し練習することで、身につけ発展させることができる。このことをこれからも頭に置いて行動したい。

今日のSIH道場では、レポートがどういったものか、入試の小論文とレポートはどういった点で異なるのか、また、レポートの書き方や引用の仕方を学んだ。論文やレポートがどのようなものについては、なぜ自分がこのような意見を持つことになったのかという根拠を明確に述べて主張するものである、ということが分かった。また、入試で行われる小論文とレポートや論文は、書く際に基にする情報が自分自身の知識であるか様々な文献であるか、という点で異なるということを知った。そして引用の仕方については、引用をする際どこから引用し、そこからどの部分を引用したか、そして引用元への敬意を示す必要があることをはじめて知った。最後に、レポートを書く際自分とは異なる立場の意見など様々な情報を参照することで引用が少なくなるということもわかった。ここで、この授業を受けた後わからなかったことがある。それは、本、論文、ウェブページ以外から引用する場合、どのように引用すべきか、ということである。なぜこういった疑問を持ったかというところから見てみると、総合科学基礎 C の一言カードを書いている時に、プリントに書いている用語を引用しようとした。しかしこのプリントはどこまで出所表示をすべきかわからなかった。そこで今回SIH道場で配布されたプリントを見てみたがそこには本、論文、ウェブページについてしかのっておらず、学校のプリントはどの区分に入れるべきなのか判断出来なかった。しかし今後こういった場面には何度も出くわすことになるため、本、論文、ウェブページ以外の引用の仕方も学んでいきたい。今回の授業で改めて考えさせられたことは、レポートや論文を書く際、異なる立場の意見も見えておく、という点である。なぜこのように考えさせられたのかというと、私は入試で行われた小論文でこのことがなかなか実践できなかったからである。徳島大学の後期試験は小論文であったため、私は小論文をよく書いていたが、いつも課題文の要約もどきの文章になっていた。なぜなら、私は課題文に書いてあることにすっかり納得してしまい課題文に対して賛成の面しか見られなかったからである。課題文は専門家や著名人が書いているため、そこに書いてあることは正しいと思考停止してしまい、物事を一面的にしか見ていなかったのである。しかし、小論文にせよ、レポートにせよ、そこで取り扱われているテーマは賛否両論のあるものである。そのため、課題文と賛成の意見も反対の意見も存在している。入試の小論文では本や論文を片手に書くことはできなかったが、論文やレポートを書いていく際にはむしろ本や論文を引用しつつ、書いていかなければならない。そこで私は、これから論文やレポートを書いていく際、様々な文献を参照にしつつ、それらからものごとを多面的に見ながら考えていき、レポートや論文をこなしていきたい。

**コメント [y72]:** 論文やレポートにおける引用は、基本的に、本、論文、場合によってはウェブページから行ってください。授業のプリントなどの場合には、そのプリントに書いてある情報の出典の方を参照してください。

ただし、授業のコメントを、授業のプリントを引用して書くときには、「授業のプリントに〜と書いてあった」などのように書いてもらえばかまいません。

あと、文章は適当なところで段落に区切ってください。

結局〇〇思考というものが NG だとされるのに対して、最初はどうして NG なのだろうかとすごく疑問を持った。例えば、甲乙つけ難い問題をテーマにしてレポートを作成するにあたって、どちらがどれだけよい点があり、悪い点が少ないか、が明確でないからこそ甲乙つけ難いのであって、それを学生たちに押し付けるのはあまりにも解決に導き難いことではないか、と思ったからだ。だが、「コピペと言われないレポートの書き方教室」にも記載されているように、どちらが正解かを導きにくい問題だからこそ、努力して改善する必要があるとあった。言われてみて確かなそうだ、と納得した。どちらかを決め難いと言って目を背けていいような問題では無いことは明確であるし、それを多面的に考えるからこそ自分の力にもなる。総合科学部という学科が大切にするモノそのものようである。

今回は「書く」ということについての講義だった。説得力のある文章を書く能力ということはどういうことなのか、考えるということはどういうことなのかという内容だった。「考えるとは、『調べ、知り、書き、読み直し、書き直す。』」今までの私にはこのような考え方は無かった。とくに他人に読んでもらうというのは新しい発想だった。確かに、何も知らない他人が読んで理解出来なければ文章は成立しない。主観的になり過ぎてはいけないということを知った。何事にも根拠や理由がなければ説得力に欠ける、ということを学んだ。

この授業で重点を置かれている論理的思考力を養成することはこれから社会人になったとき一般常識として蓄えておくべき知識を得ること、問題について一側面ではなく多面的に観察し解決策を練り、それを文章化するための練習をすることである。問題についてただ頭の中で様々な事柄を悩むだけではなく、その問題の背景やそれにまつわる単語の意味を調べ、理解したうえで文章化し、推敲してできあがったものが考えた故の自分なりの結論である。そのため、根拠のない意見や思いつき、引用元を示さないコピペとは異なり知識の増強ができる。調べ学習のようにただ正解を報告するのではなく、正解のない問題についての自分の意見を根拠づけて論じることこそがレポートとしてふさわしいものである。この反復練習を繰り返すことによって論理的思考力を習得することができる。しかし、今回の授業の中で私は疑問を抱いたものがある。それは、悪い結論の例としてあげられた「結局〇〇思考」がなぜ良くないのかということだ。これは無意味だと先生はおっしゃっていたが、私はこういったまとめの言葉が悪いとは思わない。これは「結局」という言葉が悪いのか、それとも「〇〇思考」という言葉が悪いのだろうか。例えば「この問題は結局ビジネス思考の偏りによって起こったのである」というような結論ではいけないのだろうか。私はこのまとめの言葉は一言で結論だとわかり、また長々と結論を続けるよりすっきりまとまっていて良いと思った。

コメント [y73]: どれ？

コメント [y74]: 何を解決するのですか？

コメント [y75]: 単に知識を増やすだけでなく、「考える力」そのものを増強してください。

コメント [y76]: 「現在のところ正解についての社会的合意が成立していない問題」というほうが正確でしょう。

コメント [y77]: 教科書 75～76 ページを参照。

今回の授業では、論理的思考力を身につけるべく、説得力のある文章を書く能力を養うのに必要なプロセス、具体的にいうと自分で調べ、知り、書き、読み直し、かき写すことを実践し繰り返すことが大切であるということと、コメント・レポートと今までやってきた小論文や最近問題になっているコピーアンドペーストとの違い、そしてレポートで他の文献、文章を引用するには制作者や閲覧日時などいくつかの情報を表示しなければならないというようなこれから自分たちが大学で学んだことをさらに発展させ発表するうえで必要不可欠なことがらを教わった。

そして授業に対するコメントを書くという宿題が私たちに課されたが、そのコメントを書くにあたり質問はともかく意見を書けというのはおかしいというのが少し逆説的であるような気もするが私の意見である。

なぜかという、この授業では最初に述べたように説得力のある文章を書くことができるようになるために必要なことと、レポートについての重要なことを知識として与えられた。意見というのは答えが一つではない何かしらの問題に対して自分が考えた内容を指すのであって、知識に対して考えることではないからである。

以上を踏まえると私の意見というよりは感想ということになってしまうが、これを私の授業に対するコメントとする。

総合科学入門講座の一回目の授業では SIH 道場の延長として、説得力のある文章を書く能力についての講義と、今後の授業内容についての説明を受けました。授業コメントの書き方の話ではコメントと感想文の違いについて説明を受けましたが、既に「キャリアプラン入門」の授業で授業コメント提出の課題が出されており、今回の授業を先に受けていれば、より質の高い文章を提出することができたのではないかと考えると、少し残念です。来年度からは「総合科学入門講座」の授業をより早い段階で受講できるようにすれば、授業内容を早速実践できる機会が貰えることになるので、復習にもなるのではないのでしょうか。

今回の授業では、論理的思考力の養成についてのものだった。今までの考えるとこれからの考えるの違い、物事を様々な視点から見つめる多面的理解の重要性など、社会人としてこれから必要となるスキルの基礎を身に着けるための授業を行っていくことが理解できた。論文とレポートの書き方についても学んだ。これらを書くためには根拠があることが絶対条件であり、思いつきや感想を書いてはならないこと、正解の見つかっていない問題に対して自分の主張を書くことなど、どのように考え、どのように書くかについて理解す

コメント [y78]: 他の学生さんは、疑問や意見を書いていますよ。

コメント [y79]: 授業コメントはこれから毎週書きますから、徐々に向上していけばよいです。



ることができた。引用についての注意事項も学んだ。出典の示し方や、引用の上手な用い方についても理解することができた。

授業を受けていく中で疑問に思ったことがある。小論文と論文の違いについてだ。小論文は正解を探してくるものだと言っていたがそれは違うように感じた。大学入試に向けて多くの小論文を書いてきたが、その多くは正解の見つかっていない問題であり、それに対して自分の決めた正解を書いていくものであったからだ。その正解の根拠はもちろん、それに対する反論も書いていった。確かに入試本番ではその場で初めて見たものを書き、根拠を調べることはできないが、今までの自分の経験を振り返ると、論理的思考力や物事の多面的理解など、論文に必要なスキルを使用していたことから、小論文は正解を探すものではなく論文と同じように自分の決めた正解を根拠に基づいて書くものであると私は考えた。

今回の講義では賛否両論のある、または正解の見つかっていない問題・話題を根拠を調べた上でかくのが論文・レポートであり、論文・レポートを書く時に本やウェブサイトを書いてあることを参照する際には出所表示(引用したウェブページや本、論文を示す)、明瞭区分性(引用した場所をカギカッコでくくる)、主従関係(自分の問題意識を持つ)の三つのことに注意して引用しなければならないことや、反復練習によって技術を身につけていくことができるなど論文やレポートの書き方について学びました。ダメな結論の例や引用の方法など具体的な例が資料にはあって理解しやすかったです。教科書にも実際に論文を使って説明しているところや図を用いて説明しているところがあってわかりやすいところがたくさんあったのでしっかり読んで勉強したいと思います。

私は今回の講義の中で主従関係ということはとても重要だと考えました。自分の主張を裏付けるために自分にとってプラスの情報を集めたり、自分と同じ意見を探したりがただけど、それでは問題解決にはなりません。いつかはマイナス面にも遭遇します。これから論文やレポートを書くとき自分とは違う意見はあまり見たくないとは思うけどとても貴重な意見なのでしっかり調べ、取り入れて自分の意見をより根拠のある論理的な主張にしたいです。様々な情報を考慮することによってより良く問題や話題に取り組むことができるので主従関係を忘れずにこれから論文やレポートを正しく書いていきたいです。

4月14日の授業では総合科学入門講座でこれから勉強していくことや、授業の受け方、課題の仕方、そして論文とレポートの書き方について学んだ。

まずこの授業では、ノートにキーワードを書き出していき、自分のメモを作成して復習をしっかり行うこと、そしてそれらを理解したうえで意見を持ったり根拠のある主張をしたりすることが必要である。この授業の目的である「論理的思考力の養成と物事の多面的

**コメント [y80]:** そんなことは言っていない。「調べ学習」は正解を探してきて発表するものだ、と言いました。

**コメント [y81]:** このファイルで学んでください。

理解」を実現するためには、ただ単に授業内容を「へー、そうなのか」と享受するだけではなくて、自分のくみ取ったキーワードから「それは〇〇という理由で違うだろう、こうではないのか」という質問や意見を通して考えを深めていくことが大切であると思った。とここで、この「思った」というのは感想であるため論文では書いてはならない。それでは自分の意見というのはどのように書けばよいのだろうか。それは、「思った」のではなく「こうである」と客観的な根拠を持ち、論理的に意見を断言すれば自分の意見を言ったことになるだろう。今までは“読書感想文“や”弁論“などで自分の思ったこと・感じたことを書くことが多かった。しかしこれからは単に思ったこと・感じたことではなく、なぜそう思ったのか、そこに誰もが納得できる根拠があるのか、ということを考え、調べながら自分の意見を成り立たせていくことに重きを置くことが重要であると確信した。「感想ではない客観的な根拠のある論理的な主張」をできるようになること。今はまだ難しく失敗することもあるだろうが、これからの授業の中で練習を重ね、道筋の通ったしっかりとした意見を発信できるようになりたい。

もうひとつ、コピペではなく、根拠に基づき、合理的な同意が得られる論文・レポートを書くことの大切さも知った。高校でも文学を読んで論文を書いたり、“グローバル”という授業で課題研究をして発表をするということをやったりしてきたが、どうしても限られた時間の中で自分たちが欲している情報を集めきれず、引用を多用したり自分たちで内容を吟味して出した答えを書くことはなかったりと、きっと論文制作からはかけ離れた活動をしてきた。今回の授業で少し論文の書き方を習っただけでも、もったいない時間を過ごしたと後悔した。これからは特に賛否両論が対立している部分に目を向けて、そこにある問題を解決するという意識で、引用に頼らず自分の意見をしっかりと書くことができるようにこちらでも練習をしていきたい。

総合科学入門講座の目的は論理的思考力を養成することと物事を多面的に理解する力を身につけることである。

4/14 の授業では論文・レポートの書き方や引用とコピペについて学んだ。論文・レポートとは根拠のない思いつきや単なる感想を書くのではなく、自分の意見を根拠づけて主張するものである。また説得力のある文章を書かなければならない。合理性のある主張は他者との意見のぶつかり合いがあったとき正しい結論を出すために必ず必要である。合理的な思考力、論理的思考力を身につけるために大学では論文・レポートを書く必要がある。

説得力のある文章を書くためにはまず問題意識を持ち、正しい根拠を示した上で主張する必要がある。根拠を考えると、頭の中で考え頭の中のものを文章にするのではない。自分で調べ理解して書き、読み直して書き直すことを繰り返すことである。こうして主張に対する根拠を示し、はっきりと自分の主張を示すことが大切である。

根拠を示す際に Web ページや本、論文から文献を引用する場合がある。引用元を示さな

いとコピペになってしまう。コピペと言われないために出所表示、明瞭区分性、主従関係に十分注意しなければならない。出所表示とは、出典を明記することである。Web ページの場合は制作者、ページのタイトル、URL、閲覧日時を、本の場合は著者、タイトル、出版社、出版年、ページを、論文の場合には著者、タイトル、掲載誌名、出版年、ページを、読者がわかりやすいように示す必要がある。制作者や著者がわからない場合は根拠として不十分なので引用してはいけない。明瞭区分性とは、引用箇所をカギカッコで括る必要がある、ということである。自分の論文・レポートと引用箇所をはっきり分ける必要がある。主従関係とは、引用は自分の問題意識を解決するという目的のためであるので、引用を多用してはいけない、という意味である。

情報源を一つしか見ていないと大部分が引用になってしまう。こうならないためには、あえて自分の主張とは反対の意見について調べ、賛成と反対の二つの意見を比較する。そして同じ部分の解釈の違いなどを見つけ、なぜ違っているのかが論じるべき点である。自分の興味や関心に引っ張られてしまうと視野が狭くなってしまふ。

大学での論文・レポートは高校までの小論文や調べ学習とは全く異なるものである。小論文は調べなしでその場で書くもの、論文・レポートは根拠を調べ書くものである。調べ学習は正解があるものを調べ報告するものであり、論文レポートは正解のない、賛否の分かれる問題を書くものである。大学での学習に慣れるためには反復練習が必須である。

授業の中で Wikipedia は引用に使用するのに適しているのか、という疑問が浮かんだ。Wikipedia を引用の例に挙げている場面があったが、Wikipedia は誰でも書き込めるので制作者は不明である。制作者がはっきりしないものは引用には向いていないのではないか。

コメント [y82]: そうです。教科書 28~29 ページを参照。

今回の講義では「考える」、「文章を書く」とはどういうことかを学んだ。自分はこれまで「考える」ということは大部分が自分の頭の中で完結するものだと思っていたので、レポート等を本格的に書き始める前に違いを知ることができてよかった。また、高校時代に行った「調べ学習」と論文・レポートは別物であることも分かったのでレポートを書くときは単に調べたことの報告にならないようにすることを意識するように心がけたい。

4月14日の授業は「学術的発想と書き方1」というテーマだった。説得力のある文章を書く能力を身につけるために、いくつかのことを学んだ。まず、論文、レポートとはなにかを教わった。論文とは自分の意見を根拠づけて主張するものである。それに対して小論文はなにも考えずその場で文章を書くことであつた。だから文章を書く≠頭の中にあるものを取り出すことである。また、コピペと言われないレポートを書くためには出所表示をすることが大切であるということも学んだ。最後に、ダメな結論の例を教わった。抽象的な言葉は論文、レポートには適さないということが分かった。

私は、**文章を書く≠頭の中にあるものを取り出す、という考え**には反対だ。なぜなら「文章」という語を辞書で調べると一番最初に「複数の文で、まとまった思想・感情を表したもの」という意味が出て来るからだ。さらに「感情」という語を調べると「外界の刺激に応じて絶えず変化する、快、不快、喜び、怒り、悲しみなどの気持ち」と出てくる。

以上の 2 点から、文章を書く作業は頭の中にあるものを取り出すことなくしては出来ない。

#### 参考文献

山田忠雄、柴田武、酒井憲二、倉持保男、山田明雄、上野善男、井島正博、笹原宏之 編  
新明解国語辞典第七版 三省堂、2011 年

今回の授業内容は次のようなものだった。まずは SIH 道場、総合科学入門講座、そして後期の課題発見ゼミナールの目的、総合科学入門講座の日程、授業準備についてを簡潔に。次にレポート・論文と小論文、引用とコピペの違い、引用の際の出典表記の仕方、駄目な結論の例が提示された。

「レポート」というものを今まで書いたことはなかったがいざ書こうとすると、授業で山口裕之先生がおっしゃっていたことと同じことが起きた。全く書けない。今回の授業は理解しているつもりであったが、この書けなさはいっそ清々しいほどだ。

なぜ書けない**ない**のか。その主な理由は**書き慣れていない**からだ。やはり繰り返し訓練をしなければ、考え方が全く身につかない。だから、それなりの数をこなしていかなければならない。

この文章も「レポート」とは程遠いものに成り下がっているという自覚はある。それを踏まえて、私は総合科学入門講座を受けて論理的思考力というものをも身につけていかなければならないのだ。

今回の授業では、「そもそも論文・レポートとは何か」、「小論文や調べ学習と論文・レポートの違い」、「コピペと引用の違い」などといったこれからの大学生活、そして社会に出た後に間違いなく必要になることを学んだ。今までの自分の学習とは似て非なるものでありと改めて考えることができた。

今回の講義の目的の 1 つに「説得力のある文章を書く能力」とあるが、「説得力のある文章」はどのようにすれば書くことができるようになるのだろうか。勿論講義でも聞いたように地道な反復練習が必要なのだろう。だが、「これが説得力のある文章だ」というのを意識して読んでみたことがないため、自分の文章との違いがあることはわかるが、具体的にどのような点が違うのか認識できない。やはり、**様々な文章に触れることが一番の練習になる**のだろうか。

**コメント [y83]:** 論文やレポートは「感情」を書いてはなりません。「まとまった思想」を書くのが論文やレポートです。そして、「まとまった思想」は頭の中に入っていない、むしろ文章を書くことで形成されていくのだ、と説明しました。

**コメント [y84]:** 授業でも言いましたが、具体的に書かないからです。例えばあなたの第一段落、それぞれの項目について、具体的な内容が書かれていません。

**コメント [y85]:** たくさん本を読むようにしましょう。

自分は教職を志す身であるため、「説得力のある文章を書く能力」は必要不可欠である。「配布された教科書を読む」、「様々な文章と自分の文章を比べて違いを認識する」以外に「説得力のある文章を書く能力」を向上させる方法があるのならば、是非知りたい。

コメント [y86]: 書く練習です。

今回初めて受けた総合科学入門講座で学んだことは、「考える」というのは頭の中だけでするのではなく調べ、知り、書き、読み直し、書き直すということである。また、論文については根拠のない思いつきや単なる感想ではなく客観的な根拠のある、論理的な主張を書く。引用を使うときは出典明記し引用箇所をカギカッコでくくって明示する。そして引用箇所は少しだけにする。なぜなら自分の問題意識を解決するという目的で使うからである。引用はさまざまな意見を取り入れ比較し自分の主張をする。

感想のように自分の感情で書いたものは自分と同じような考え方をした人にしかわからないため論理的な文章で誰もが納得できる文章を書けるようにこの授業で学んでいきたい。

今まで論理的な文章を書くという意識をせずに「感想」を書いてきたので難しいと思うけれどがんばっていきたい。

今日の授業では大学入門講座についての説明をし、論理的思考力の育成の第一歩である説得力ある文章を書く能力について学んだ。

大学入門講座では SIH 道場で学ぶ内容、総合科学入門講座課題発見ゼミナール、授業の受け方を詳しく学んだ。

説得力のある文章を書く能力では「考える」とは何かについて改めて考え自分の考え方が変わった。「考える」と言われると自分の頭の中から自分なりの答えを出すことだと思っていたからだ。そのほかにも、何も調べないでその場で書く小論文や調べた事の報告、「正解」を探すための調べ学習とは違い論文やレポートとは賛否両論のある話題やまだ正解の見つかっていない問題を根拠を調べた上で自分なりの正解をだすものということを知り、これからはたくさん書く論文やレポートに活かしたいと思った。また、コピペと言われないように引用のポイント 1.出所表示 2.明瞭区分性 3.主従関係を正確に書くようにしつつ大部分が引用にならないようにもしたい。そこで重要だと思ったのはあえて反対の意見を探すというポイントである。私が文章を書く際にあらゆる方面から物事を見るということが苦手なので今日の授業でこのポイントが 1 番参考になったからだ。これからは「コピペと言われないレポートの書き方教室」を何度も読むことでレポートの基礎を身につけ上手くレポートを書けるようになりたいと思った。

コメント [y87]: そのためには反復練習です。がんばってください。

講義の中で、考えるとは「調べ、知り、理解して判断し、文章を作る」ことであり、ま

たそのようにして「読みやすい(説得力のある)文章=意見」をつくることが目的であるという点は、これから大学生として学ぶ上でしっかり意識していかなければならないことである。なぜならば、これからは知識を増やしたり受け身的に学んだりするだけでなく、自分から説得力のある意見や情報を発信していく能力が必要となってくるからである。また、引用とは「1 出展明記 2 明瞭区分性 3 自分の主張>引用(自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用)」とあり、コピーは「引用であることを示さないもの」とあるが、普段あまり意識していなかったことであり細かく勉強していなかったため改めてはっきりとした違いを知ることができた。なぜ大部分が引用になってしまうのかという問題に対して、情報源を一つしか(一つの立場の情報のみ)見ないからであり、あえて反対意見を探してみるべきとあったが、これは他の分野の学習をする際にも深く学ぶことができるため、今後取り組んでいくべき課題である。広い視野から調べたり学習したりできる力を身につけることは、日本社会の中のさまざまな問題を理解し、把握することにもつながるため、訓練し定着させていくべきだ。

1 論文とレポートの違いや引用とコピーの違い、コピーにならないために示すべき情報などコピーと言われないレポートの書き方や論理的思考力に重要な書く能力について

2 コピーをする学生が多いのはなぜか

3 著者やタイトルなどの出典を書くだけでコピーではなく引用になるにも関わらずそれを怠る学生がたくさんいることを不思議に思ったから

コメント [y88]: 教科書 x~xi ページを参照。

「引用」と「コピー」はどの点で違い、引用とはどのようにするかを学んだ。また、小論文と論文の違い、調べ学習も違う種類のものであると学んだ。論文を書くにあたって根拠を調べて書くというのが大事ということを知り、良くない論文の例をはじめて知った。私は良くない例をよくしてしまっていた。

総合科学部では、私たちが抱えている国内外の課題の理解や解決に向けて、グローバル化、少子高齢化、健康社会づくり、地域活性化に関することなどを総合的に学び、自ら考え、論理的思考力や、物事を多面的に理解する力を養う。

本日の講義では論理的思考力を養成するファーストステップとして、説得力のある文章を書くための学習を行った。

説得力のある文章をかくには、頭の中だけで考えるのではなく、調べて新たなことを知ったり、何度も書いて読み直すことが必要である。

レポートでは、単なる感想や、根拠のない思い付きなどを書くのではなく自分の意見を根拠づけて主張する。

賛否両論がある社会的・学問的な話題を扱って、自分の思う正解を根拠を調べたうえで

書く。

コピレポートが一時期社会問題になったが、引用する際は、読者が速やかに出店を確認できるように出店表示をしっかりと行うことを注意すべきである。

引用だけのレポートにならないようにあえて反対意見も探してみるとよい。

これらのことを意識しながら何度も繰り返し書いて調べて反復練習をすることで、だんだんと説得力のある文章を書く能力が身につくのである。

総合科学入門講座では、論理的思考力と物事の多面的理解について学ぶ。4/14 の講義の目的は論理的思考力の養成の最初の一步であり、説得力のある文章を書く能力をつけることである。考えるということは、頭の中であれこれ考えたり頭の中にあるものを取り出したりするものではなく、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」ことである。論文やレポートとは自分の意見を根拠づけて主張するものであり、根拠のない思いつきや単なる感想で書くものではない。高校生のころはよく小論文を書いていたが、論文やレポートは小論文とは違う。小論文はその場で、時間内に自分が知っている範囲で書いていたが、論文やレポートは根拠を調べた上で書かなければならない。また、調べ学習とも違いがある。調べ学習は調べてきたことをそのまま報告し、正解を探してこなければならぬのに対し、論文やレポートは賛否両論のある話題やまだ正解が定義されていない問題を論じる必要がある。そして、論文やレポートはコピペではなく引用をしなければならない。引用する場合は 1 出典を明記する(出所表示)2 引用箇所をカギカッコで明示する(明瞭区分性)3 引用箇所は少しだけ(主従関係)という 3 つのルールを守る必要がある。出所表示に示すべき情報としては、ウェブページから引用してくる場合は製作者・ページのタイトル・URL・閲覧日時を、本から引用してくる場合は著者・タイトル・出版社・出版年・ページを、論文から引用してくる場合は著者・タイトル・掲載誌名・出版年・ページを明記する必要がある。読者が速やかに出典を確認できるようにするためである。論文やレポートを書くときのポイントとしては、あえて反対意見を探してみることである。自分の興味や関心で書くのではなく、社会的・学問的に論じるべきものを探して書くと良い。何度も反復練習をすることでだんだん上達してくるものである。

私は今回の講義を聞いて質問したいことが 2 つある。1 つ目はなぜ高校生の時はレポートや論文を練習させるのではなく、小論文を書いていたのかということだ。もし高校生の時から練習していたとすれば、今頃もっとレポートや論文が上手に書けるようになっているはずだからである。2 つ目はレポートや論文を大学生のうちに練習しておくことで、将来どんなことに役立てることができるのかということだ。今から頑張っておけば社会に出たときどんな利点があるのかを知っておきたいからだ。

コメント [y89]: 大学入試で小論文が出るからでしょう。

コメント [y90]: 物事を正しく考える力より役に立つものが、他にありますか？

今回の授業では、主にレポートの書き方と注意点について教わりました。論理的思考力の養成と物事の多面的理解を目的とし、小論文とは違い「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」の繰り返しでレポートを作成することによって、今までと同じ意識で取りかかるとはいけないということを学びました。また引用のやり方など気にかかっていたことが解決しました。

質問なのですが、授業にあった「まだ正解の見つからない問題」というのは、どうやって判断すれば良いのでしょうか?教科書に載っている事柄でも後に訂正されるようなことはままありますし、何をもちて明らかに正解が決まっているとすれば良いのかわかりません。

またこの授業コメントですが、長さや、授業内容をどの程度詳しく書くかの目安はありますか?お話をプリントを拝見する限りでは分かりませんでした。

**コメント [y91]:** 複数の情報源を調べて、見解が一致していない場合。

**コメント [y92]:** 目安はありません。他の学生の書いているものを読んで、参考にしてください。

初回の授業では様々な基礎的なことを学んだ。まず、この総合科学入門講座の目的のひとつでもある「論理的思考の養成」の第一歩の「説得力のある文章を書く能力」についてだ。「考える」「文章を書く」などという行為はもちろん自分の頭の中だけで行うということが当然だと考えていたが、今日の授業で自分の考えていた当たり前というものが壊された。これら二つの行為は、決して自分の頭の中で考えたり、頭の中にあるものを取り出したり、などというものではなく、考えるとは「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」というものであった。このことは、次に学んだと論文・レポートとは何かということにもつながっていた。

論文・レポートについて小論文や調べ学習との違いの中で学んでいった。高校時代などまでに書いていた小論文は限られた時間の中で、自分の持っている知識をその場で自分の頭の中から取り出し文章にするというものであった。しかし、論文・レポートとこれとは全く逆で、根拠をよく調べ、本を読み、多くの時間をかけて書き上げるものだとして学んだ。私は、小論文と論文・レポートとの違いがあまり分からなかったため、この二つのものが全く逆のものだと知りとても驚いた。また、調べ学習との違いは「答えの見つからない、賛否両論のある問題」について自分の主張・答えを根拠づけて述べるということである。同じように見えて答えがあるかないかという圧倒的な違いがあることを学んだ。

引用とは何かということについてはコピペと比べることで学んだ。コピペとは引用であることを示さないこと。引用とは、出所表示、明瞭区分性、主従関係という三つのことをしっかりとするというものだった。出所表示とは、制作者、著書、タイトルや出版社などを明らかにすることで、明瞭区分とはカギカッコなどで引用部分を一目で分かるようにすること、主従関係とはあくまで自分の問題意識を解決するという目的で引用するということであるから多くても引用部分は全体の二割程度までに抑えるということである。また、ウェブページに関しては、閲覧日時まで書く必要があるということも知った。出所表示に



関しては、その表示を読者が見た際に出典を速やかに確認できるようにする必要がある。

最後にレポートを書けるようになる、書いていく上で大切なことは、簡単な方法を求めず地道に「反復練習」をするということであると学んだ。私自身このことを心掛け大切にしたい。

コメント [y93]: がんばってください。

14日の授業で、考えるとは、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」の繰り返しによって、文章を作成すること。と言っていました。

私は、その内容に賛成です。なぜなら、このことは自分の意見をまとめ主張する事において、意見を裏付けるために非常に役立つからです。

例えば小学校や中学校での自由研究がありました。私自身、中学生の時に「野菜の DNA を取り出す」という題目で自由研究をしました。なぜ、どのように DNA を取り出すことが出来るのかインターネットだけでなく様々な本を用いて調べ、実際に何度も実験を繰り返し成功失敗に関わらず結果を残しておきました。また、それをまとめるにあたって、得た情報や実験の結果から推敲し、下書きを繰り返す事で説得力のある自由研究が仕上がりました。

1つの事柄においても様々な媒体から情報を手に入れることで、授業でも言っていたように物事を多面的に理解することにもつながりました。また、出来上がった事を、自信と確信を持って発表を通じて伝えることができました。

よって、考えるとは、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」の繰り返しによって、文章を作成すること。という考え方に賛成です。

今回の授業では、まず総合科学入門講座で何を学んでいくのかについての説明を受けた。大学のレポートや論文では、高校までの文章とは異なり、自分の主観ではなく、論理の通った主張が求められるとのことだった。また、引用の仕方や出所表示についても詳しく教わった。

授業では触れられていなかったが、常に学び、吸収していこうとする姿勢もレポートを書く上で重要なのではないだろうか。ものの見方を変えていくことは、根拠に基づいた意見を述べるためという目的だけでなく、自分の考えを深めるためにも有効だ。

コメント [y94]: 学生の「姿勢」を教育することはできません。教育は、具体的な技能を反復練習させることでしかありません。馬を水辺に連れていくことはできるが、水を飲ませることはできないのです。

論文・レポートの書き方を学んだ。根拠のある意見で相手を納得させるためには、あえて反対意見を探してそれについても考える必要がある。なぜなら、自分に近い立場の意見だけしか見ていなかったら、反対意見の人を納得させるのは困難であると同時に、自分の視野も狭くなり、論文・レポートの内容も薄っぺらいものとなるからだ。コピペと引用の

違いについても学んだ。文を引用するさいには、出所表示、明瞭区分性、主従関係の 3 点を大事にしなければならないことも学んだ。出所表示については、引用したい文献の制作者がわからないものは信憑性にかけるので、引用してはいけないことも知った。

今回の授業は第 1 回目ということで、これからの授業の進行方法や大学での勉学の意図、宿題の提出方法など、詳しくガイダンスが行われた。高校の時とは全く違う様式が様々に大学では取り入れられている。しっかりと学び、機械操作にも慣れていきたい。その後は論文やレポートについての講義が行われた。コピーではなく引用をするために双方の違いを明確にし、1,出所明記 2,明瞭区分性 3,主従関係を学んだ。レポートを書く機会が増える大学生。今後、今回の講義で学んだことを十分に活かして勉強に取り組んでいきたい。

総合科学部入門講座では論理的思考力の養成と物事の多面的理解を学ぶ。論理的思考力の養成の第一歩とは、抽象的でなく具体的な、説得力のある文章を書く能力を身につけることである。「考える」とは、調べ、知り、書き、読み直し、書き直すことの繰り返しによって文章を作成することである。論文・レポートは、自分の意見を根拠つけて主張するもので、小論文や調べ学習とは違い、賛否両論のある話題、正解の見つかっていない問題を取り上げる。また引用をするときは出典を明記し出典箇所はかぎ括弧でくくり、読者が速やかに確認できるようにする。引用は少しだけで、自分の問題意識を解決する目的で利用する。大部分が引用にならないために、あえて反対意見を探し、自分の気が付かなかった根拠に気づくようにする。

論文を書くときには、高校生までの小論文とは異なるものであるという認識が大切である。

なぜなら論文は客観的な根拠を調べて書くことが必要であるが、小論文は、「資料などを参考にできない環境での執筆ですので、内容が面白ければ多少のウソは許容され、厳密な意味でのオリジナリティー、すなわち書き手自身が初めて考えたという独創性は求められません。」(石黒圭 『論文・レポートの基本』 日本実業出版社 2012 年 p4)とあるように、自分の頭の中にある主観的な意見を、客観的な事実や根拠なしに書くものだからだ。

総合科学部入門講座では、論理的思考力の養成と物事の多面的理解ということについて学ぶ。論理的思考力の養成のために初めに行うことは、説得力のある文章を書く能力を身につけることである。

まず考えるということは、頭の中だけで考えることや頭の中にあるものを取り出すのではなく「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」の繰り返しによって文章を作成する

ことである。

次に論文、レポートとは自分の意見を根拠づけて主張するものであり、根拠のない思いつきや単なる感想ではない。また他者と対話するために必須の能力であり、高校までの学習とは異なるものである。高校までの小論文と異なる点は、書く内容について根拠を調べるか調べないかである。また調べるといっても、調べてきたことを報告したり、正解を探してきたりするといった調べ学習ではない。賛否両論のある話題やまだ正解の見つかっていない問題について様々な側面から調べ自分なりに正解を導き出すことである。

調べたことを論文やレポートに引用する際に注意すべきことは3点ある。1点目は出典を明記する。(出所表示)2点目は引用箇所をカギかっこでくくって明示する。(明瞭区分性)3点目は引用箇所を少しだけにし、自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用する。(主従関係)ということである。この3点を1つでも満たさない場合には、コピーペーストとなる。1点目の出所表示には読者が出典を速やかに確認できるよう

ウェブページの場合-制作者・ページのタイトル・URL・閲覧日時

本の場合-著者・タイトル・出版社・出版年・ページ

論文の場合-著者・タイトル・掲載誌名・出版年・ページ を示す必要がある。

論文の大部分が引用にならないようにするために、あえて自分の意見とは反対の意見を探し多数の情報源を見ることが必要だ。

以上のことを何度も繰り返し練習することにより説得力のある文章を書く能力を身につけることができるようになる。

今まで小論文ばかりを書いてきたため、いつものやり方で自分の考えばかりの文章を書いてしまう。これから客観的な根拠があり論理的な文章を書くために講義はもちろん教科書もしっかりと読み論理的な文章を書く力を身に付けていきたい。そのためには以上のことと文章を何度も書くことに加えて「**しておけばいいこと**」はありますか？

これからよろしくお願いします。

コメント [y95]: 普段から本をたくさん読むこと。

## 1.授業の内容のまとめ

論理的思考力を養成するためには、説得力のある文章を書く能力を向上させることが必要だ。説得力のある文章とは、主観的ではなく客観的な主張のある論理的な文章のことである。そのような文章を書くことにおいて、賛否が明確である話題を選び、両方の意見を客観的に観ることが大切である。

また、論文・レポートとは、根拠のない思いつきや単なる感想ではなく、自分の意見を客観的に観つつ自分の意見を根拠づけて他者に伝えることである。それは、高校までの学習とは似たものではなく全く異なるものである。

したがって、論理的思考力を養成するためには、多くの論文・レポートを書き文章を書くことが大切ということだ。つまり、大切なことは、反復練習であるようだ。

レポートを書く上で大切なのは、引用である。しかし、引用の仕方を少しでも間違えるとコピーアンドペーストつまりコピペになってしまう。引用をコピペにしないためには、以下のことが重要だ。

1. 出典を明記する(出所表示)
2. 引用箇所をかぎかっこで括って明記する(明瞭区分性)
3. 引用箇所は少しだけ(主従関係)

また、大部分が引用にならないように、あえて反対意見を探してみるのもよい。

## 2. 授業の感想

授業の中で一番印象に残っていることは、大切なのは反復練習である。配られたプリントに「技術は地道な努力によってのみ、身につく。」と書いてあった。

それは、高校時代に何度も練習したり復習したりすることで苦手を克服する経験があるからだ。私は、国語が苦手だった。しかし、復習を重ねることで、苦手を克服することができた。勉強だけでなく、その他のことでの反復練習によって苦手を克服した経験はある。その経験は、価値のあるものであると思う。

私は、**文章を書くのが苦手だ**。授業が始まったばかりにもかかわらず、多くの課題が出されたことに多少の焦りや心配がある。しかし、課題をこなすにつれ、文章を書く能力がつくと思いつつ課題に向き合いたいと思う。

今回の授業は「論理的思考力の養成」を図るために、説得力のある文章を書くということだった。そして、説得力のある文章にするには、具体的にする必要があり、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」ことが重要である。そもそも、論文やレポートは自分の意見に根拠があり、根拠のない思いつきなどはいけない。また、小論文はレポートとは違う。小論文は、調べず即席で書くが、レポートは、根拠を調べた上で書く。では、「調べ学習」との違いは、調べ学習は調べたことを写し、正解を探すことであるが、レポートは賛否両論があり、正解がない問題を論じるものである。そして、引用とコピペの違いは、コピペは引用であることを記さないことであるのに対して、引用は出典を明記し、引用箇所を「」でくくり、自分の問題意識の解決の支えとして利用するものである。しかし、大部分が「引用」となってしまうがちになる。それを避けるために、あえて反対意見を探すことが必要である。すると、その解決に対しての矛盾が見えるだろう。そもそも、「問題」は、自分の興味関心がひかれたものではなく、自分の問題意識に即していなければならない。最後に大切なことは、反復練習だ。

レポートは高校の時の課題と同じではなく(正解があり、深い思考をあまり必要としない)、正確性が必要であることが分かった。それは、説得力を持たなければならないから考えなくてはならず、具体的にするには調べることが必要になるからだ。

これから、レポートが課題として出される時、これらのことを遵守するよう心がけてい

コメント [y96]: 今度から、感想でなく、「意見」を書くようにしましょう。

コメント [y97]: しっかり書けていますよ。

きたい。

## 1、まとめ

今回は「学術的発想と書き方」ということで、「大学入門講座」で身につける力について教わった。前期では論理的思考力の養成と物事の多面的理解ができるようになることが目的である。

論理的思考力を養成するには説得力のある文章を書けるようになる必要があり、また、それは、「考える」という調べ、知り、書き、読み直し、書き直すという五行程をなんども繰り返す作業ができるということである。よって意見とは努力して作った文章のことであり、その練習として毎週このような授業へのコメントを書く課題が出題される。

論文やレポートは自分の意見に根拠付けをして主張するものであり、「これが正解」とあらかじめ決まっていないことに対して書くものである。

さらに、引用の正しい方法についても教わった。

引用には大きく分けて三つのポイントがある。一つは出所表示。出典をはっきり書くことだ。ウェブや本、論文それぞれに出所表示をすべき情報がある。これは読者がすぐにその情報を調べることができるように示すものである。二つ目は明瞭区分性。引用箇所を「」でくくることである。最後は、主従関係。引用は自分の問題意識を解決するという目的で利用するものであるので、論文の大部分が引用となつてはいけない。

引用が大部分になり「コピペである」とされない論文を書くには、賛否両論が対立している点について論じること、その賛否両方の意見を「考え」てから自身の意見を書くことが重要である。

## 2、質問

私は(特にこの課題のように誰かの話を聞いた後において)自分の意見を持ち、質問をしたり意見を述べたりするのが苦手であるが、**自分の意見を考える上での着眼点**などはあるか。

## 3、その理由

高校生の時にも、多くの人の講演会をきく機会があった。その中で、ある教授から「質問をすることはその講演に興味を持って聞いたということを示すものだから質問した方が良い」と教わった。私もその意見には賛成である。しかし、講演を聞いていると、その人の言うことが完全に正しいことであるように思い、特に疑問が浮かぶこともない。事前に自分の意見を考え、それと照らし合わせながら聞いてみたり、話の具体性に書ける部分を探してみたりとあらゆる方法を試してみたが改善されなかった。しかし、これを機に、自分の意見をしっかり持って意見を示すことができるようになりたいと思ったため、質問する。

**コメント [y98]:** 講演会の直後に質問するのは難しいかもしれませんが、この授業の課題のように、授業後に時間を取って取り組むことができる場合には、関連する本を読んでみることです。そうすれば、講演の内容と異なることが書いてあることもあるでしょう。その点をきっかけにして、考えを深めることができます。

今日は初めての総合科学部入門講座でした。その場の思いつきで書く小論文や、調べたことを報告する調べ学習、コピペ、にならないようなレポート、論文の書き方を学びました。一つ質問があります。感想にならないようにするにはどういう点を意識して書けばよいですか?自分の意見を書くときに、~だと思ふ、~だと思つた、とついつい感想のような文末になってしまいます。

コメント [y99]: 「思ふ」を消して、根拠を書きましょう。

今回の「総合科学入門講座」では、初回であったためこの講座とは一体何なのか、どのようなことをするのかという基本的な説明が行われた。この「総合科学入門講座」というものは論理的思考力の養成と物事を多面的に理解する力の養成という大学生となった私たちに必要となる二つの力の養成を目標とした授業であり、その授業中には要点のメモを取るということも大切なことであるという。今回の講座ではまず「レポートの書き方」というものを学んだがそれは今まで私の中で正しいと思い、そして実践してきた「文章の書き方」や「考える」というものとは全く違った。まず私たちは毎回授業に対するコメントを書かなければいけないが、私たちはそこで「感想」を書くのではなく「客観的な根拠のある、論理的な主張」という文章を書く必要がある。そして文章を書くに当たって私たちが必ず行う「考える」という行為。「考える」とは頭の中であれこれ考えるということではなく、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」の繰り返しによって、文章を作成することであるらしい。

今回の講座の中で私が一番印象的であったのは「考える」ということの捉え方である。「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」というこの行為は、自分自身の経験からも考えるときには必須なものであるということに気づかされた。高校生の頃に文章を書くとき、例えば原稿用紙に読書感想文でも高校三年間の思い出など、テーマが何であってもすぐに原稿用紙に文字を書いて、書き進めながら文章も構成も同時進行で考える、という人が私の周囲には多かった。「考えながら書く」、本当にそうだろうか。私は文章を書くときは、まずはじめに必ず真っ白な用紙に自分の中で思いや感情と共にでてきた単語や文章を書き留め、疑問に思ったことや関連する名目を調べ、そしてそれから構成を考える、というように進めないと文章を書くことができない。私にとって手を動かしながらたくさんの言葉を書き連ねていく、その段階はまさに「考えている」真っ最中であり、そして「考える」ということを自分でも実感できる時間でもある。

「考える」ということに対する捉え方には、先に挙げたような全くの無計画で書き進める人のやり方の過程においても、もちろん頭を動かさきちんと考えている、と捉える人もいるだろう。しかし、私はやはりそのやり方の中で「考える」ということが成り立っているとは思わない。テキトーに、思いついた順番の言葉がただただ並んでいるだけの支離滅裂な文章をしっかりと「考えた」と言えるのだろうか。私はこのように考えたため、繰り返しにはなるが山口先生の言う「考える」とは「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」

コメント [y100]: まったくそのとおりです。

を繰り返し文章を作成することであるという考え方に共感し、賛成する。

論文・レポートと小論文は全くの別物であり、小論はその場で何も調べずその場で書き、論文は根拠を調べた上で書く。根拠のない思いつきや単なる感想を書くのではない。論文は「考える」のだ。「考える」というのは頭の中であれこれ考えるのではなく、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」の繰り返しで文章を作成することである。また、論文では「正解」がわかっていない、賛否両論のある事柄について、自分が見つけた正解を書く。また「自分の興味関心」で書くのではなく、皆にとって重要なことについて書かなければならない。引用の際には、出生表示・明瞭区分性・主従関係を示さなければならない。出生表示とは出典明記のことであり、web ページの場合は製作者・ページのタイトル・URL・閲覧日時、書籍の場合は著者・タイトル・掲載雑誌・出版年・ページ数、論文の場合は著者・タイトル・出版年・ページ数を記す。読者が出典を速やかに確認できるようにするためにも必ず示さなければならない。次に明瞭区分性とは引用部分がどこか分かるよう、引用部分に鉤括弧を付けること、主従関係とは引用はあくまで自分の意思を解決するためであるから、引用部分は少なめにすることである。この三点を満たさなければ、「コピペ」ということになる。論文・レポートの大部分が引用になってしまうのは、情報源を 1 つしか見ていないからだ。なので反対意見を探し、二つの立場から考えることが必要である。

では高校受験の時の小論文の必要性は何か。大学に入って小論文の書き方をしてはならないのなら、練習する必要はなかったのではないか。そこで小論文を書く意味を調べた。すると『小論文とは、大学に入って散々書かされる「レポート」や「卒業論文」を先取りしたようなものであって、優れた小論文とは、大学生が書くような「論文」を短くしたもの。優れた論文には共通の特徴があります。それは例えば、論理展開の明確さや、例的の確さ、そして問題意識の深さやそれに応じた参考資料のフォロー具合(重要な参考資料をあらかじめ読んでいるか)などです。(白河夜船 『ネットで小論文講座 基礎編 第 0 講』 shirakawajuku.com 16:10)』とあった。大学で論文・レポートを書く時、小論文のような根拠の挙げ方は通用しない。しかし、論文・レポートを書く時に使う元となる技術は小論文を書くことによって、論文・レポートを書く時の基礎を学ぶことができる。高校では大学受験の 1 つの方法として取り組んできたことは、大学入学後の基礎能力であるため、やはり小論文を高校で学ぶことは必要である。

**コメント [y101]:** 大学入試で出るからでしょう。まあ、「その場で考えてもってもらいたいことを言う能力」は、とくに資料もなく友人と議論するときなどには有効かもしれません。

総合科学入門第一回の講座を受けて、コメントとレポートの書き方について学びました。私は今まで小論文という形式では文章を書いていましたが、論文やレポートは事前に論理的な根拠を調べて書くという点で異なるものということが分かりました。

レポートを書くためには、誰にでも説明し納得させる根拠を結びつけることができるよ

うに深く考察し、また文章を何度も書き練習することが大切なのではないかと考えました。

今回学んだことは、論理的思考というのがどういうものなのかということと従来の調べ学習や小論文と、レポートや論文の違いについてです。

まず論理的思考力がどんなものかについてですが、論理的思考力は完全に自分の感情による思考から切り離されたものです。普段自分たちの頭の中では感情による思考が大半を占めています。だからこそ、山口先生がおっしゃっていたように私たちは日常的に論理的思考力を使っていくというのは簡単ではなく訓練しなければ習得できないものとなっているのです。先生の話聞いて自分なりに考えてみたことは、特に文章を書くときには箇条書きにしてとにかく一回自分の頭の中で考えていることを文字にしてみるということです。私たちがいつも人と話すときは相手にとにかく自分の言いたいことを頭に浮かんだ順に言葉に出すという方法ですが、論理的思考をするときには自分の頭に浮かんだアイデアをどの順番で伝えれば一番筋道が通るのかということも考えなければなりません。例えば「お腹すいた、うどんたべたい、朝抜いた」というよりも「朝ご飯を抜いた、お腹すいた、うどんが食べたい」のほうが因果関係がはっきり見えて相手にとってわかりやすくなります。さらにこの表現になぜうどんが食べたいのかという理由を付け加えると普通の何気ない話でも論理的になります。

このようなことは内容が多くなれば多くなるほど頭の中で処理すると混乱してしまうので、紙に一回書いてみるというのは大事だと自分は考えました。

次は小論文などと論文やレポートとの違いについてです。山口先生によると、小論文は自分の今までの背景知識に頼って書くもので、論文は賛否両論ある話題を時間をかけてしっかり調べて根拠づけをしっかりと行って書くというものでした。先生の話聞きながら、今までを振り返ると自分が小論文や調べ学習をするときには自分の思ったことを書いたり、自分の課題について一つの正解を求めながら取り組んでいたなと感じました。大学に入って論文を書く際には今まで以上に調べたり根拠を集めてきたりといった作業をする必要がたいへん増えてきます。論文の書き方といったところも重要ですが、自分の場合は資料を集めたりするところからトレーニングが必要だと考えます。なぜなら、今までは自分に必要だと思った資料が見つかったらその場で資料探しをやめ、その一つの考えや意見にとらわれがちになっていたからです。

これからこの授業を受けていく中で、自分が大切にすることは後回しにされがちだけど重要な資料探しという点です。そこをしっかりと行えば根拠づけする際に強い根拠を主張できるからです。

今回の講義の目的は「論議的思考力(説得力のある文章を書く能力)の養成の最初の一步」

コメント [y102]: そこまでは言っていない。感情は、調べる動機にはなりますが、説得力のある根拠にはならない、ということです。

コメント [y103]: まったくそのとおりです。



と「考えるとは、調べ、知り、書き、読み直し、書き直すの繰り返しによって、文章を作成すること」だということを学ぶことだった。

自分の意見を根拠づけ、説得力のある文章を書くためには書物や論文からの文章の引用が必要な場合が多い。その場合には「出所表示」「明瞭区分性」「主従関係」に基づいて行うことが引用には求められる。ここがコピー・アンド・ペーストとの違いである。また、上記の3点を行うことで、読者が出典を速やかに確認できるというメリットもある。

引用する場面において、書物や論文からだけでなく、**発言を引用する場合**もあるかと思う。そういった場合はどのようなことを明記して引用すれば良いのか質問させていただきたい。

今回の総合科学入門講座では、学術的発想と書き方について学んだ。主に、引用とコピペの違い、論文・レポートと高校の調べ学習または小論文の違い、論文・レポートにおいてダメな結論についての説明を受けた。コピペがなぜダメなのかを改めて考えると、それは当たり前だが他人が書いた文章だからである。学生が良識のある人間になるためには論理的思考力を養わなければならないが、他人の文章を切り貼りしてはそれが全く培われない。自分も教科書を参考に、書くことを通じて成長したいと思う。

今回の授業では主にレポートの書き方について学んだ。良いレポートを書くためには論理的思考力を養成し、身につけることが大切だ。論理的思考力を養成するということは説得力のある文章を書く能力を身につけるということである。大学で求められる論文、レポートは、思いつきや発想で書くものではなく客観的な根拠を絡めて自分の意見を説得力のあるように書くことが大切だ。大学で求められるレポートは高校入試で課せられていた小論文のように何も調べないで書くのではなく、根拠を調べた上で書く。さらに賛否両論ある話題についてレポートを書くと考えの深まったレポートを書くことができる。また、コピペと引用の違いについても学んだ。レポートを書く上で引用は重要であり、考えの深まったレポートを書くために引用は必要だ。しかし、コピペになってしまっただけではカンニングとみなされてしまう。コピペではなく引用をするためにはまず、出典を明記する必要がある。読者が速やかに確認できるように分かりやすい出所表示をすることが大切だ。さらに、引用は最小限に抑える必要がある。賛成、反対両方の主張を探し、それらを比較検討するときに引用を使って検討すると最小限に抑えることができる。これからの四年間でレポートを書く機会はとても多くなる。内容の深い良いレポートを書くためには、**まず数をこなすこと**が大切であると考えている。大学では高校のように一つの答えを求められることはない。自分の考えに筋を通して論じることが求められる。今まで経験したことがないことをいきなり成功させることができる可能性は極めて低い。だから、それに対応するために

**コメント [y104]:** 普通、日常会話のなかでの誰かの発言を引用ということはありませぬ。もしも発言した人が、その分野における学者で、講演会やその後のディスカッション、私信などでの、やや「公式の」発言であった場合には、「〇〇教授のご教示による」など、その人に聞いたことを明示すればよいでしょう。

**コメント [y105]:** でも、一つ一つを丁寧に書いてくださいね。

はたくさん調べ、たくさん書くことが重要だ。また、購入した教科書をしっかり読み込み、レポートの書き方をしっかり理解する必要がある。これから総合科学入門講座で学んでいくことで内容の充実したレポートが書けるように努力していく。

第一回目の講座では、自分の考えを調べた情報を元に客観的な理由などとともに述べるためにすべきこと、そして、レポートを書くときに注意すべきことである、引用の仕方について学んだ。私は、考えることとは、ただ頭の中で考えるのではなく、調べることで知識を得て、自分の考えを書き、読み返して書き直す。その繰り返しであるということについて少し疑問を持った。なぜなら、知識を得て、そこから自分の意見を見出した場合、知識を得るために読んだ文書などに自分の意見が流されたり、似たようなものになってしまいがちではないかと思ったからだ。もちろん、そうならないように参考程度に使うということであるのだろうが、無知であったところに情報を入れると何も言葉を知らない赤ちゃんが親の言葉遣いに似て方言を話すように自然となるようにその情報に頼ってしまうのではないだろうか。だから、ある程度自分の意見を頭の中で考えておいてから調べるというのは、**違うのだろうかと思う**。

第一回の講義では「学術的発想と書き方」というテーマのもと、総合科学入門講座の概要や目的についての説明を受け、論文・レポートの書き方及びそのために大切なことについて学びました。具体的には、この講座の目的は「論理的思考力の養成」と「物事の多面的理解」であることや、考えるとは「頭の中であれこれ考える」のではなく「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」の繰り返しによって文章を作成することであること、また論文・レポートと「入試小論文」や「調べ学習」との違いや、引用とコピペの違い、そして論文・レポートを書く際には「地道な反復練習」が大切であることについて学習しました。

その中でも私が最も重要であると思ったことは、「論文・レポートの内容に関する情報を調べる際には、あえて反対意見を探してみる」ということです。なぜなら、今まで私はインターネット等で調べものをする際、出てきた調査結果の数項目だけを見て、その内容に圧倒されてしまい、自分の主張を見失ってしまうということがしばしばあったからです。しかし今回の講義を受け私は、調べてきたことを報告し「正解」を探してくる「調べ学習」はできていたものの、賛否両論のある問題やまだ「正解」が見つかっていない問題を解決しようとする「論文・レポート」に対しては苦手意識を持っていることが分かりました。つまり、与えられた課題に対しての答えを探すという高校までの学習に慣れていたため、自分で社会的・学問的に論じるべき問題を見つけ解決しようとする大学での学習に対し少し抵抗を感じていることに気がきました。

また、「小論文」と「論文・レポート」の違いは何も調べないで書くか、根拠を調べた上

**コメント [y106]:** 「違うのだろうかと思う」という文の意味がよくわかりませんが、「自分の意見」は、知識や客観的な情報を得ることではじめて持つことができます。知らないことについて、意見は持てないでしょう？

で書くかであるということも学び、やはり大学での学習では知識を蓄えることも必要であると分かりました。私は入試で小論文を勉強した際、自分の持っている一般的な知識のみを使い、特に具体的なデータを調べることなく文章を書いていたことに気づき、高校までと大学の学びの違いを改めて実感しました。

したがって、今回の講義を通して論文・レポートの書き方だけでなく、自分には自ら問題を発見しようとする主体性やそのために必要な知識を得ようとする能動的な姿勢が必要であるという大学での学びの目的にも気付くことができました。論文・レポートに加え、次回以降の講義やその他の授業においても、「あえて反対意見を探してみる」ことで「物事の多面的理解」を、そのために具体的な知識を得ることで「論理的思考力」を身につけていく必要があると感じました。

今回の授業では、論理的思考力の養成と物事の多面的理解ということに重点をおいて講義を受けました。論理的思考力の養成の最初の一步として、説得力のある文章を書く能力ということを教わりましたが、僕は、説得力のある文章、ということに疑問を感じました。例えば、自分が文章を書いたとして、それを10人の人に読んでもらい10人全員が納得すれば、説得力のある文章ということになるのでしょうか。それとも10人中8人が納得すれば、たとえ残り2人が納得していなくても説得力があるということになるのでしょうか。確かに論文などでは賛否両論のある話題を扱うので、読んだ人全員を納得させるのは不可能でしょうが、では読んだ人のどれくらいの割合が納得すれば説得力があるということになるのかということを知りたいです。あと、「論文・レポートとは何か?」という項目において、高校の学習とは全く異なるものであると言っておられましたが、高校で学習したことをベースとしてやっていくのでは、という気がするのですがそれはちがうのでしょうか。この辺りを純粋に疑問に感じました。先生方が思っておられるコメントとは違うかもしれませんが、答えが気になりました。

1回目の授業では論文・レポートとは何か?小論文と論文の違い、引用とコピペの違いなどについて学びました。論文やレポートを書くときのポイントはあえて反対意見を探してみるということを知りました。そしてインターネットで検索するときでも信ぴょう性を十分に考えて選ぶことが大切だと学びました。そして大学ではレポートなどを提出する機会が今までよりも増えるのでその機会を生かして今後のために説得力のある文章で論理的な主張ができるようになっていきたいと思います。

まず最初に総合科学入門講座では論理的思考力の養成と物事の多面的理解を深めること

**コメント [y107]:** 実際に10人に読んでもらって、そのうち何人が納得したかを確認するつもりですか?もしもそうでないなら、この質問に答えても、意味がないのではないですか。  
一般的に言って、説得力は多数決ではないです。論理的に一貫しているか、客観的情報に基づいているかなどによって、文章自身で決まります。

**コメント [y108]:** もちろん、高校までに学んだ知識や技能を活用してください。それを踏まえて、はじめて大学で新しいことを学ぶことができます。小学生いきなり論文を書け、と言ってもできません。

を目的としているとの説明があり、その後論理的思考力の養成の最初の一步が説得力のある文章を書く能力であるとの説明があった。考えて文章を書くということは頭の中であれこれ考えるのではなく、調べ、知り、書き、読み直し、書き直すの繰り返しによって文章を書くことであり、それらを踏まえたうえでレポートなどを書く。これらの説明は非常に分かりやすく納得のいくものだったが、授業中に論文やレポートには「自分の興味・関心」のあることは書かないとおっしゃっていたのには疑問を感じた。自分の興味・関心がないものを論文やレポートにまとめたところであまり意味を感じない。自分の興味・関心があるものとないものでは先ほど書いた調べ、知るまでの過程に違いが出てくる。興味・関心のあるものに対しての調べる意欲とそうでないものに対しての調べる意欲は必ず興味・関心のあるものに対してのほうが高いと考えられる。そのため調べる量に違いが出てくるため知る量にも違いが出てくる。より多くの情報から厳選して論文やレポートを書くことができるから論文やレポートの質も高まるはずだ。だから興味・関心のあることを書いても良いのではないかと感じた。

初回の授業では、SIH 道場の続きとして、総合科学部入門講座の導入のような内容でした。レポートや論文の書き方について色々教えて頂きました。出典の明記や明示の仕方についてが、よく分かっていなかったのですが、「」をつけてどこからどこまでが引用なのか示すことが大事なのだと分かりました。

最初、小論文と論文には大した違いはないんじゃないかと考えていましたが、根拠を調べて書いている点や、書くことにとても長い時間がかかる点など色々違うところがあると知りました。

何度も考え直して、反復練習をすることが論文やレポートを上手に書くために大切だと教わったので、自分なりに推敲し、良いものが書けるように練習して早く慣れたいと思います。

論文・レポートとは何かということを中心に学んだ。

見分けの難しい小論文や調べ学習との違いも学んだ。

例えば、根拠を調べたうえで書いたりまだ正解の見つかっていない問題について書いたりすることが論文・レポートの特徴であり、小論文や調べ学習との違いでもある。

論文・レポートを書くにあたって大切なことは考えることである。

そこで、考えるとは、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」という行為を繰り返すことによって文章を作成することであると知った。

大学生になるとレポートを書く機会が増えると聞いていたがレポートとはどういうものなのか全く想像できなかった。今まで書いていた感想文と違うと聞いてもそこまで変わら

**コメント [y109]:** 知らないことについて、興味や関心を持つことはできません。ですので、まずは大学での授業などをきっかけに、「知る」ことが先に立ちます。論文やレポートを書くときに、「学問的・社会的に重要なこと」をまず認識して、それらのなかからどれを選ぶか、というところで、興味や関心を選んでください。ただし、興味や関心は、調べる「動機」になります。自分の主張が正しいことの根拠にはなりません。つまり、個人的な興味や関心を論文やレポートの表に出してはなりません。

ないだろうと軽く考えていた。このように私は物事を軽く考えるということが多かった。

だから、これからは考えるという言葉の意味をよく理解し、論文・レポートを書くときに生かしていきたい。

そして、誰もが1つの物事についてしっかりと考えるようになれば、多様な考えが飛び交い、面白くなるだろう。

論文やレポートは説得力のある文章や根拠のある意見を書く必要があり、その場で調べずには書くものではない。また、引用したものは検索されるとそのことがすぐにわかる。だから引用したものは出典を明記し、引用箇所をカギカッコで示し、コピペと言われないようにすることが重要である。

インターネット上には正しい情報も誤った情報もあります。その中から正しい情報を探すにはどうすればいいですか。

コメント [y110]: 教科書 28~29 頁を参照。

レポート、論文とは、自分の正解を持ち根拠のある主張をすることであり、他者と対話する際に必要な能力でもある。これらのテーマになるものは多くに人にとって重要なことで、賛否両論あり、明確な正解のないものである。また、レポート、論文の製作の際の引用には出所表示、明瞭区分性、主従関係といったコピペとの明確な違いがある。上達のためには視野を広く持ち、反復練習をすることが大切である。私もこの反復練習はレポート制作だけでなく様々なことにおいても重要なことだと思う。なぜならエビングハウスの示した忘却曲線が「学習したことを 20 分後に 42%、1 時間後に 56%、1 日後に 74%、1 週間後 77%、1 ヶ月後 79%が忘れてしまう」(Copyright © 2017 Free Academy All Rights Reserved / free-academy.jp / 4、15 閲覧)と示しているように人は復習なしでは学習したことは身につかない。しかし、長い時間をかけて残った記憶は長く保持される。このことから、反復練習することは大切だ。

コメント [y111]: これでは出典を示したことになりません。

今日の総合科学入門講座では、この授業の流れ、論文・レポートについての説明があった。論文・レポートの説明では、自分の意見を思いつきや感想ではなく根拠づけて主張しなければならないことや、入試試験のために勉強した小論文との違い、引用とコピペについて、出所表示の大切さについて学んだ。「コピー&ペースト」通称:コピペはネット上にある文章の出所表示をせずにまるで自分の文章であるかのように、論文やレポートに使用するといった点で問題となっている。STAP 細胞騒動の小保方氏の論文が海外論文のコピペであり、連日ニュースに取り上げられたことは記憶に新しい。私自身、ブログや SNS などインターネットをよく利用する身であるため、度が過ぎるコピペは許されないことである

コメント [y112]: 三つの必要条件がありました。

コメント [y113]: 度が過ぎようと過ぎるまいと許されません。

と認識している。その理由として、相手の信頼を裏切り自分の信用を失う点があげられる。出所表示のないコピペや語尾だけ変えて wiki からそのまま引用してくることはいわば盗作と同じだ。これから論文やレポートを書く機会も多くなってくると思われるが、製作者がコピペ盗作だと相手に思われないうちに、レポート・論文内容への深い理解、徹底した出所表示が必要とされてくるだろう。

今回の講義では、論文やレポートの、小論文と調べ学習との違い、引用とコピペの違いを学んだ。レポートは、正解が無い又は見つからない問題を、根拠を調べた上で書くものである。また、引用は出典を明記し、引用箇所をカッコで括るものであり、コピペは引用であることを示さないものである。そして、もう一つ大事な事として、反復練習は大事だということも学んだ。高校時代の受験勉強や部活動然り、繰り返し練習することで物事は上達する。逆に言えば、繰り返し練習をしないと感覚が抜け落ちてしまい、上達することはない。レポートもそれら同様に、書き続けなければ上達しない。また、上達には訂正やアドバイスをされたら、素直に受け入れるように心がけることも大切である。訂正されたものをそのまま放置していても、その訂正は頭に残らないし、また同じ失敗を繰り返す可能性があるからである。

今回の授業では、主に論文とレポートの正しい書き方について学んだ。論文・レポートとは、自分の意見を根拠づけて主張するものであり、根拠のない思い付きや単なる感想ではない。また、引用とコピペの違いは、コピペは引用であることを示さないが引用は出所表示、明瞭区分性、主従関係を用いて引用であることを明らかにする。私はこの中でも主従関係が一番難しいと考える。論文・レポートは自分の問題意識述べるものでありその過程で引用を利用する。そのため、引用箇所は少量にとどめ、大部分は自分の意見を書くものである。しかし、自分の意見や自分が導いた正解がしっかりしたものでないと希薄な内容しか書けなくなり、引用を多用してしまう。そうすると主従関係は成り立たなくなってしまうからだ。引用ばかりでレポートを産めないためにも、根拠を集め自分の意見や正解をつき詰めて行く必要がある。

今回の授業では、主に論文の書き方について学んだ。また、それらを書くときに注意すべきこと、そして小論文との違いにも触れた。授業の中で、論文やレポートを書く際には根拠を調べる事が大切である、という話があった。もちろん、説得力のある文章を書く上で根拠を調べることは絶対条件であるが、自身の体験を述べることも重要ではないだろうか。自身の体験を述べた上で、その内容について調べ根拠を明示する。そうすることで、

具体性のある論文・レポートが書けると考える。

今回の授業で、まず始めに「大学入門講座」シリーズの説明、総合科学入門講座の日程説明、Web ページの説明があった後、この授業の課題の取り組み方や講義の目的の説明があった。この説明で私は、コメントは感想ではなく、根拠のある主張をしなければならないということを学んだ。次にレポートについて説明があり、高校の時に取り組んでいた「小論文」や「調べ学習」との違いや、引用する時に大事なことを学んだ。

疑問に思ったのが論文とレポートの違いは何かあるのかということである。なぜこの質問をしようと思ったかと言うと、違いを知らないと今後論文を書く際にレポートと同じように書いてもいいのか迷ってしまうというようなことが起こるのではないかと考えたからだ。

**コメント [y114]:** 授業に出ず、割と短いのが「レポート」、卒業研究などで制作する、本格的なものが「論文」。基本的に同じものと考えてもらってけっこうです。

論文やレポートは、今まで書いてきた作文や小論文とは大きく異なる。論文やレポートは根拠を調べたうえで、自分で決めた「正解」を書かなければならない。そして、自分で決めた「正解」をほかの人に納得してもらうには、説得力のある文章を書く能力と根拠となる資料が必要となってくる。説得力のある文章をかくには『コピペと言われないレポートの書き方教室』を参考にすることが大切である。それに対して、根拠となる資料を論文やレポートで扱うときは、コピペにならないよう細心の注意が必要となる。そのためコピペではなく、引用といわせるためには、出所表示・明瞭区分性・主従関係を忘れずに行う必要がある。また、「自分の興味や関心」で書かないように注意を忘れずに行う必要がある。そして最後に、論文やレポートを書くうえで最も大切なことは、反復練習である。様々な技術は地道な反復練習によって身に付くものである。

質問です。最近では知らない教授の論文などをかんたんに見らめるようになっていますが、それらが引用しても大丈夫な論文かどうか見分ける方法はありませんか。過去にコピペされた論文があったので、引用できなかったことがありました。教えてください。

**コメント [y115]:** 簡単な方法はありません。見分ける眼力を身につけるためには、論理的な文章を書く反復練習しかありません。

今回の授業では、コピペと引用の違いや論文やレポートの書き方について習いました。大切なこととして反復練習が挙げられていましたが、論文やレポートを何度も書くこと以外にそれらを書く能力を鍛える方法はありませんか。この質問をしようと思った理由は、確かに大学生になってレポートを書く機会は増えると思いますが、それだけでは他人と同程度にしかかなれないのではないかと考えているからです。また、他人がやることに何かプラスしてレポートを書く力を鍛えたいと考えているからです。ご回答お願い致します。

**コメント [y116]:** 本をたくさん読むこと。

今回の授業での目的は、説得力のある文章を書く能力を養い、考えるとは「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」の繰り返しによって、文章を作成するという事だった。他にも、出所表示は読者が速やかに出典を確認するために必要であり、論文・レポートとは根拠を調べたうえで書き、まだ正解の見つかっていない問題に対し自分の決めた答えを書くものであるということも学んだ。そして大切なことは反復練習であり、地道な練習により身につくということも学んだ。先生は、「考える」とは頭の中であれこれ考えることではないとおっしゃったが、私はこれに関して質問がある。なぜ頭の中であれこれ考えることは、「考える」ということではないのか。私がこのように質問した理由は、どんな話題でも調べたりする前に、少なくとも数分から数十分はその話題に関し、それが何なのか誰でも頭の中でまず考えて、そして、その行程を経てから話題を調べ、知ることに繋がると思ったからだ。また、一度頭の中で考えることにより、調べたことの内容が理解しやすくなる。だから頭の中であれこれ考えることは、先生のおっしゃった「考える」ことの中に含まれるべきではないだろうか。

**コメント [y117]:** 含めてもらってもかまいませんが、いずれにせよ「調べ、知り、書き、書き直す」という作業の練習はしてください。

今回の講義の内容は、論理的思考力を養成する大学においてレポートを書く上で、禁止事項や小論文などとの違い、そしてコピペの概要や引用の表示方法についてであった。

その中で私は、レポートとは「思う」を使わずに根拠を示しつつ、具体的な例を交えて自己結論を説得力のある文章で表現するという認識を持った。

ここで「調べ学習」との違いについてレポートは調べ学習とは違って正解を探すものではないとあったが、私は様々な資料を参考に自分の意見を示す事に、自分の中で「正解」を出すという意味合いも含まれるのではという疑問が生まれた。

**コメント [y118]:** どこかにある正解を探してくるものと、自分自身で正しいと考える意見をつくりあげることとは、違います。

**論理的**思考力を養成するためには説得力のある文章を書く能力が必要になる。論文とレポート、入試の小論文、調べ学習、引用とコピペはちがっており、それぞれ特徴がある。出所によって示すべき情報が変わってくる。引用部分が多くなってしまうのはたった1つの情報しかみないからであり、視野を広くしてたくさんの情報をいろいろな視点からみることが大切だ。あえて自分の意見とは異なった意見を探すことも大切になってくる。以上のことを意識してコピペと言われないレポート作りに励みたい。

レポートの書き方を学んだ。

高校までやっていた小論文や調べ学習、読書感想文などとは違う。レポートは単なる感想や根拠の無い思いつきを書いてはいけない。

**コメント [y119]:** 以下、箇条書き風でなく、文章で書いてください。つまり、文と文を接続詞で結ぶ。



客観的な根拠のある論理的な主張をするもので、説得力のある文章を書く能力が必要だ。レポートの書き方は、まず論じるべきことを見つける。論じる事柄は、自分の興味や関心で書くのではなく、賛否両論が対立していて、社会的、学問的に論じるべきものを選ぶ。そして、その事柄の問題解決を目的にレポートを書く。多くの情報を調べ、反対意見も探し、具体的な結論を考える。レポートを書いて行く中で、自分の問題解決のために引用を行う。引用をする時、コピペとにならないように注意する。引用をするには、出典を明記し、引用箇所をかぎかっこでくくる。本、ウェブページ、論文などからの引用を読者が速やかに確認できるようにする。最後に自分で問題解決の結論を書く。結論は自分の考えを具体的に書くことが重要である。この授業でレポートを書くには、調べ、知り、書き、読み直し、書き直すの繰り返し、反復練習が大切だと学んだ。

感想文と論文・レポートの違いがよくわかった。また引用も決まりがあって、著作権の違反にならないよう正しく使いたいと思う。小テストはスピードが早かったが、話を聞いていれば全てわかった。レポートが普通の作文にならないよう頑張ろうと思う。

今回の授業は、学術的発想と書き方ということで、主にレポートの書き方についての講義だった。この講義では、説得力のある文章を書く能力を身に付けること、自分で「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」ということを行わなければならないこと、引用する時は出典を示すこと、自分の意見に根拠を持って答えること、結論としては自分の主張を論じることを学んだ。私は、この講義で、大学でレポートについて学び、レポートを書くことが、社会に出て論理的に説明できるようになったり、上手くコミュニケーションをとることに繋がるようになるかと解釈した。そして、今までの学生という意識から社会人であるという意識へと自分自身を変えていかなければならず、高校までとは異なり、大学では自分から学ぶ姿勢を見せていくべきだと考えた。

今回の講義で、山口教授はコピペと引用の違いについて説明した。コピペとは、考えもなしにただ写すという行為をすることであり、引用とは、自身の意を詳しく説明するために、他者の言葉等を、出典などを明確にして記すことであると。自分の言葉で書き上げた論文、レポートが、偶然にも他者のものと完全に、あるいは部分的に一致してしまってい

コメント [y120]: どう違うのか、説明してください。

コメント [y121]: 語句や字句レベルであれば一致することはあるでしょうが、数行にわたって一致することはほぼありえないと言って間違いありません。

た場合、どうすれば良いのだろうか。読み手からしてみれば、先に読んだ方が原文で、後から読んだものがコピペだと捉えられてしまいかねない。

この**体種**の状況は、作詞、作曲をする際にも起こりうる。例えば、SEKAI NO OWARIの曲「SOS」(作詞 Saori、作曲 Fukase、2015年)と、セリーヌ・デュオンの曲「To Love You More」(作詞作曲デイヴィッド・フォスターとジュニア・マイルス、1995年)は、**とてもよく似た曲調を持っている**。ただし、作詞作曲の話ともなれば、問題は殊更に大きく膨れ上がってしまう。私はそこまで大きな話をするつもりはない。

何が言いたいかという、コピペかどうかを判断するのは**結局のところ受け手の方であるから**、少なくとも、あれこれを作成、提出する際は全て**大学の講義内で片付けてしまえば良いのだ**。そうすることで、教授の負担が増えるが、確実にコピペという不正をなくし、純粋な自分の意見を受け手に示すことができる。

つい先日まで高校生であった私達は『レポート』に触れる機会がほとんどなかったといっても過言ではない。しかし『論文・レポート』は、大学生となった私達の一番の課題である。そして『自分の意見を根拠づけて主張することが他者と対話するために必須の能力であり、民主主義の基礎である』のならば、これは社会人としての私達が必ず身につけなければならない技能である。

そうした中で『コピペ』は昨今特に話題であるように、身近な問題の一つだ。

そもそもコピペは、著作権法に違反する。大学生だからといって減免されるわけではない。また、著作物をコピペするだけでは私達は『考えて』いないのだ。

論文やレポートで養うべきは課題を楽に終わらせることではなく『論理的思考力』であり、それを生かした『文章を書く能力』である。コピペで、私達は『調べ、知り、書き、読み直し、書き直す』ということができるだろうか。また、その作業を繰り返すことができるだろうか。能力は身につくだろうか。否である。技術を身につけることにつけて楽などできやしないのだ。

自身の能力を伸ばすためにも、私達は論文やレポート課題において地道な反復練習を積み重ねなければならない。(内容は山口裕之先生配布の資料に拠りました。)

今回の総合科学入門講座を受講し、考えるとは「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」の繰り返しによって文章を作成することだということを学びました。感情というのは感想であって、根拠にはならないと山口教授はおっしゃっていました。確かにその通りだと思いました。それから、引用とコピペの違い、「引用」は出典を明記する(出所表示)・引用箇所をカギカッコでくくって明示する(明瞭区分性)・自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用する(主従関係)であり、「コピペ」は引用であることを示さないことである

**コメント [y122]:** セリーヌ・デュオンの曲を知らなかった、というのは音楽家として通らない言い訳だと思いますが。

**コメント [y123]:** そんなことはありません。コピペかどうかは、もともなっていたと思われる文章との一致度などから客観的に判定します。コピペは学生の懲戒対象事由ですから、「受け手の主観」で処分することはできません。

**コメント [y124]:** 具体的にどうしたらよいということでしょうか？必要な資料はすべて講義で配布して、それ以外は読まなくてよい、ということですか？大学で、そんな汎用性の乏しい(授業以外で役に立たない)授業を行うのは有害です。

ということを学びました。また、私がこの講義の中で1番読み手を納得させるために大切であると感じたのは、賛否両論が対立している点、つまり社会的学問的に論じるべき点を文章内で述べるということです。自分の意見をはっきり述べつつ、相手が反論してきそうなことを予想して論理的に述べる、これが1番大切だと感じました。文章を書く上で、相手を納得させることが1番難しいと感じていたので今回の講義で学ぶことができて良かったです。そして、講義の中で「客観的な根拠のある、論理的な主張」とおっしゃっていましたが、「客観的な根拠」とは「一般的に考えるとわかる、常識的なこと」ということでしょうか。おそらくこれが文章を書くうえで基本となる重要事項であろうと思ったため、質問させてもらいました。論理的な文章を書くための訓練を頑張ろうと思いました。

**コメント [y125]:** ちがいます。学術論文など、科学的な調査によって客観的に正しいことが社会的に認められている事柄、ということです。

今回の講義の中でレポートの書き方について、まず調査、考察をして、それをもとに根拠づけて書くこと。また、引用の際には出典の明記、開示、加えて引用箇所を少しだけにして、そのために反対意見を探すことについて学んだ。

私はレポートを書くことの意義として、人にわかりやすい形で自分の意見をまとめる能力の養成につながると思う。将来、就職でどのような形の職に就くにしてもこの能力は活かされるので十分に練習する必要があるだろう。

今回の総合科学入門講座は授業概要・目的、コメント・レポートの書き方、論文・レポートとは何か?またそれらと入試で行われる小論文との違い、引用とコピペの違い、引用の際に必要な情報など、これからの大学生活にとっても重要となる講義でした。

大学入試で使われる小論文は、「読解力、発想力、論理的思考力、表現力が必要」(Benesse マナビジョン 小論文って何? 作文との違いを知る <http://manabi.benesse.ne.jp/gakushu/essay/01what/> 4月15日閲覧)です。しかし、この4つの力の一つである論理的思考力は説得力のある文章を書く能力ですが、説得力のある文章を書くためには考える必要があります。考えるとは、今回の講義で習ったように『調べ、知り、書き、読み直し、書き直す』であるにもかかわらず大学入試では何も調べるものは持ち込んではいけません。それでは、説得力のある文章が書けるのでしょうか?受験生に説得力のある文章を書かせるために小論文の問題にあった本などを学校側が配布し**時間内に小論文を作成させる**というやり方なら説得力のある文章になり筋の通った小論文ができるのではないかという意見を持ちました。

**コメント [y126]:** 私の意見では、大学は一年ぐらい前にテーマを公表して、そのテーマに関する「論文」を提出させ、その論文をもとにした口頭試問によって評価するのが良いと考えています。

授業は総合科学入門講座で身に付ける力について、また説得力のある文章が根底にあるレポートの書き方についてのものだった。

山口教授は総合科学入門講座で身に付ける力として論理的思考力の養成と物事の多面的理解を挙げている。しかし論理的思考力の養成の最初の一步は説得力のある文章を書く能力であったが、物事の多面的理解についてはほとんど触れなかった。レポートを書く上で様々な情報を集めるという行為が多面的理解につながるということができるかもしれないが、そこには問題があると私は考える。問題とはネット上では書き手は自分の主張の根拠をすべて伝えられないことだ。つまり、読者が仮に矛盾点を見つけたとすると、そのとき書き手は矛盾点に対して説明することができず、理解を深め難いのだ。これでは矛盾点に対して意見をぶつけ合い理解を深めることはできないと考える。そこで私は矛盾点に対して話しあえる場が必要であると考える。理由は疑問に思ったことをその場ですぐ伝えられるし、より多くの観点からものごとを捉えられるからだ。また、相手の生の声であるために主観が介入しづらく、物事の多面的理解につながりやすい。

余談ではあるが、プリントにある“「考える」≠頭の中であれこれ考える”という表現は不適切である。「考える」を説明するために「考える」という言葉を使用すると説明にならないのだ。

大学でのレポートや論文等の学術的文章を作成するにあたり「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」という過程が必要となる。私が後期試験で使った小論文との大きな違いは、調べるという作業が入ることだ。これは文章が自分の単なる根拠のない思いつきや感想にならないための根拠づけである。

その際注意しなければならないのは

- 1:出典を明記すること
- 2:引用箇所を「」で囲うこと
- 3:自分の意見を中心に書くこと である。

また大部分が引用になってしまわないようにするコツとして、自分が決めた正解について具体的に書くことやあえて反対意見を探してみることが挙げられる。

なお、反復練習しない限り、良い書き方が身につくことはない。

質問は、僕は視野が狭いと高校の時に言われたのですが、物事の多面的理解つまり視野を広げるには、どうしたらいいでしょうか。やはり読書が有効ですか。

総合科学入門講座では、論理的思考力の養成と物事の多面的理解を学んでいく。

まず初めに、論理的思考力の養成の第一歩として説得力のある文章を書く能力があげられる。そして、文章を書く際に、何を書くか考える必要があるが、その「考える」とは頭の中で色々考えるのではなく、本やネットで情報を調べ、それが正しいかを判断し、その内容を理解し、その「考え」を書いては読み直し、また書き直すことを繰り返すことであ

コメント [y127]: 一回の授業ですべてのことに触れるわけにはいきませんからね。

コメント [y128]: そのとおりですね。ネットでも、掲示板やSNSを使って「議論」が可能ではありますが、そうした場で行われる「議論」は、えてして感情的な罵りあいになってしまいがちです。きちんと根拠つけて議論する能力を、皆さんは身につけてください。

コメント [y129]: そのとおりですね。何と表現すればよいですか？

コメント [y130]: はい、有効です。というよりむしろ、それ以外にないと言っても過言ではありません。

る。また、読み直すことは前提知識のない友達や家族にしてみらうと、より効果的である。

次に、これから私たち大学生がやっていく論文やレポートだが、それらは自分の意見を根拠づけて主張するものである。また、このことは他者と対話するために必須の能力であり、高校の勉強とは全く違うものである。レポートを書く際に、情報源の出典を明記したり引用した箇所を示さなければ、コピペになってしまうので注意が必要である。また、引用が多くなりがちな場合には、調べたものの反対意見を探して比較することなどが必要である。

最後に、レポートを書く技術は反復練習が大事なので、恐れず積極的にやっていくべきである。

今回の授業では、マークカード左下にあった区分について塗る必要があるのか説明しなかったため、疑問に思った。

総合科学部入門講座では論文・レポートとはなにか、引用とコピペの違いとはなにかということを教えていただいた。

論文・レポートとは事前に自分で調べて、賛否両論ある問題について自分で正解を見つけ根拠付けで主張するものだというをした。また引用とコピペのちがいは、引用とは出所表示を書きその部分を「」でくくり、引用箇所は少しだけにすることであった。コピペはそういったことを書かずにあたかも自分の意見であるかのように書くことであった。

レポートや論文は賛否両論あるものについて自分なりの正解を見つけ、根拠つけて主張するものと教えていただいたが結論が出ている問題についても論文やレポートを書いてもいいはずだ。例えばコペルニクスは今まで正しいと思われていた天動説と対局の考えである地動説を発表し、現在では地動説が正解とされている。このように正解だと信じられている問題に対しても疑いを持ち考え続けることが新しい正解が生まれるきっかけにもなるだろう。だから私は正解が出ている問題に対しても論文やレポートを書いてもいいと考える。

今回の授業は、「学術的発想と書き方」と題して、主に考えることとは何か、論文・レポートとは何か、引用とコピペの違いについて説明を受けた。その中で重要なことは、意見は文章だということ。考えることとは、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直すこと」の繰り返しによって文章を作成することであり、頭の中であれこれ考えることではないということ。そして文章を書くときも同じく、頭の中にあるものを取り出すわけではないということだ。また、入試の小論文と、論文・レポートの違いは、小論文は何も調べないでその場で書くものであることに対して、論文・レポートは根拠を調べて書くものであるとい

コメント [y131]: 「必要がないこと」すべてを説明することはできません。「ここに10ケタの学生番号を塗ってください」など、記入の必要な個所はすべて説明したので、それ以外のところは空欄にしておいてください。

コメント [y132]: もちろん、かまいませんが、みんなが「正解」だと思っていることを疑うためには、コペルニクスレベルの能力が必要です。

うことだった。

今回の授業の内容を踏まえて質問したいことは、私たちが高校までの学習で行っていた小論文における考える、とは何であったのか、ということだ。

今日の授業内での考えるとは、上にも書いた通り「調べ、知り、書き、読み直し、書き直すこと」だった。しかし、小論文は、出された問いにその場で答えを書くものであり、すでに知っているものについて文章を書くものだ。その過程には、「調べ、知る」は含まれていない。よって、小論文を書く際に、内容などについてあれこれ思いを巡らせていたのは今回の授業における「考える」とはまた違うものだと言える。それならば、小論文を書くときの考える、とはいったい何なのか、疑問だったので質問する。

**コメント [y133]:** 「実は考えてなどいなかった」ということではないですか。

今回は、「学術的発想と書き方 1」という授業であった。高校までの感想文や小論文とは内容も目的も根本的に違う大学でのレポートを書くにあたって、必要な情報を教わった。

そこで疑問に思ったのが、今回の授業を受けて購入した教科書を読んだだけでは、私が今書こうとしているこのコメントはレポートとして成り立っていないのではないかと、ということである。

**コメント [y134]:** 毎回のコメントを、「レポート」のレベルで仕上げてくることまでは必ずしも求めません。ただ、「調べ、知り、書き、書き直す」という作業を実践練習する場として活用してください。

そう思った理由は、初めて書くからだ。授業と教科書で学んだことを意識して書いてはいるが、まだ自分の書き方が正しいかがわからない。レポートは反復練習することで技術が身につくと授業で教わったが、初めてのレポートに練習も何もないため不安でいっぱいである。毎回毎回不安にならないためにもこれから努力をしていく。

これってレポートなん?という文章から、これこそがレポートや!と自信をもって言える文章が書けるようになるまで、ご指導よろしくお願いします。

今回の授業では説得力のある文章を書く能力について今までの考え方や書き方と比べてこれから求められる能力についての内容だった。

自分の意見としては「考える」ということは頭の中で発想することではなく調べて、知り、書き直すの繰り返しであるということに強く賛成の意見をもった。頭で発想してもそれは今ある知識からしか思い浮かべることが出来ず、何か新しいものをみるに際して調べなしには太刀打ち出来ないように思うからである。

今日の授業はレポートの取り組み方を学んだ。

まず、レポートとは自分の意見を根拠づけて主張する文章である。高校までの学習とは全く異なるものだということ意識する必要がある。

例えば小論文は何も調べないでその場で書くが、論文やレポートは根拠を調べた上で書

く。調べ学習はしらべたこと(正解)を報告することだが、論文やレポートは賛否両論や未解決問題を書くといった点で違っている。

引用」するときは、必ず出所表示・明瞭区分・主従関係を明記する。出所表示は、出所がウェブページなら制作者・ページタイトル・URL・閲覧日時、本なら著者・タイトル・出版社・出版年・ページを、読者が速やかに確認できるようにする。

私たちは「調べ、知り、書き、読み返し、書き直す」を繰り返し練習して「書く技能」を習得しなければならない。

今回の授業内容は、説得力のある文章を書く能力をつけることについて、レポートの書き方についてであった。まず、説得力のある文章を書く上で重要なことは、文章を頭の中で考えたものを取り出して書くことではなく、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」ことの繰り返しによって文章を作成することである。また、調べる時は、情報が嘘か本当かを判断し、理解することが大切である。次に、レポートを書く上で重要なことは、問題を解決するとき、賛成と反対の主張を比較検討し、検討の根拠として論文などを引用し、自分の主張に繋げることである。引用するときには、出典を明記する出所表示、引用箇所をカギカッコでくくって明示する明瞭区分性、自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用する主従関係に注意して用いなければならない。最後に、レポートを書く時は、**問題の正解を自分で決めることが重要なのではなく、正解は何なのかをどのように決め、それを明記すること**が重要である。

授業の中で、良いレポートを作るためには、反復練習が大切であるとあったが、その通りである。なぜなら、私たち人間は、何日もかけて復習することでしか、記憶を長期的なものとして身につける、ということができないからである。一度だけで身につくと思っている人がいたとしても、それは短期的な記憶として残っているだけで、時間が経つと身につけていたはずの記憶や技術は失われてしまう。完全に記憶や技術を身に付けたいのであれば、何度も反復練習し、慣れていくことが重要だ。

1 授業の内容は、主に総合科学入門講座で何を学ぶのかということと、レポートを書く際に気を付けなければいけないことだった。講義中はノートを出して要点のメモを取り、後からその文字を見ることによって内容を思い出せるようにしておく。大学では、高校までの学習とは違い自身で考える力と多面的に物事を見る力が必要である。説得力のある文章を書けるようになるためには本を読んで学び、繰り返し練習することが必要。頭の中だけであれこれ考えるのではなく、実際に文章に起こし推敲を重ねる。また、レポートを書く際には単なる感想を書くのではなく、根拠を述べると共に論理的に書かなければならない。引用をするには「1、出典を明記する。2、引用箇所をカギカッコでくくって明示。3、

**コメント [y135]:** いろいろなことが言いたいのか、よくわかりません。前者と後者が具体的にどういうことで、どこがどう違うのか、もう少し説明してください。

引用箇所は少しだけ。自分の問題意識を解決するためのもの。」の3つを守るべし。読む人にとって出典を確認しやすくすることも大切。

2 質問です。なぜ民主主義の話があるのですか。

3 「読書のススメ」や「総合科学部の地域貢献」などいかにも入門らしい講義名の中に政治関連の授業でしそうな題名があったので不思議に思いました。社会人に将来なるにあたって大事なもののなかもしれないと思いましたが、突然入っていたので驚き、質問させていただきました。

以前、私は小論文と論文の違いは数字の差だと思ったが。そうだけではなくて考え方や書き方も違う。小論文だったら何も調べなくて自分の頭の中にある知識で書いたら構わない。しかし、論文の場合には根拠を調べなければならない。そして賛否両論も必要だ。

特に、説得力が高い論文を書くために具体的なことを挙げ、引用を利用することはなくてはならない。引用を利用する時出所表示、明瞭区分、主従関係を注意しなければならない。しないとコピペになって説得力が低くなる恐れるがある。

どんな物事に対して賛成の意見も反対の意見もあるから。結論について絶対正しいことがないが自分の主張が挙げなくてはならない。

授業が終わった時、私は論文を書くことについて自分の主張が一番大切だということを理解した。なぜかという自分の主張を決めないと論文を書いている時いつの間にか論じることが崩れてしまうからだ。

4月14日 総合科学入門講座

この講座では論理的思考力の養成と物事の多面的理解の目的がある。

今回の授業では、論理的思考力の養成の最初の一步である説得力のある文章を書く能力を身につけるために、「考える」「文章を書く」ことについて学んだ。

「考える」とは、調べ、知り、書き、読み直すことである。頭の中であれこれ考えるものではない。「文章を書く」とは、「考える」の繰り返しによって文章を作成することである。頭の中にあるものを取り出すことではない。

小論文と論文・レポートの違いは、小論文では何も調べないで頭の中にある知識を使ってその場で書く。一方、論文・レポートでは根拠を調べたうえで書く。これが違いである。

調べ学習と論文・レポートの違いは、調べ学習は調べたことを報告し、答えのある内容でありその答えを見つけてくる。論文・レポートは賛否両論あるもの、正解が見つかっていないものを調べ、自分が決めた正解を書く。

引用とコピペの違いは、引用では出典を明記し、引用箇所をカギかっこでくくって明記

**コメント [y136]:** この授業で実践する、根拠にもとづいて正しい意見を作っていく作業、さらにそれをもとに、意見を異にする他者と対話する能力は、民主主義社会を支える基礎だからです。

「論文やレポートを書いて、何の役に立つのか？」という疑問や質問を、このファイルのなかでも何人かの学生が書いていますが、「会社に入って役立つ」などの即物的な理由だけでなく、大学は民主主義社会を支える基盤だから、という理由もあります。それを伝えるためです。



する。コピペは引用であることを示さない。

出所表示に示すべき情報は、web からの引用の場合は制作者、タイトル、URL、閲覧日時。本からの引用の場合は、著者、タイトル、出版社、出版年、ページ。論文からの引用の場合、著者、タイトル、掲載誌名、出版年、ページ。これらを読者が出典を、速やかに確認できるように示さなければならない。

引用をするにあたっての注意点は、引用箇所が少しだけになるようにする。2割程度におさえる。大部分が引用にならないようにするためには、1つの情報源に頼らず、あえて反対意見を探してみる。自分の問題意識を解決するという目的で引用は利用する。

結論を出すにあたっての注意点は、自分の主張をしっかりと示すこと。非現実的な結論ではなく具体的に示すこと。

そして、文章を書く能力を身につけるために最も重要なことは反復練習。地道な反復練習によってのみ技術は身につく。

以上のことを今回の授業より学んだ。

私がこの授業を受けて、文章を書く力はもともと持っている能力にもよるのではないかと考えた。その理由は、これまで作文などを書くとき大体同じ子が賞に選ばれたり褒められたりするからだ。論文やレポートも同様に「もともとの方が左右するの大きい」のではないかと思った。

今回の授業ではレポートの書き方について学んだ。コピペという言葉は以前から知っていたが、引用には「出所表示」、「明瞭区分性」、「主従関係」という条件を満たさなければいけないということえを学んだ。論文やレポートでは賛否両論であり、まだ正解の見つからない題材でしか書くことのできないということも学んだ。客観的で根拠のある論理的な主張でレポートは書かなければなりません、レポートを書く以外にどういった方法で練習するのでしょうか?文章を書くのは苦手なので自分でもいろいろ練習したいとおもっています。

第1回目の授業では授業日程とウェブページの紹介があり、主にはコメントやレポートの書き方についての話があった。まず、論文やレポートは高校までにやってきた小論文や調べ学習とは全く異なるもので、根拠のない思いつきや、単なる感想はレポートとは認められない。論文やレポートはきちんと下調べをして、適切に文章を引用した上で客観的に正しい意見を書いたものでなければならないのである。次に、論文やレポートをどのように書けばよいかを示すことは簡単だが、実際に書くことは簡単ではない。なぜなら、論文やレポートを書くには膨大な知識はもちろん、反復練習が必要不可欠だからである。個人的な興味や関心で書くことはタブーで、いまだ解決されていない問題などを論じるべき点

**コメント [y137]:** それはそうですが、たとえ能力が高くても練習しない学生と、そこそこの能力だが毎日地道に練習している学生では、後者の方が実際の力は高いというのが普通です。練習しないでいきなりできる、なんていうことは普通はありません。

**コメント [y138]:** 毎回の授業コメントで練習してください。

として取り上げ、賛否両論の主張を加えながら論理的な主張をしなければならない。しかし、手助けをしてくれるものもある。それが、「コピペと言われないレポートの書き方教室」(山口裕之、新曜社、2013)である。この本を何度も読んで書く技能を習得し、反復練習をすることが論文やレポートを適切に上手に書くために必須の事柄である。

### SIH 道場 学術的発想と書き方

この講義は論理的思考力の養成の最初の一步であり、説得力のある文章を書く能力を身につけることを目的としている。

私たちは説得力のある文章を書く能力を必要とされており、主に論文やレポートを書く際に使う。論文・レポートの特徴は、賛否両論のある話題や正解のない話題について根拠を調べた上で述べる場所である。何も調べずに書く小論文や調べるだけの調べ学習とは違い、自分の意見を根拠づけて主張することが大切である。

また、その際に注意するところが二つある。一つ目はコピペにならないようにする場所である。他人の論文や本を自分の論文に使用する場合は、出所表示を明らかにする必要がある。二つ目は大部分が引用にならないようにするという場所である。大部分を引用するのではなく、自分の文章が8割程度以上になるようにしなければならない。

説得力のある文章を書く能力を身につけるためには反復練習が必要である。考えることは、「調べ、知り、書き、読み返し、書き直す」ことの繰り返しであり、根拠のある論理的な文章を上手に書くにはその繰り返しによって上達する。

授業ではコピペする学生が多く、コピペかどうかをチェックするシステムなどが導入されたと言っていた。このシステムはコピペすることに対する抑止力にもなると噂になっているが、バレたら困るという気持ちからコピペをやめるのは、あまり意味がないのではないか。自分でレポートや論文を書きたくなったり、自分で手を加えたいような気持ちを持つような勉強をすることが大切である。

今回の授業では、主にレポートの書き方について学びました。一番重要だと思ったのはまず、レポートと何も調べないでその場で書く小論文、引用であることを示さないコピペ、の違いを明確に認識しておくことです。それを大前提にして出所表示や内容を考えていきます。

今回購入した山口先生の本で Wikipedia は信頼性が低いと書いていましたが信頼性の高いサイトというものはあるのでしょうか？

私は大学受験の際に小論文の勉強をしました。小論文では客観的に書くことが難しく、

コメント [y139]: そんなこと、言いましたっけ？教科書には書いてありますが。

コメント [y140]: どこで？学生の間ですか？

コメント [y141]: 「ここを見ておけば正解が書いてある」と思うのは、「調べ学習」の思考から抜け切れていません。信頼できるサイトを見分ける能力を身につけることが大切です。

自分の体験などに結びつけることができるパターンをいくつか見つけて書いていました。レポートでは小論文と似ているように思っていたのですが、自分の体験や興味は最後に回し、根拠のある意見、調べた意見を文章にすることだと気づくことができました。また調べた内容をうまくまとめ、ただ調べた内容をコピーするのではなく上手に引用することでいいレポートを書くことができることがわかりレポートをどのように書いていいのか曖昧だったのですが、少しわかったような気がしています。総合科学入門講座でレポートの書き方を勉強したことを活かし読書レポートやこれからの様々なレポートに取り組んでいきます。

**コメント [y142]:** 論文やレポートの中には自分の体験や興味を書く必要はありません。「興味」については書かない方が良いでしょう。

**コメント [y143]:** 具体的に何が分かって、まだ何が分かっていないのか特定してください。そうでないと、次に何を学ばなければならぬかが自覚できません。

引用とコピペの違いや、小論文と論文・レポートの違いなど、意味はほぼ同じだろうと思っていた言葉にも明確な意味の違いがあり、それを踏まえた上で、論文・レポートの書き方を今回の授業で教わった。

その中で、私が疑問に思ったのは、出所表示に示すべき情報についてである。特に、ウェブページから引用する場合に、閲覧日時を表示しなければならないということを疑問に思った。確かに、そのウェブページのその制作者やタイトル、URL は表示すれば読者が出典を確認できるだろう。しかし、閲覧日時を知ったところで意味がないのではないだろうか。

**コメント [y144]:** なぜですか？そう考える理由を示してください。

今回の講座で、論文やレポートの定義やタブーなど初めて知ったことがたくさんあった。コピペと引用の違い、文章を書く際に大切なのは自分の中にあるものを必死に絞り出すことではなく、外から知識を入れ、考え、ひたすら文章を書いて消しての作業を繰り返すことであるということ。その中でも特に難しいと思われるのは、感想ではない、客観的な根拠に基づいた文章を書くということだ。そう感じるのは日常の会話やこれまでの学生生活の中での感想文など、主観に基づいて話したり書いたりすることが圧倒的に多かったことが関係しているはずである。今までの、感想文を書いてきた感覚を捨てるためには、知識を増やし、日常の中で物事を客観的に、多面的に見ることができる訓練をする必要がある。例えば、自分と考え方の全く違う、意見がぶつかりがちな友達との会話はそういった目を養うための絶好の機会だ。そのような訓練が論理的な主張、良い文章を書くことにつながる。

今回の授業では、大きく、論文・レポートの正しい意味・書き方について学んだ。

これらを書く上で大切なことは、根拠の上に自分の考えが成り立っていること、また論理性、理由(具体性)があることである。ということだった。

ここで、小論文と論文の違いについてふれてみる。字の上では、”小”の文字が付け加

えられただけのように思われるが、これらの間にはおおきなちがいがあ、と先生は述べた。確かにと思った。理由は、高校時代に遡るが、小論文を書く”練習”をしたことを思い出したからだ。論文は、知る・調べという行為が前提にあるのに対し、小論文は、出されたテーマについてその場で考える。この場合、流れさえつかんでいれば、たいていが書いてしまうのである。要するに、その”練習”さえすれば書けるのが小論文であり、”考える”という行為が行われるのは論文であるということだ。この点において、これらは、違っているといえる。

上記のような違いがあるのに対し、レポートと論文の違いは何ですか。

先生の言ったことにそのまま、うなずいているみたいな文章ですが、これはコピペにはあてはまらないですか。

コメント [y145]: コメント y114 を参照。

しかし、その違いを知ることは何の目的ですか？

コメント [y146]: コピペの「定義」から考えてください。

今回の講義の目的は、論理的思考力(=説得力のある文章を書く能力)の養成の最初の一步を踏み出し、調べ・知り・書き・読み直し・書き直すという考えることの繰り返しによって、文章を作成することであった。

論文・レポートとは、根拠のない思いつきや単なる感想とは違い、自分の意見を根拠づけて主張し、他者と対話するために必要な能力であり、高校までの学習とは全く異なるものである。論文・レポートと2つのものとの違いについて次のように述べられた。1つ目は、小論文との違いについてだ。小論文は何も調べないでその場で書くが、論文・レポートは根拠を述べたうえで書く。2つ目は、調べ学習との違いについてだ。調べ学習とは、調べてきたことを報告し、正解を探してくるが、論文・レポートは賛否両論のある話題を取り扱い、まだ正解の見つかっていない問題について論じる。また、引用とコピペの違いについても述べられた。コピペとは引用であることを示さず、引用とは出所を明記し(出所表示)、引用箇所をカギかっこでくって明示し(明瞭区分性)、引用箇所は少しだけで(主従関係)自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用することである。出典に明記すべき情報は、読者が出典を速やかに確認できるように著者・制作者やタイトル、ページ、出版年・閲覧日時、出版社・URL、掲載誌名である。また、大部分が「引用」になってしまうのは情報源を一つしか見えていないためであり、解決策としてはあえて反対意見を探してみたり、自分の興味や関心ではなく社会的・学問的に論じるべき賛否両論が対立している「論ずべきこと」を発見し、その「問題」を解決するという目的で書くようにすべきである。ダメな結論の例としては、自分で決めた主張を論じていたり、他人事であったり具体的なことを書いてなかったりするもので、大切なことは反復練習である。「なんでもうまくいくちょっとした一言」なんてなく、「技術」は、地道な反復練習によってのみ、見につくのである。今回の講義の内容はこのようなものであった。

私はダメな結論の例で、「非現実的」だと言ってダメだと判断してしまうのはよくないと思う。確かに今必要不可欠のものを使わないようにするとか、そういう意味での「非現実

的」はダメだが、現段階では科学技術的に「非現実的」だとうものは将来実現可能になるかもしれないため、「非現実的」だからと言ってダメだと決めつけるのはよくないと私は考える。

今回の授業では、論文やレポートとは、単なる感想ではなく、自分の意見を論理的に主張するものであり、問題についての正解はなく、反対の意見も述べながら、最後に自分の考えを主張するというものであるということを学んだ。

また、コピペはいけないことであるということは分かっていたが、なぜいけないことなのか考えてみた。ある問題についてのウェブページを見ると、それに対する賛成意見もあれば、反対意見もある。つまり、山口裕之の『コピペと言われないレポートの書き方教室』によると、「複数の情報源を参照すれば、同じ事柄について矛盾する点が見つかり、単に要約したりコピペしたりするだけではすまなくなってしまう」のである。ウェブページに書かれている情報は正解ではなく、それを書いた人のそれぞれの意見であり、多くの人の意見を見た後、自分はどう思うのかをもう一度考え、根拠を述べることによって、論文が出来るのだ。

したがって、コピペという行為は、他人の意見をそのまま載せているだけで、コピペをした文章が正解なのではなく、自分の考えが何も入っていない文章になってしまっているのだ。

参考文献 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』 新曜社、2013

総合科学部入門講座では論理的思考力の養成と物事の多面的理解を学ぶ。

今回の講義の目的は説得力のある文章を書く能力を身につけるために必要なことを学ぶことである。そのためには「考える」は頭の中であれこれ考えるのではないこと、「文章を書く」は頭の中にあるものを取り出すことではないことを知っておかなければならない。

そして、「考える」は調べ、知り、書き、読み直し、書き直すの繰り返しによって文章を作成することである。

論文・レポートは小論とは違う。論文・レポートは根拠のある思いつきでもなければ単なる感想でもない。論文・レポートは根拠を調べたうえでかくものである。それに比べて小論文は何も調べないでその場で書くことが特徴である。

調べ学習と論文・レポートの違いについては、調べ学習は調べてきたことを報告し、正解を探すことだが、論文・レポートは賛否両論があり、まだ正解が見つかっていないことである。

この授業で引用とコピペの違いを教わった。コピペは引用であることを示さない。その反面、引用は①出典明記 ②引用箇所をカギかっこで明示 ③引用箇所は少しだけということ

コメント [y147]: たんに「かもしれない」というだけなら、どんなことでも言えてしまいます。論文やレポートで主張する以上は、たとえ遠い将来であっても実現可能性があることを論証しなくてはなりません。現実的な問題について、現実的な解決を考えるのであれば、議論する意義がありません。

コメント [y148]: そのとおりですね。

だ。

出所表示に示すべき情報では読者が出典を速やかに確認できるようにすることを大切に  
する。

ここまで聞き、小論文もまともに書けない私は論文・レポートというのを毎回提出でき  
るのかどうか疑問に思っていました。難しかったです。

今回の授業では、論文、レポートとは何かを学んだ。論文、レポートは、根拠のない思  
い付きや、単なる感想と違い、自分の意見を根拠づけて説明する、他者と対話するために  
必須の能力だ。何も調べずその場で書く小論文や、調べたことをそのまま発表する調べ学  
習と違い、論文、レポートは、賛否両論のある答えの見つかっていない問題について、自  
分の考えを根拠をもって書く必要がある。また、論文、レポートを書くにあたって、文献  
の引用は必須である。コピペと違い引用は、必ず出典を明記し、「」をつけて表さなければ  
ならない。引用が大部分となってしまうためには、自分の問題を解決するために利用  
する、という主従関係に留意したり、多面的に物事をとらえるために反対意見を探してみ  
たりする必要がある、とのことだった。以後、今回の授業で学んだことをほかの場面でも  
生かしていきたい。

今回の授業を受講し、何か提言するとすれば、「具体例をもっと挙げて頂けたら、さらに  
分かりやすい授業内容になったのでは」ということだ。

コピペと引用の違いについての説明でウィキペディアのコピペが具体例に出されていた  
が、その他の項目の話については具体例は紹介されなかった。一般的、抽象的な話も勿論  
必要であるが、具体例を挙げてもらうことによって、抽象的な言葉をより深く理解できる。  
抽象的な言葉というのは、例えば抽象画を観た人がそれぞれで様々な印象や感情を抱き、  
各自で違った解釈をするように、ときに発信者の意図しないような意味で理解されること  
もあるからだ。リンゴ、と聞くと赤いリンゴを想像する人もいるし、緑のリンゴを想像す  
る人もいる。赤いリンゴ、と聞けば、日本語を理解する人ならほぼ皆が同じ、赤いリンゴ  
を想像するだろう。よって、人にメッセージを伝えたい場合は、抽象的説明と具体例の両  
方で説明すると、理解度は増す。

以上が今回の授業についての私の意見である。

自分自身も、このことに気をつけながら今後学んでいきたいので、よろしくお願いま  
す。

今回の講義は、高校の小論文と大学の論文やレポートの違いについて学んだ。一番の違

**コメント [y149]:** それはあなたの意志の問題です。いまできないことをできるようにするために練習するのです。もし、あなたがすでに論文をすらすらかけるのなら、大学教育は不要です。

**コメント [y150]:** 具体的にどんな場面ですか？

**コメント [y151]:** そのとおりですね。ただし、具体例をたくさん入れると、時間がたくさん必要です。90分間の限られた時間で、必要なことを説明するためには、ある程度の妥協が必要です。それから、授業は一回きりでなく、これからも続きます。一学期かけて、しっかり理解してください。

いは、講義では「根拠を調べているかどうかである」と言っていた。私もその考え方と同じである。その理由は、高校の頃の小論文のテストでは50分ほどで600字～800字の文章を書かなければいけないからである。何も調べないでその場で書くと、自らの経験や決意表明が主となり、根拠のない単なる感想である。私も小論文を書くときは、過去の経験から考えていたが、文章が長くなるにつれて、主張が前後で崩れたり、説得力のある文章でなくなったりと思いついたことを書き並べたものであった。短期間で仕上げないといけないからという理由で論理的な文章が作れなかった。しかし、論文やレポートは説得力のある文章を必要としている。講義でも、「説得力のある文章を書くには論理的思考力が必要であり、考えるとは、調べ・知り・書き・読み直し・書き直すの繰り返しによって文章を作成すること」と言っていた。これは非常に難しいことである。なぜなら、文章を推敲することは大事だが、蛇足になりがちだからである。自分では、完璧と思っても、実際は余分な部分が多くなるのである。そのためにも、客観的視点が重要である。感想は主観的視点であり、評価は難しいが、客観的な主張は評価ができる。しかし、私は客観的な主張の仕方が分からない。客観的な意見では、他人事になるのではないか。また、調べ学習との違いもある。それは、論文やレポートには合意形成能力がある。調べ学習は調べたことをそのまま報告して、正解を必ず探すことであり、論文やレポートは賛否両論のある話題やまだ正解のない問題を題材にして、自分の決めたものを書くため暴力・権力使わないで言葉で正しいものにしていく。私は、その調べ学習と論文やレポートの違いは高校の学びと大学の学びと同じように思う。なぜなら、答えがないからだ。このコメントにも正しい答えはないし、フィールドワークをして現地の問題を解決する方法も1つとは限らない。大切なのは、様々な物事を多面的に見る力を得ることだ。しかし、多面的に見ることと言っても非常に抽象的である。講義でも、「ダメな結論として人それぞれで決めれば良いのような自分の主張でないことや電気に頼らない生活をするべきのような非現実的なことや具体性に欠けること」と言っていた。確かに小論文を書くときに私がよく使っていた結論であったが、論文やレポートには使えないことが分かった。その理由は、考えている問題から逃げていくからだ。戦争について論じるにも、遠い国で起こっていることだからといって、深く知ろうともしないまますぐに正しいか正しくないかと決めている。講義でも、「原子力発電について地震が起きるまでは、大きな問題にせず稼働させていて、地震後に大きな問題にしていた」と言っていた。自分の意見や主張を結論にすることは、非常に難しいことだ。そのために、大学の論文やレポートは長い期間をかけて様々な本や文献を調べること、根拠のある論理的な主張ができる。そのためにも、大切なのは反復練習だということを知った。メジャーリーガーのイチローも子供の頃は毎日欠かすことなく素振りをして、今日の素晴らしい結果を残しているのだ。彼のように、反復練習を欠かすことなく客観的な根拠のある論理的な主張根拠のある論理的な主張をしていきたい。最後に、山口先生に書いてもらった「死して屍拾うものなし」とは調べると、「結果が全てだ」と出てきたのですが、これが正しい意味でしょうか。

**コメント [y152]:** どういうことですか？  
「推敲すればするほど、余計なことを書き足してしまう」ということ？

**コメント [y153]:** 「客観的な事実は正誤が判断できる」と言いました。そして、「客観的な根拠にもとづいた意見」を主張するようと言いました。

**コメント [y154]:** 出典を書きましょう。

**コメント [y155]:** いままで秘密にしていたが、書きましょう。  
学生に「正しく考える技術」を伝える教育は、民主主義的な市民社会を支えるために不可欠な仕事だが、きちんと指導しようとすればするほど学生に嫌われるなど、報われることが少ない仕事である。それをあえて、自らの宿命的な責務 (calling, vocation) として自らに課した以上、失敗して屍をさらしたとしても、誰にも文句は言うまい。という意味です。

## 1 授業の内容

- ・コメント、レポートの書き方
- ・論文、レポートとは何か
- ・入試の「小論文」との違い
- ・「調べ学習」との違い
- ・引用とコピペの違い
- ・出所表示に示すべき情報
- ・なぜ大部分が「引用」になってしまうのか
- ・ダメな結論の例
- ・教科書の宣伝

## 2 意見・質問

山口先生はなぜ授業後に教科書を買わせる手法をとったのか。

## 3 質問の理由

山口先生は授業中にしばしば教科書の購入を促すような発言をしていたが、入学間もない1回生が必修の授業の教科書を買わないという選択をする人は少ないだろう。ならば、わざわざ授業後に出口付近の混雑が予想される中教科書を販売した目的はなんなんだろう。本の良さをアピールするにしてもわざわざ授業後に販売する必要はないはずだ。それともよっぽどサイン会をしたかったのか、はたまたそのような手法をとることで心理学的な力を与えることができたりするのか、私なりに様々な理由を考えてみたが、どれも納得できるものでなかったので質問させていただきました。

今回、総合科学入門講座で、山口裕之先生の授業を受けました。「学術的発想と書き方」ということで、レポートについてのノウハウを教えてくださいました。授業中、先生が強調していたのは、「コピペと引用の違い」「根拠のある意見を書く」の二点でした。私はその中で「根拠のある意見を書く」というのは、大変難しいことではないかと考えました。インターネットが発達した現代において、一つの物事を検索しても関連項目が山のように出てきます。その中で正しい情報を掘り出すことは、大変困難なことではないでしょうか？私もネットで調べ物をする際に、上から一つか二つ目までのページを見ることしかしていません。そのページに載っている事が事実であるかは分かりませんが、膨大な数のページの中からどうすれば真実に辿り着けるのでしょうか？先生に是非そのコツを教えてください、今後の学生生活に役立てたいです。

**コメント [y156]:** 箇条書きでなく、文章の形で書いてください。また、それぞれの具体的な内容を書いてください。

**コメント [y157]:** 数年前、教科書を出版した時に、生協の人から、「授業後に販売に行きましようか？」と提案されたからです。



論文・レポートとは、答えの出ている問題について、根拠のある自分の意見を述べるものだ。説得力を持たせる為に行う引用は出典を明記し、意見と区別しなければコピーペとなるので細心の注意を払うこと、というのが今回学んだ授業の要約である。

この話を聞くまで、私はコピーペと引用の違いがよく分かっていなかった。インターネット上の文章を切り貼りしたものがコピーペであるというのは理解していたのだが、それは切り貼りそのままが悪という認識だった。つまりコピーペした後自分の言葉に置き換えて噛み砕いた文章はコピーペでないという認識だったのだ。

しかし語尾を変えたり自分の分かっていそうな範囲で文章を改変することはまだコピーペの領域内であるということを学んだ。意見に説得力を持たせる為に利用せず、意見そのものに利用しているのであれば、自分の意見と引用が「主従関係」を保っていないということになるからである。それどころか、他人の意見であるのにあたかも自分の意見であるように書き直す行為は「盗作(ないし剽窃)」(山口先生の著書「コピーペと言われないレポートの書き方教室」vi ページのタイトルより)となるのである。ここでも必要なのは自分の意見と区別するため出典を明記すること。単純だからこそ見落としがちな点だろう。少なくとも私は今まで見落としていた。

コピーペと引用との明確な違いは出典の有無。以上が今回学んだ中で理解の革命が起きた点である。

理解した範囲で引用を利用して見たが、適切な使い方が出来ているか定かではない。これから更に理解を深め、授業コメントを利用し経験値を積む所存だ。

コメント [y158]: がんばってください。

初回である今回はレポートを書く際の基本事項として、「作文」と区別する点や引用方法について詳しい説明を受けた。また、論理的な文章にするためのポイントについても指摘してくれ、今後のレポート作成において非常に有意義な講義となった。

相手を論理的に説得するには、広い視野や知見に基づいた現実性がなければならない。インターネットや SNS が急速に普及し、それに伴う情報量が増えた今日であるが、そのネットの便利さのせいで、我々は情報を深く知る作業をしなくなってしまったのではないだろうか。タッパー一つで情報を得られる、でもそれだけで作業が完結してしまうのである。

今後は大学生として豊富な知識を身に着けたい。ネットにはネットの良さがあり、便利ではあるが、今一度関わり方を考えなおしたいものだ。

コメント [y159]: 具体的に、どのようなかわり方から、どのようなかわり方に変えようというのか、書いてください。

今回の講座ではレポートの書き方について講義を受けた。レポートとは感想とは違い、根拠のある自分の意見を主張することであると知った。その根拠も、第三者からの引用といった自分の思い込みや偏った考えのないものを使うということだった。また、情報元を

詳しく正確に付け加えるだけでコピペから引用へと変わることも知った。講義の途中では、大半がコピペや引用となっている悪いレポートの例を見て、語尾や表現を少し変えてコピペだとばれないよう工夫しても先生にはばれてしまうということも教わった。講義をした山口先生は「自分の興味や関心」でテーマを選ばないようにと言っていたが、なぜそれがいけないのかが分からなかった。論文やレポートに「感想」や「自分の持つ信憑性のない知識」を加えてはいけないと学んだが、それを排除すれば書いてもいいのではないかと考えたからだ。また、自分の興味・関心のある事から選べば、レポートを書くのに重要な調査や意見をまとめたりする行為を通して更にその事からについて理解できると考えたからだ。

**コメント [y160]:** 「学問的・社会的に意味のある問題」のなかから、自分なりに興味関心のあるものを選んでください。

論理的な思考力を養う上で、最初の一步となるのが、説得力のある文章を書く能力であり、そのための”考える”とは、調べ、知り、書き、読み直し、書き直すことの繰り返しである。

この今回の授業を受け、私は、説得力のある文章=裁判で相手に勝つ文章だと、とらえた。

自分の主張が第三者に正当であると判断させるよう調べ、事実を知り、それをもとに資料などをまじえて、自分の主張をわかりやすくかつ、説得力のある文章に書き、なんども見直し、調整する。”考える”とは、**裁判で勝つため、自分の意見を通すために準備をすることだと理解した。**

**コメント [y161]:** もちろんそうなのですが、これだけ聞くと、「自分の考え」がはじめからあって、それをゴリ押しすることのようにも読めてしまいます。「自分の考え」は、調べ、知り、書き、書き直すなかで形成されていくものです。それから、ひとの意見を聞いて、なるほどもっともだと納得した時には、自分の考えを変えることが必要な場合もあります。

質問：論じるべきことを発見すると、授業でおっしゃっておられたので、締め切り日まで考えましたが、今回の授業で、私は論じるべきことが見つけることができず、このような感想文のようになってしまいました。**今回の授業の論点は例えばどんなところだったのでしょうか。**

**コメント [y162]:** 他の学生が書いたことを読んで参考にしてください。

今回の講義は、まず総合科学入門講座で学習することの説明から始まった。主に論理的思考力の養成・物事の多面的理解、この二つの実践練習の説明だった。続いて今日の講義の目的の説明が行われた。説得力のある文章を書く能力を養うには、頭の中であれこれ考えたり、その考えたものを取り出すのではなく、調べ・知り・書き・読み直し・書き直す事の繰り返すことが重要である。論文・レポートとは1 自分の意見を根拠付けて主張する2 他者と対話するために必須の能力3 高校までの学習とは全く異なるもの、である。また、何も調べないでその場で書く小論文や正解を探し調べてきたことを報告する調べ学習と違って、根拠を調べた上で書く・賛否両論のある話題、正解の見つかっていない問題を取り上げるという点の違いがある。

続いて引用とコピペの違いの説明である。コピペとは引用であることを示さない。引用とは1 出所表示をする2 引用箇所をかぎかっこで明示3 引用箇所は問題を解決する目的で

少しだけ活用することである。出所表示に示すべき情報は web ページの場合、制作者・ページのタイトル・URL・閲覧日時。本の場合、著者・タイトル・出版社・出版年・ページ。論文の場合、著者・タイトル・掲載雑誌名・出版年・ページである。これは読者が速やかに出典を確認できるようにするためである。論文・レポートを書く際に大部分が引用になってしまうのは情報源を一つしか見ないからである。そうならないためには、あえて反対意見を探し二つの立場に立つことで新たな意見が見えてくる。また、自分の興味や関心で書かず、社会的・学問的に論じるべき点を発見することもある。

最後に大切なことは反復練習であるということだった。

質問:小論文と論文やレポートの違いの説明がありました。確かに小論文はその場で与えられた話題に対して時間内に書くものですが、小論文でも賛否両論の意見が取り上げられていたり、小論文を書く上でもその分野に関して事前に調べたりして自分の意見を書いたりするものだと聞いてます。私は小論文と論文やレポートとの区別がはっきりしていません。明確な違いは何でしょうか？

今回の授業では、コメント・レポートの書き方やレポートと今までやってきた学習の違いなどを学ぶことができた。更には正しい引用の仕方や、ダメな結論の例のどの部分がいけないのかなど具体的に学ぶことができた。

講義を受ける中で、考える≠頭の中であれこれ考えるというワードが出てきて私はそうではないと思った。事柄についてわからないことがあったらすぐにインターネットや図書に頼るのではなく、まずは自分の頭で「色々な事柄」を考えるというステップを踏んだのち、正しい情報を仕入れることが重要であるといえる。すぐに調べた情報に頼ってばかりいると一時的な記憶に止まり、月日が経つとあまり記憶に残ってない事が多い。それでは自分のためにならない。自分で考えた事柄とインターネットや図書で調べた正しい情報が食い違っていれば正しい情報を覚えなおせばいいので自分自身の「知識と語彙」を増やすことができる。

大学では合意形成能力を身につけるために、学術的発想が求められる。総合科学入門講座は論理的思考力の育成と目先のことにとらわれない物事の多面的理解を進めるための授業である。論理的思考力を鍛えるためには説得力のある文章を書く能力を身につけなければならない。考えて書くとは、調べ、しり、書き、読み直し、書き直すことの繰り返しにより文章を作成することである。そこで毎回の授業コメントでは考える練習をする。その際ポイントとなるのが、1 授業内容をまとめる 2 意見質問を書く 3 意見の根拠や質問する理由を具体的に書くことだ。感想と違い主観的要素を入れてはならない。大学生で書くことになる論文とは賛否両論ある社会的、学術的に論じるべき問題点について客観的に自分の

コメント [y163]: 誰から聞いたのですか？

小論文の課題が事前に漏れていなければ、事前に調べておくことはできないはずですが、どうやって課題をあらかじめ知るので

すか？  
それから、いくら調べておいたからといって、出典となる文献の著者・タイトル・出版社・該当ページ数まで暗記しておくのは、非現実的でしょう。

コメント [y164]: どんな事柄ですか？あなたの頭の中には、世の中にある、およそすべてのことが入っているのですか？

コメント [y165]: 知識と語彙ではなく、「考える力」を養ってください。それは、「調べ、知り、書き、書き直すこと」によってのみ身に付きます。

意見を述べたもので、論文を書くことで他社と意見がぶつかったとき正しく納得できる解決方法を見出すための能力を鍛えることができる。小論文と異なり根拠を調べた上で書かなければならず、調べ学習で調べてきたことを報告するのは異なり自分の意見を書かなければならない。また、あえて反対意見を探したりし、賛成反対を調べ比較しどのように自分の意見を決めたか、本当にそれは実現可能かを検討しなければならない。論文を書く際注意したいのは引用についてだ。引用をするには出所表示、明瞭区分性、主従関係を示さなければならない。また、出典が古すぎないか、一つの文献に頼ってしまっていないか注意する必要がある。これらは反復練習することで身につくものであるため、しっかり基本に従って練習を重ねなければならない。

大学の学びではレポート作成に加え、読書を進めるべきだ。人として成長するためには経験を積まなければならない。レポート作成が、反復練習することで正しい書き方を身につけられるように、繰り返し体に覚えさせることでのみ身につくこともたくさんある。社会人より比較的時間に余裕がある今だからこそ様々な経験を積まなければならないのである。留学やボランティア活動をするのも良い。しかし自分でできる範囲にも限りがあるため読書を通じて他人の経験を疑似体験できる読書をするべきだ。

コメント [y166]: まったくそのとおりです。

今回の授業では根本的なことではあるが、論文・レポートとは何かについて学んだ。高校までの学習との対比や引用とコピペの違いなどだ。論文では賛否両論のある話題やまだ正解の見つかっていない問題について書く。その際には考えや意見を曖昧にするのではなく、自分の考えた「正解」を書くことが大切だということも学んだ。出所表示については、ウェブページ、本、論文それぞれで表示の仕方が変わる。特に、ウェブページを引用する際に閲覧日時の記事も必要だということは知らなかったが、この授業で理解出来た。

私は今まで論文と小論文の違いは長さくらいだと考えていたが、授業で小論文は「何も調べないでその場で書く」、論文・レポートは「根拠を調べたうえで書く」ことを知り勉強になった。確かにそうであり、また、知識も情報もないのに考えて書くということは難しいと聞いて納得した。

なぜなら、小論文以外にも創造物にも共通する考え方があると思うからだ。いくら創造といっても何も知識や情報がなければ創り出すことは出来ない。想像上の動物が典型的な例だ。具体的な例で言うと、竜やユニコーンは複数の動物の特徴が合わさって出来ており、1から考えられた動物ではない。このように論文・レポートを書く際の注意事項は他の現象との共通点もあるということを知り、勉強になった。

コメント [y167]: 「巨人の肩に立つ」と言います。

今回の講義では、レポートや論文の書き方について学んだ。高校までの調べ学習や小論文と違い、大学では根拠をもとに自分の意見を主張する文章を書く必要がある。また、文

章を書くにあたって「考える」とは、ただ頭で考えることを指すのではなく、調べたうえで書く・読むことを繰り返すことである。

講義の中で、「意見」と「思い」は別物であると聞き、「思い」も個人の思想であるため主張してもいいのではないかと思った。しかし教科書には、思いは「根拠のない「思いつき」」であるとあったり、「幅広い知識によって根拠づけられた意見のみ価値がある」とあった(山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』新曜社、2013、p64)。確かに「思い」は自分の考え方を固定するため、他人の意見をうけて柔軟に変えることができないものである。しかし、その「思い」が正しい知識をつけたうえでも否定できないものならば、それは根拠を伴った「意見」となる。よって、「思い」をそのまま表記することは避けなければならないが、自分の意見を作り上げる過程において完全に捨て去らなければいけないものではない。

今回の講義で、私は、考えるということは、調べ、知り、書き、読み直し、書き直すことであること。論文やレポートというのは、小論文とは違って、きちんと調べ、また調べ学習とは違って、正解がなく、自分の主張を根拠つけて示すものであるということ。コピペとは引用先を示さず、引用とはきちんと出典明記をしているということ。大部分が「引用」になってしまうのを防ぐためにあえて反対意見を出してみるということ。また、社会的、学問的に賛否両論が対立している問題を発見すること。ダメな結論というものは、具体性や現実味がない言葉であるということ。そして、これらのような技術を身に付けるためには、地道な反復練習が大事だということを学びました。

この講義を経て、私は、自分の興味や関心のある問題以外の社会的、学問的に論じるべき問題はどのような姿勢で取り組むべきなのか疑問に思いました。

問題は多方面な分野において、多くあると思います。しかし、自分の興味が薄いと目を向けることが、難しいと思います。ですが、自分の興味ある分野だけを調べるばかりだと、視野が狭くなってしまおうと思うので、自分の視野を広げるためにも、多くの分野の問題に取り組むべきだと思うので、知りたいと思いました。

今回の総合科学入門講座の授業で、論文やレポートでは自分の意見を主張する際には根拠を持って主張することが大切だと学んだ。また、論文やレポートでは賛否両論のある話題や、まだ正解というものが明確ではない問題について述べる必要があるとわかった。そして、単なる感想文にならないようにしなければならない。また、自分の意見を述べる際に根拠を示すために引用を用いることがあるが、引用の際に出所表示というものを示さなければコピペになってしまうことがある。出所表示では、出典を明記したり、引用箇所をカギカッコでくくって明示することや(明瞭区分性)、引用箇所をすこしだけ(主従関係)に

コメント [y168]: 具体的にどういうことですか? 「思い」が客観的な根拠を得た、ということならそれでよいですが、客観的な事実と反しているにもかかわらず「思い」に固執するのは、「愚かな頑固者」ということになります。

コメント [y169]: 授業でも言いましたが、知らないことについて興味や関心を持つことはできません。知ることが興味や関心よりも先に立ちます。大学の授業はそのためのきっかけとなります。

しなければならない。また、出所表示では、読者が出典を速やかに確認できるように。ウェブページの場合は、制作者や、ページのタイトル、URL、閲覧日時を書き、本の場合、著者、タイトル、出版社、出版年、ページを書き、論文の場合、著者、タイトル、掲載誌名、出版年、ページなどを書く必要がある。引用は自分の問題意識を解決するという目的で使わなければならない。引用が大部分を占めないようにするためには、あえて反対意見を探してみるなど、情報源を1つしか見るようなことがないようにすればよい。上記のようにして論文やレポートを書けばよい。

今回の授業から、論文やレポートを書くには偏りすぎない広い知識が必要だと感じた。というのは、自分の意見を述べる際に根拠を明確にするためには知識がなければ引用的働きをするものがないということなので、自分の意見に説得力がなくなってしまうからだ。また、客観的思考が必要とされる論文やレポートでは、普段から客観的意見を取り入れていなければ説得力の薄い論述になってしまう。よって私は普段からニュースや新聞などから、社会の動向や世論についてしっかりと知っておくことが必要だと考えている。このように、論述やレポートをわかりやすく根拠づけてしっかりと書くためには一朝一夕では培うことができないものが必要であると感じられた。

しかし、このようにできるだけ努力を実行したとしても、時々自分の知識不足や、苦手とする分野の論文やレポートの課題が課されることがあるだろう。その時はどのようにすれば上手で説得力がある論文やレポートを作ることができるのだろうか。また、興味をなかなか持つことができない分野の論文やレポートではどのようにすれば意欲的に取り組むことができるのだろうか。それが今回の質問だ。自分が興味のある分野では日々無意識といっても過言でないほどアンテナを張って知識を即座に吸収することが簡易だが、苦手な分野では興味を持つことが難しく、解決策が見つげにくいと感じたため質問とさせてもらった。

冒頭の「SIH 道場」と「総合科学入門講座」の説明で初めてこれらの違いを理解した。論理的思考の養成という共通の面を持ちながらも SIH 道場のほうは大学の導入部分であり、総合科学入門講座は「課題発見ゼミナール」の基盤となるものなのである。

そして、授業コメントの書き方の説明で気になったのが「理解したことを具体的に書く」というところである。一度説明されたことを何度も読んでくどくないだろうか、と。確かに理解の程度は把握できるかもしれないがどの範囲で具体的に書けばいいのかが分からずに具体例を書けず、短い文章になってしまうのではないか。

今まで言われてきた「考える」は「自分の頭の中の知識を引っ張り出して文章を考える」というような意味で使われてきたが大学では外部からの情報を収集し、それを自分の理解したこと、あるいは自分の考えを根拠づけるものとして捉えていかなければならないのだ。そういった根拠が無ければ論文やレポートは書けない。

コメント [y170]: 調べ、知り、書き、書き直す。それ以外にありません。興味関心については上のコメント y169 を参照。

コメント [y171]: 私のことならご心配なく。

コメント [y172]: どういうことですか？  
「具体例の範囲」ってどういう意味？それが分からないとどうして文章が短くなるのですか？

つまり根拠のない思い付きや単なる感想では論文にはならないのである。小論文と論文の違いでも分かるように論文は「根拠を調べたうえで書く」ものであってそうでないものは論文とは言えないのである。

引用するうえで守らなければならないことは出所表示と明瞭区分性、主従関係である。出所表示とは誰がどのページでいつ書いたものなのかを読者が確認できるようにするためのもので、ページ制作者が不明の場合責任が取れないため引用には使えないのである。明瞭区分性は引用した部分を「」で括って明示することであり、主従関係は引用部分がそうでない部分より多くなることのないようにするということである。引用はあくまで自分の問題意識を解決する目的で使うということだ。

主従関係が多くなってしまふ原因は情報源を多く見ず、一つに固執しているからである。それを防ぐにあたって意識したいのは「あえて反対意見を探してみる」ことである。そうすると社会的・学問的に論じるべき点、つまり賛否両論がある問題点が見つかるのである。

論文では結論をうやむやにしたり、考えを放棄したりしてはいけない。まだ正解が見つかっていないからと言って誤魔化すのではなく、自分が決めた主張を論じるのである。

最後に、文章を書く上で大切なことは反復練習である。技術は何もせず身につくわけがなく、地道な反復練習によってのみ身につくのである。

私は論文と小論文の違いや引用とコピペの違いをこの授業を受講するまで、あまり理解していなかった。論文と小論文とでは、根拠の有無に違いが~~な~~あり、コピペと引用では、出典の表示に違いがあることが分かった。

また、結局〇〇思考という発想に陥りがちだが、根拠を調べたうえで自分の意見を書くことが大切である。

先生は自分の興味関心で論文を書いてはいけないとおっしゃっていたが、私は自分の興味関心のあることを題材にして書きたい。なぜなら、自分の興味のあるほうが研究の意欲が増し、そこからまた、今現状問題となっているもののヒントになるかもしれない。

私は論文・レポートを書くときは、一個人の意見として責任をもって書きたい。

例えば「今回レポートの書き方を学び、しっかりと自分の意見を書かなければいけないと感じました」という文があるとす。これはレポートではなく感想文だ。レポートのような説得力のある文章を書くには、なぜそうなのかという論理的な根拠を示さなくてはならない。

まず、高校までの感想文や小論文と、レポート・論文との違いを考えると、高校までの文は課題について何も調べなくても書くことができるのに対し、レポート・論文は客観的根拠を調べた上で書かなければならない。物事に対する感想だけなら誰でも持つことが出

コメント [y173]: 引用 (ないしコピペ)、の間違いでしょう。

コメント [y174]: コメント y160 を参照。

コメント [y175]: 具体的にどのように書くのですか？

論文やレポートでは、「一個人の意見」ではなく、「誰が読んでも正しい(と自分が確信している)」ことを書いてください。

来る。また、小論文では、その場で自分の知識だけを使い文章を書かなければいけないので、入試会場で調べ物をするわけにはいかない。しかし、自分の頭の中にある知識には限りがあり、どうしても一面的になりやすく、思い込みも出てくる。そこで、レポートでは幅広く様々な面から調べ、そこで出てきた考えには、なぜそのように考えるのか客観的な根拠が必要なのだ。

そして、客観的根拠を示すには自分の調べたものを書かなければならないが、調べてきたものをそのままレポートに書き写しては、いわゆる「コピペ」になってしまう。「コピペ」ではなく「引用」にするには、しっかりと出典を明記し、その後に必ずそれを踏まえて自分の考えを書かなければならない。調べたものを出すのは、あくまで自分の主張の裏付けやサポートなのだ。

しかし、これらは書き方の問題であって、実際に書けるようになるには繰り返し練習が必要だ。自分が書いた文章を読み返し、根拠のない部分は掘り下げて考えたり、納得のいかない部分は書き直していくことで、自分の考えがよりハッキリと書けるようになっていく。これが論理的なレポートを書く上で重要な過程だ。

まず最初に、総合**化学科学**入門の日程や教室変更の話聞いた。次は Web ページの内容、配布資料は自分で印刷をすること。

授業のコメントの書き方で感想ではなく、(客観的な根拠のある論理的な主張)で書くことである。

説得力のある文章を書く能力。考えるとは、調べ、知り、書き、読み直す、書き直すの繰り返しで文章ができる。

論文・レポートは根拠のない思い付き、単なる感想ではダメ。高校までの学習とは全く異なり-「似たもの」と混合しないこと。

小論文は、その場で書き 論文・レポートは、調べたうえで書く。

調べ学習との違い

調べたことを報告し「正解」を探す 論文・レポートは、賛否両論、まだ正解の見つかっていない問題の話題との違いがある。

コピペは引用であることを示さない。また、引用は 1 出典を明記する。(出所表示)<sup>2</sup> 引用箇所をカギかっこでくくって明示する。(明瞭区分性)<sup>3</sup> 引用箇所は少しだけ。(主従関係)である。

出所表示は読者が速やかに確認できるようにすることが大切である。

ポイント 情報源を一つに絞らず、あえて反対意見を探してみる大切である。

「自分の興味や関心」で書かないこと!

ダメな論文の例では小論文で習った結論では、論文・レポートでは全く違う

「人それぞれで決めればよい」-あなたが決めた主張を論じる。



「真剣に考えるべきだ」・レポートを書く段階で実行しておくべき。

「最近の学生は・・・」・他人事っぽい。 etc

授業の質問は今のところありません。授業が詳しくてわかりやすかったからです。

でも、ひとつだけ小テストのとき少しでいいのでゆっくり話してください。早すぎて前の問題とかぶってパニックになります。

今回の授業では、論文・レポートの書き方を学んだ。論文・レポートというものは、感想を書くのではなく、客観的な根拠のある論理的な主張を具体的に書く必要がある。また、頭の中で考えるのではなく、しっかりと調べることで説得力のある文章を書くことも必要となる。さらに、引用するときには出所表示など示すべき情報を示す必要がある。これからの大学生活の中で、論文やレポートを書く機会は多くあるだろう。だから、今回学んだことを生かし、きちんとした論文・レポートを書いていきたい。

私は授業を受けて、「課題」レポートを書く必要性はあるのかと思った。

なぜなら自分の興味のあるテーマならまだしも、そうではないテーマについてレポートを書くことは将来のための力になり得ないと思うからだ。

様々な「課題」レポートのために毎回考え方の浅い問いと答えを作り中途半端な知識を付ける位なら、1年生の内から自分の関心のあるテーマについて専門的にレポートを書く方がより論理的思考力が高められるのではないだろうか。

今回の授業は、説得力のある文章を書くというテーマだった。ただ思いついた言葉をそのまま文章にして書くのではなく、試行錯誤を繰り返して文章を作るということを学ぶことが出来た。高校生の時は感想文という形で文章を書く機会が多かったが、大学生は明確な根拠を持って自分の意見を言うべきだ。これから総合科学入門講座で学習していくにあたって、こういった能力をしっかりと身につけたい。

今回の授業は入学前から行われていたSIH道場の一環であり、「学術的発想と書き方」と銘打たれたものだった。パワーポイントと穴抜けのプリントを使い、重要な単語を空白に埋めるという高校時代に散々慣れ親しんだ形式である。

授業の内容としては、具体的にレポートや論文と小論文などの違いを示し、論理的な文章を書くためのポイントを知ることができるものだった。例えば大学受験の前に必死で練習をした小論文は、突如として問いを与えられ根拠を調べることもなく自身の偏った知識

**コメント [y176]:** スクリーンにも問題が表示されていますから、それほどパニックにならなくてもよいと思いますが。それに、今回は、行きがかり上、同じ問題を二回提示しましたよ。

**コメント [y177]:** いきなりそんなことができるわけがありません。まずは毎回の課題レポートで地道な練習をしましょう。世の中、自分の好きなことだけやって生きていけるほど甘くありませんよ。自分のやりたいことでなく、やらなければならないことをやるようにしましょう。

のみで茫漠とした結論を出すものだが、それに対して論文やレポートは調査によるはっきりとした根拠を基に未だ正解の見つからない問いに自分の見つけた答えを示すものであると分かった。

今回の授業により引用とコピペの違いを理解することができたが、私には一つ疑問がある。レポートの大部分が引用になってしまうことへの対策として反対意見を探すことが上がっていたが、仮にそれらを対比したところで生み出された考えは果たして自分のものと言えるのだろうか。先人の知恵や発見を土台とし、新たな考えを生み出すことが当たり前なのだという事は分かる。しかしそれならば自分の知識は全て誰かの考えの引用で、多くの文書を読み、生まれた考えも結局は何かの引用を切り貼りして継ぎ合わせただけのものではないのだろうか、と私は思う。

#### ・授業内容まとめ

今回は初めての総合科学入門講座ということでレポートを書くときの注意点やコピペと引用の違い、レポートを書く上での論理的思考を教えてもらいました。

特にコピペについては、とにかく引用先の情報を明記するという事教えてもらいました。

#### ・質問

説得力のある文章を書くことについて、そういった文章を書けるようになるにはどういった所に気をつけるのか、また参考にした方がよい参考書や文献は？

#### ・理由

社会に出て自分の意見を言うときに重要であり、周りの人たちにも共感させるのも大切であるからです。大学では高校と違い自分の事は自分でしなければいけない、また勉学として友達と談義する、こういった場面でも大切であるからです。

今回の授業の目的は「論理的思考力の養成の一歩」と「考える」ということの意味についてということであった。具体的にいうと「論理的思考力の養成」とは、「説得力のある文章を書く能力を養う」という事であると言っていた。また、「考える」という事は頭の中で考えるという事ではなく、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直すの繰り返しによって文章を作成すること」であるということであった。

そして次に、「論文・レポートとは何か?」という内容であった。まず、高校生までの感想文・小論文との違いを教えてもらった。具体的には、感想文が思いつきなどに対し、論文などは根拠というものを示すということであった。また、何も調べずにその場で書く小論文と論文は全くの別物でだということを教えてもらえた。そして、論文などのテーマは賛否両論の話題やまだ答えが出ていないようなものが好ましいと言っていた。そしてそのテ

**コメント [y178]:** そんなことはありません。

「調べ、知り、書き、書き直す」ことをくり返して、考える力が身につけてくれば、新たな考えを生み出すことができるようになります。そして、これまでとは違ったものが見えてきます。でも、それは、自分自身でその力を身につけないと、見えません。私に見えているものを、あなたに見せてあげることにはできないのです。というわけで、まずは地道に練習してください。

**コメント [y179]:** まずは教科書を活用する。

それから地道な練習。普段からたくさん本を読む。

テーマを設定した目的を意識し、自分なりの答えを導き出すということが重要なのだという。そして、コピペと引用の違いも語ってくれた。まず、コピペは引用したことを示さないということである。そして、引用は第一に出典表示(出所表示)、第二に引用箇所をカギカッコで括って明示(明瞭区分性)第三に自分の問題意識を解決するという目的で引用利用するため、引用箇所は少なくする(主従関係)ということをするのであると言っていた。この三つのポイントを満たせば引用ということになり、論文やレポートをよりよくできるのである。さらに出所表示で示すべき情報を教えていただいた。まず、「ウェブページ」の場合はウェブの製作者・ページのタイトル・URL・閲覧日時であり、「本」では、著者・タイトル・出版社・ページ・出版年、論文ならば著者・タイトル・掲載雑誌名・出版年・ページであるということであった。続いて、学生が大部分が「引用」になってしまう理由を教えてもらった。理由は情報源を一つしか見ていないからだという。それを解決するためには、あえて反対の意見を探してみるということが重要であるということであった。さらに、「論じるべきこと」を発見することも重要であり、賛否両論が対立している問題では社会的・学問的に論じるべきであり、その「問題」を解決するという目的で書くために「引用」を用いるということであった。そして、論文やレポートを書くときの最初の判断材料に自分の興味・関心で書かないようにすることは意識すべきだとも教えてもらった。そして、ダメな結論の例を教えてもらった後には、結論として最も重要なことはレポート・論文には反復練習をしていくということが続けていけば、上達するということも教えてもらった。

今回の授業を通して私は「根拠」を調べるということで教授にお尋ねさせていただきたいと考える。例えば体外受精などの生命倫理が絡んでくる問題をテーマにしたときに、賛否両論であるという点を満たしており、また賛成か反対か自分の結論を確定しやすいという点から適切なテーマだと考えられる。しかし、このような生命倫理の答えにつながるような根拠というものは、どれも当たり障りがなく、これというような根拠染みたものが見つけにくいように感じ、そうすると自分の結論の根拠が弱くなってしまう恐れがある。なので、このような生命倫理的問題の根拠の見つけ方のコツがあるのであれば、教えていただきたい。

**コメント [y180]:** コツなんてものはありません。生命倫理の文献をたくさん読んでください。

大学の論文やレポートは説得力が重要である。そのため何度も調べ、知り、引用を用いながら客観的な根拠と共に自分の意見を明確に示す。

そこで質問がある。自分が統計を取り作成したグラフやデータと、専門家が記載しているグラフやデータは、どちらが客観的な根拠として強いのか。自分が作成する場合、都合に合わせた最新のデータを取ることが出来るが、専門家という肩書きの方が強いのか。それとも分母の大きさが関わってくるのか、ぜひとも意見をお聞かせ願いたい。

**コメント [y181]:** 統計学を学んでいますか？もしそうでないなら、そんなデータは信用できません。データの信憑性は、肩書が強い弱いという問題ではなく、統計学という学問の力です。

今回の講義では、「論理的思考力の養成の最初の一步=説得力のある文章を書く能力を身につけることである」という考えのもと、私たちが大学受験のときに書いた「小論文」とこれから先書いてゆく「論文」の違いや文章の作り方など「論じること」についての知識を学んだ。この講義の教科書のタイトルにある「コピペ」とは論文などを作成する上で引用した資料や文献を示さない行為のことである。資料などから情報を引用する際は

読者が出典を速やかに確認できるように示すべき情報を表示しなければならないのだ。ただし、引用は文全体の二割ほどに留めておくべきである。引用で満ちた文はコピペと同等の扱いとなる。ここで論じるときに重要なことは賛否の主張を具体的に表し、自分の関心や興味だけで文章を作成しないことである。「技術」はコツコツと反復練習を重ねることによって身につくものである。楽をせず、教科書をうまく活用してレポートの書き方を学んでいく。

講義を受け、レジュメを見ていて私は疑問に感じたことがある。それは「文章を書く」≠頭の中にあるものを取り出す、という部分である。私は頭の中にあるものとは、今までの自分が培ってきた知識や得てきた情報だと捉えている。文章を書く上で知識や情報が頭の中に入っていないければ自分の主張を文章という形で相手に伝えるのは至難の業ではないかと考える。

**コメント [y182]:** あなたの頭の中には、この世の中にあるものすべてに関する情報が入っているのですか？

今回の授業では、説得力のある文章を書く能力という目的で話が進められた。考えることは自分の頭の中だけの作業ではなく、ネットや本を使って調べることや書き直すことの繰り返しであるということが今回の授業の核となる点だった。

そしてレポートの締め切りについて先生は、「君達は締め切りが長いと後になってやるからね」と言った。

なぜ私達に限らず人々はいつも、ギリギリになって物事を終わらせるのだろうか。

松尾(2006)は「集中力は多くの場合、時間の制約がなければ上げにくいものであって、締め切りはそれに寄与しているから、我々はいわば締め切りのおかげでパフォーマンスを出せるわけである」と述べている(独立行政法人 産業技術総合研究所「なぜ私たちはいつも締め切りに追われるのか 2006年8月11日」, <http://ymatsuo.com/papers/neru.pdf> 2017年2月17日アクセス)。

つまり私達は締め切りが近づくことによって集中力を高めることができるが、締め切りまでの時間があると集中力を引き出せないのだ。つまり、締め切りギリギリになって焦らないようにするには、締め切りまでの時間でいかに集中力を高く保つことができるかが大切だ。

**コメント [y183]:** そうですね。それで、具体的にどうすれば、高い集中力を保つことができるのですか？

論理的な文章を書くためには、まず説得力のある文章を書く能力を身につけることが必

要だ。頭の中で考えるだけでなく、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」ことを繰り返して文章を作成しなくてはならない。大学では論理的思考力を使って論文やレポートを書く機会がたくさんある。論文やレポートは小論文や調べ学習とは違って、まだ正解の見つかっていない問題についての自分の意見を根拠づけて主張するものである。根拠のない思いつきや単なる感想を述べた文章では論文・レポートとは言えない。論文やレポートを書くときに、ウェブページや本などに書かれている文章を引用することがある。その際には必ず引用した文章の出典を明記し、それを読者が速やかに確認できるようにしなければならない。これをしないとただのコピペになってしまう。引用箇所はカギカッコでくくり、どれが引用した文章でどれが自分の意見なのかを明らかにする必要がある。また、引用は自分の問題意識を解決するためのものである。そのため必要以上に利用すべきでない。しかし論文やレポートを書くときは大部分が引用になってしまいがちである。その原因は情報源を一つしか見ていないことにある。そうならないためにあえて反対意見を探してみることも必要だ。また社会的・学問的に論じるべき点を発見し、自分の興味や関心ではなくその問題を解決するという目的を持って書くことで、自分の意見もしっかりと述べられている論文・レポートにすることができる。

そもそもウェブサイトに載っている文章をコピペしたり、友人のものを丸写しして論文やレポートを作ることは時間の無駄である。大学生になったばかりの人の多くは論理的な長い文章を書くことができない。しかし物事を論理的に考え、考えたことを言葉にして人に伝える技術は、就職してからや人付き合いをするときに必要である。その技術を培うために論文やレポートを書くのである。コピペした文章をつなぎ合わせて論文やレポートを書いた場合、その場しのぎにはなるかもしれないが、論理的に考えてそれを言葉にする力は身につかない。それでは論文やレポートを書く意味がない。そのため大学生は時間をかけてでも自分の力で論文やレポートを書き上げるべきである。

コメント [y184]: そのとおりですね。がんばってください。

#### SHISHI 道場 総合科学入門講座 導入 レポート

今回の授業では、論理的思考力の養成の最初の一步として、説得力のある文章を書く能力を習得するために必要な、内容の濃い授業が行われた。

まず、論文・レポートとは、単なる感想や根拠のない思いつきを書くのではなく、自分の意見を根拠づけて主張するものである。これは、他者と対話するために必須の能力である。しかし、自分の意見を主張するとは言っても、入試の「小論文」とは異なる。入試では、何も調べないで書くが、論文は根拠を調べたうえで書かなければならない。まだ「正解」の見つかっていない問題に対し、自分で「正解」を探し、見つけるのである。

また、その「正解」を探す際に気をつけなければならないのが、コピペにならないようにすることである。引用は必要に応じて使用するが、その引用を文中に示さなければ、コピペになってしまうのである。引用する際には、出典を明記する「出所表示」と引用箇所

をかきかっこでくる「明瞭区分性」を行わなければならない。読者が出典を速やかに確認できるように、web ページからの引用であれば、製作者やページのタイトル、URL、閲覧日時を示し、本や論文からの引用でも情報を示す必要がある。

次に、大部分が「引用」になってしまうという問題がある。原因は、一つの情報源しかみていないからである。自分の興味関心で論を進めずに、あえて反対意見を探し、「論じるべきこと」を固定することで、社会的・学問的に論じることができるのである。

つまり、論文を書く際には、普段考えていることを一度見直すことから始めるべきだ。日常で自分が考えていることをそのまま論じていっても、説得力のある文章にはならないからだ。それまでにどれほど考えが固まっても、一度立ち止まり、あえて違う方向から考えたり、情報を収集したりすることが重要である。広い視野をもった状態で、再度自分の論を進めると、自分の考えがかわるかもしれない。それゆえ、それまで見えていなかった点まで指摘することができ、説得力がより高まるのだ。

今回の授業では、引用の仕方など、レポートの書き方を学んだ。引用するときには、「出所表示をし、引用箇所を明確にし、そして、引用箇所が多くなりすぎてはいけない」ということに注意しなければならないということを理解した。また、出所表示では、「本から引用する場合には、著者、タイトル、出版社、出版年、ページを明記する」ということを理解した。また、小論文と論文とは、違うものであるということも理解した。「小論文は、何も調べないでその場で書くもの」であるのに対して、「論文やレポートは、根拠を調べたうえで書くもの」であるということを理解した。また、「大部分が引用になってしまうということがないようにするために、あえて、自分とは反対の意見を探してみる」ということも理解した。(山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』新曜社,2013,p.34, p.51)

引用するには、**多くの書物を読まなければならない**と考える。いろいろな本を読むことで視野が広がり、様々な考え方に触れることで、これは違う、などと自分の考えも広がっていくと考えられるからである。

コメント [y185]: そのとおりです。実行してください。

論理的思考力の養成には、説得力のある文章を書く能力が求められる。説得力を持たせるために、考えて文章を書かなければならないので、自分で「調べ・知り・書き・読み直し・書き直すことの繰り返しによって文章を作成すること」(山口裕之・SIH 道場第 15 回 総合科学入門講座 導入 学術的発想と書き方・<http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/shin-kokusai/scienceandhumanity/2017/0414/introduction.pdf>・2017/04/16 閲覧)が必要である。レポートは根拠を調べて書いたり、賛否両論のある話題、正解の見つかっていない問題を書いたりする点で入試の小論文や調べ学習と異なっている。

また、レポートで引用をする場合は、引用の出典表示をしなければならず、出典表示・引用箇所・引用局所を明記する必要がある。出典表示は読者が速やかに確認できるように表示しなければならない。さらに、レポートの大部分が引用になってしまわないように、反対意見を探し、論じることを見つけなければならない。良いレポートを書くためには反復練習が必要である。

「「考える」≠頭の中であれこれと考える」(山口裕之・SIH 道場第 15 回総合科学入門講座 導入講座 学術的発想と書き方・<http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/shin-kokusai/scienceandhumanity/2017/20170414introduction.pdf>・2017/04/16 閲覧)と学んだが完全に≠ではない。なぜなら、考えるという言葉は、「あれこれとをめぐらす」(デジタル大辞泉・小学館)という意味もあるからである。確かに、分からないことをいつまでも頭の中で考えるのはあまり意味のないことである。しかし、始めから考えることをしないのは良くないことだ。頭の中で考えてとりあえず自分の意見を導き出し、そのあとに文献などを参照することの方が重要だ。だから、考えるというのは完全には頭の中で考えることと≠ではない。

私は徳島大学の後期試験の小論文を受けました。小論文の書き方はその経験もあつてある程度身に付いていたので、レポートも小論文と大体同じようにやればよいと考えていました。しかし、今回の講義で小論文とレポートのある違いについて学び、同じように書いてはいけないのだと思い知らされました。それは、小論文はその場でなにも調べずにいきなり書くものであるのに対し、レポートは自分の考えの根拠となるものを調べた上で書くものという違いです。ただ、調べたところ段落構成という点では小論文もレポートもほぼ同じですので、その点ではレポートを書く際には小論文の勉強を活かしていきたいです。

授業の内容としては、論文の基本的な規則や考え(客観的な)、高校の頃との違いを学びました。いまだ、コピペを引用に変えるのを忘れてしまいそうなので、他の授業で出されるレポートを利用し練習していきたい。

先生は講義内で「ダラダラとレポートを書いている人がいて大変読みづらい」とお話されていました。しかし、私はどちらかというと自分の中で物事を自己完結してしまう癖があり、(他人に言わせれば)必要な場所まで切り取ってしまい、高校の頃の教師に「もっとダラダラと書け」と注意されていました。

後期の小論文で徳島大学に入学し、先生に注意された通り「ダラダラ」と書きました。しかし私の中では「こんなにダラダラとスマートに書かずに気持ちが悪い」と思っていました。

きれいに無駄な部分だけ切り落とし、必要な場所(他人が私の論文を見た際理解できるよ

**コメント [y186]:** 知らないことについて意見を導き出すことはできません。にもかかわらず、きちんと調べる前に「意見」を決めてしまうと、それに引きずられて、その「意見」に都合の良い情報だけを集めてしまいがちです。

**コメント [y187]:** 「頭から書き流して、一度も読み直さなかったような文章は読みづらい」と言いました。あなたの高校の先生が言う「ダラダラ」とは意味が違うようです。

うに)を残すにはどうしたら良いでしょうか。自分の中では違和感がぬぐい切れません。

私は、総合科学入門講座で、論理的思考力の養成と物事の多面的理解の2つが重要であると学んだ。今回の授業では特に、論理的思考力の養成について考えた。例えば、頭の中で考える小論文や調べたことを報告する調べ学習とは違う、根拠や説得力のある文章を書く能力を身につけるのが良いということである。また、引用には、出所表示、明瞭区分性、主従関係の3つのポイントがあることを学んだ。このように、大学では、今まで高校でやってきたこととは違い、根拠をしっかりと調べ、自分の意見を主張していかなければならない。

私が今回の授業を受けて質問したいことは2つある。1つ目は、結論の出し方についての質問である。それは、自分の意見とは反対の意見を知り、それぞれの意見に納得できる根拠がある時、どのように結論を出すのがよいかということである。「人それぞれで決めればよい」という結論は、ダメな結論の例として挙げられていたこと、両方の意見を聞いて、自分の意見が決められなくなった時にどのように結論を出せばよいかを知りたいと思ったことが質問をする理由である。2つ目は、コピペに関する質問である。それは、パソコンで調べるときに利用するあるページの文章をつなぎ合わせたものをレポートや論文で使うと、コピペとみなされるが、単語のつなぎ合わせはコピペとみなされるのかということである。利用したページにしか使われていないような単語で、どのページを利用したかが特定できる場合には、単語など短いものでもコピペとみなされるのかを知りたいと思ったことが質問をする理由である。

4月14日の授業では、「コピペ」と言われたいための、レポートの書き方について学びました。それには、3つのステップがあります。購入した教科書によると、「情報を利用するときは、引用部分をカギかっことで示し、かつその情報源(出典)を書いておくこと」(『コピペと言われたいレポートの書き方教室』山田裕之)とあります。「主従関係」・「明瞭区分性」・「出所表示」が、レポートを書くにあたり必要となります。授業の最後に購入した教科書を何度も読むことが大事であるとおっしゃっていました。実行しようと思います。

質問です。教科書によると出典で書く項目が多いですが、どのくらい書けばいいでしょうか?わかる範囲は全部書くべきですか?

レポートは何行くらいが目安になりますか?

今回の総合科学入門講座では、「大学入門講座」シリーズの目的やこれからの日程、宿題や論文やレポートとはどのようなものか、ということなどが説明された。

**コメント [y188]:** まず、たくさん調べること。それから、調べた内容をまとめたノートを作ること。そのノートを読み返して、それらの内容をどのように配列しレポートにするのが良いか、箇条書きで構成を作ってみる。できあがった構成を読み直して、もう一度、なるべくシンプルな論理展開になるように、圧縮した箇条書きを作ってみる。その次に、その圧縮した箇条書きの項目一つ一つについて、その内部構成(下位区分)を、箇条書きにしてみる。こういう作業を繰り返すことで、内容を整理してから書くのが良いでしょう。

**コメント [y189]:** 具体的に、どういう問題なのかによって異なるでしょう。「対立した意見のどちらかに決める一般的な方法」はありません。

**コメント [y190]:** 具体的にどういうことですか?ある学者が提唱したオリジナリティのある概念(単語)を使うときには、その出典を明記すべきです。

**コメント [y191]:** どなたでしょうか?

**コメント [y192]:** 全部書いてください。

**コメント [y193]:** そのレポートを出した担当の教員に聞いてください。この授業コメントについては、2,000字まで書けるように枠を設定しています。



最初に「大学入門講座」シリーズには、SIH 道場、総合科学入門講座、課題発見ゼミナールの三つがあると説明された。SIH 道場では、大学で学ぶ心構え・履修手続き・友達作り・論理的思考力の養成を目的としている。総合科学入門講座では、論理的思考力の養成・物事の多面的理解を目的としている。後期にある課題発見ゼミナールでは総合科学入門講座の二つの目的の**実践実践**練習をすることが目的である。

次にこの講座の日程や授業のウェブページ、授業コメントについての説明を受けた。授業コメントは単なる感想ではなく、客観的な根拠のある、論理的な主張を書きなさいとの指示を受けた。

そして、今日の講義の目的へと話は進んだ。今回の目的は、論理的思考力の養成の最初の一步である説得力のある文章を書く能力をつけようというものだった。このような能力を身につけるためには、「調べ、知り、書き、読み直し、書き直す」というプロセスを繰り返す、文章を作成することが必要だと説明を受けた。このプロセスをより詳しくすると、「嘘かどうかを判別できるまで調べ、理解し、書き、書いたものを親や友達や先生に読んでもらい、書き直す」というプロセスである。説得力のある文章を書くために、まず情報を得て知ることが必要であること、意見である文章は抽象的ではいけないこと、書いたものを他人に読んでもらい書き直しを繰り返すことが必要であることが理解できた。

次にコメント・レポートの書き方についての説明を受けた。主な説明の内容は『コピペと言われないレポートの書き方教室』という教科書についてと、この教科書を読み返し活用することで「書く技能」を習得してほしい、というものだった。

論文・レポートとはなにか、という説明も受けた。まず第一に、根拠のない思い付きや単なる感想でなく、自分の意見を根拠づけて主張するものである。この時にきちんと「事実」を確認して客観的に正しい結論を主張することが大切である。第二に他者と対話するために必要な能力である。そして第三に高校までの学習と全く異なるものである。目的をきちんと意識し、「高校までの学習と似たもの」と混同しないことが大切であることが理解できた。また、小論文や調べ学習との違いについても説明を受けた。小論文との違いは根拠を調べたうえで書くかどうか、調べ学習との違いは賛否両論のある話題やまだ正解のない問題に対して自分が決めた「正解」を書くことである。また、論文やレポートを書くときに大切な引用とコピペについての違いについても説明を受けた。コピペは引用であることを示さない、一方で引用は出所表示、明瞭区分性、主従関係を示す、と説明された。出所表示とは出典を明記すること、明瞭区分性とは引用箇所を明示すること、主従関係とは自分の問題意識を解決する目的で引用を利用することである。またこの時、引用箇所は少しだけにしななければならないと説明を受けた。悪い例として、「ハイブリッド車の問題点」という論文を見ながら説明を受けた。引用がきちんとできていないこと、少し言葉を変えたり文末の表現を変えただけではコピペと何ら変わらないということを理解した。その後、出所表示に示すべき情報について学んだ。示すべき情報は、読者が出典を速やかに確認できる情報であると説明を受けた。ウェブページ、本、論文ごとにそれぞれ示すべき情報が

異なっていた。

また、なぜ大部分が引用になってしまうのか、またそれを防ぐためにどうすればよいかということも学んだ。情報源を一つだけにせず反対意見も探してみたり、社会的・学問的に論じるべきことを発見することが大切であると学んだ。

最後に、大切なことは「反復練習」であると学んだ。何でもうまくいくような便利な言葉などは存在せず、地道に実直に練習を重ねることだけが、「技術」を身につける方法だと理解した。

今回の授業を受けて、一つの疑問が生じた。それは電子辞書の出所表示はどのように示すのが正しいのか、ということである。今の大学生は高校の時や、大学に入る際に電子辞書を購入する人がほとんどである。そのため、論文やレポートを書く際に電子辞書から情報を引用したいと考える学生も多いことだろうと予測できる。だからこそ、電子辞書からの情報の出所表示に示すべき情報を正しく知ることは大切であると考えた。ぜひ教えて頂きたい。

今回の授業では大学生に必要な文章の書き方の基礎の考え方について学んだ。大学生活の中でレポートや論文などを多くの場面で書くことになると思う。説明を聞いて私たちが今まで書いてきた感想文や調べ学習におけるレポートとは全く違うものであることが分かった。論理的な文章、つまり説得力のある文章を書くことが大切である。自身の考えを多くの人に伝えるには話し言葉や曖昧な言葉ではなく論理性のある整った文章を書かなければならないからだ。購入したコピーと言われないレポートの書き方教室をよく読んでこれからの学習に生かしていけるようにしたい。

4月14日の総合科学入門講座では、レジュメを用いて授業の概要や授業日程の説明が行われた。総合科学入門講座における目的は「論理的思考の養成」と「物事の多面的理解」であり、第一回目の今回はレポートの書き方についての講義が行われた。特に「コピーと呼ばれないレポート」のための正しい引用の仕方や、文章における引用の割合について詳しい説明があった。

この「授業コメント」の書き方についても説明が行われ、「客観的な根拠のある論理的な主張」の書き方として、授業の内容のまとめを書いた後に内容に関する意見や質問とその根拠や理由を書くという説明が行われた。

今回のこのコメントにおいて、レジュメよりいくつかの単語や言葉を引き抜いて用いた。このような場合にも引用やコピーといった考え方は適応されるのだろうか。講義においての引用は一文を用いたものであったため、単語や短い文節単位での場合や、一つの出典から分けて引用する場合の対処方法が気になった。

**コメント [y194]:** ふつうは、紙の辞書を電子データ化したものが入っています。もともとなつた紙の辞書の編者『題名』出版社、出版年、ページ数（辞書なら項目名でもよい）を書いてください。といっても、レポートで単語の意味を説明するような場面はあまりないように思います。

**コメント [y195]:** 「論文やレポート」というほどの厳密性は求めていませんので、「授業のレジュメに～と書いてあった」程度の表記でわかります。要は、読む側（基本的には教員）が、出典を確認できればよいのです。

なお、この文章のカギカッコ内は全て第一回の総合科学入門講座で配布された山口裕之の「SIH 道場第 15 回学術的発想と書き方」より引用した。